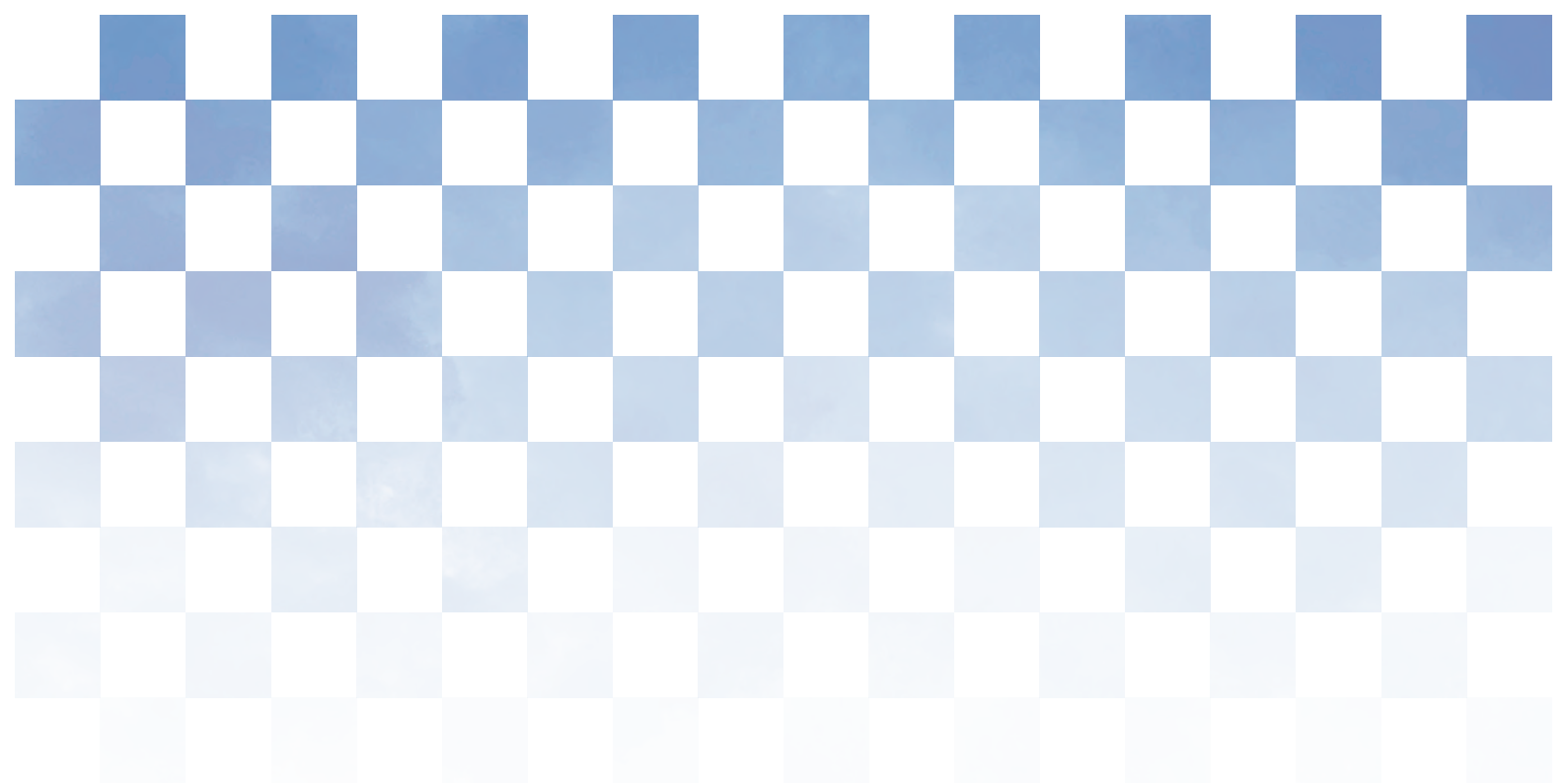
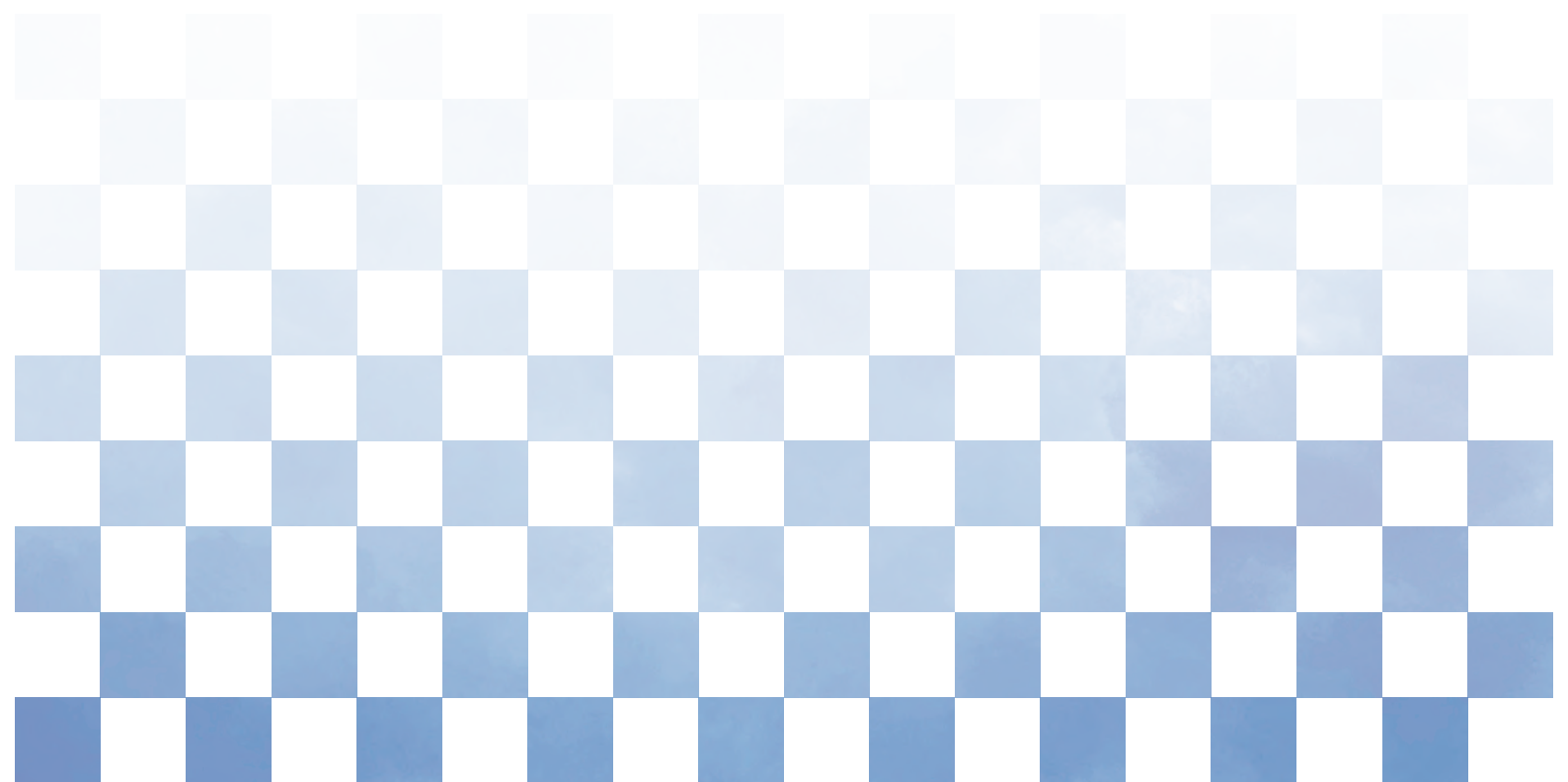




総合案内 2026



CONTENTS

沿革	2
建学の理念ならびに使命と目的	4
教育研究上の目的	4
教育方針(三つのポリシー)	5
学部／学科	7
大学院	18
通信教育課程／別科	20
附属施設・附置機関	21
教育機構	22
事務機構	23
役職者／教員・職員数	24
入試・入学状況	26
在籍学生数	29
卒業生・学位授与者・修了者数	32
進路・就職	33
教員免許状・資格取得者数／実習実施者数	35
国家試験合格率	36
宗教情操行事	37
国際交流	38
社会連携	40
課外活動	42
奨学金	43
学費	45
財務状況	47
図書館／法然仏教学研究センター	49
総合研究所	50
宗教文化ミュージアム	50
外部資金／土地・建物面積	51
同窓会／教育後援会	52
キャンパス・附置機関マップ	53

学 章



本学が建学の理念の拠り所としている浄土宗をひらかれた法然上人の生家の家紋であった杏葉に大学の文字を配したものです。
仏教の精神、浄土宗創建の理念に基づき、世界の福祉と文化の向上に貢献する人材の養成を旗印としています。

ロゴマーク



佛教大学の「佛」という漢字と、アルファベットの「B」がモチーフ。人と人が、手を差し伸べ互いを支え合い、つながる様子をイメージしています。ボールドのゴシック体をベースにして、堂々と力強く成長していく姿を表現しています。

マスコットキャラクター

開学100周年記念事業の一環として、有志の学生グループが中心となり制作に取り組みました。学生たちの熱心な活動が実を結び、2010年10月23日の創立記念日に公式マスコットキャラクターとして発表されました。また、ネーミングは1,400件を超える応募の中から「ぶったん」と決定しました。



学 歌

作詞：小西存祐 作曲：吉田恒三（1936年4月制定）

一、 高輝る千古の都	二、 礎られぬ光こめたり	三、 仰ぎ見よ華頂の峰
若草の萌出るところ	黒谷の春のあけぼの	その高き教ぞ榮ゆる
ここ鷹陵の吾等が学舎	誰ぞ開く報恩蔵	げんぐち ひじりい 還愚痴の聖在ませり
ここ鷹陵の吾等が学舎	誰ぞ開く報恩蔵	げんぐち ひじりい 還愚痴の聖在ませり
ここ鷹陵の吾等が学舎	誰ぞ開く報恩蔵	げんぐち ひじりい 還愚痴の聖在ませり

学 部

仏教学部

仏教学科

文学部

日本文学科 / 中国学科 / 英米学科

歴史学部

歴史学科

歴史文化学科

教育学部

教育学科 / 幼児教育学科

臨床心理学科

社会学部

現代社会学科

公共政策学科

社会福祉学部

社会福祉学科

保健医療技術学部

理学療法学科 / 作業療法学科

看護学部

看護学科

大学院

文学研究科

仏教学専攻 (修士・博士後期)

文学専攻 (修士・博士後期)

歴史学専攻 (修士・博士後期)

教育学研究科

生涯教育専攻 (修士・博士後期)

臨床心理学専攻 (修士・博士後期)

社会学研究科

社会学専攻 (修士・博士後期)

社会福祉学研究科

社会福祉学専攻 (修士・博士後期)

別 科

別科(仏教専修)

通信教育課程

学部(本科)

- | | | | |
|---------|---------|------------------|----------------|
| ■仏教学部 | ●仏教学科 | 浄土・仏教コース／仏教文化コース | |
| ■文学部 | ●日本文学科 | ●中国学科 | ●英米学科 |
| ■歴史学部 | ●歴史学科 | 日本史コース／東洋史コース | 西洋史コース |
| | ●歴史文化学科 | 考古学・地理学コース | 民俗学・文化人類学コース |
| | | | 芸術文化コース／京都学コース |
| ■教育学部 | ●教育学科 | ●幼児教育学科 | |
| ■社会学部 | ●現代社会学科 | ●公共政策学科 | |
| ■社会福祉学部 | ●社会福祉学科 | | |

大学院

- | | |
|-----------|-------------------------|
| ■文学研究科 | 仏教学専攻(修士・博士後期)／文学専攻(修士) |
| | 歴史学専攻(修士・博士後期) |
| ■教育学研究科 | 生涯教育専攻(修士)／臨床心理学専攻(修士) |
| ■社会学研究科 | 社会学専攻(修士) |
| ■社会福祉学研究科 | 社会福祉学専攻(修士) |

その他の課程

- | | |
|------------|------------------|
| ■課程本科 | 教員免許取得課程・資格取得課程 |
| ■科目履修コース | 教員免許課程・資格課程・教養課程 |
| | 特例制度による幼稚園教諭免許状 |
| | 保育士資格課程 |
| ■本科入学資格コース | |
| ■免許法認定通信教育 | |

附属施設・附置機関

附属図書館 高大連携センター 宗教教育センター(宗門後継者養成道場を含む) 健康管理センター
学生相談センター 学生支援センター 教職支援センター 専門職キャリアサポートセンター 国際交流センター
法然仏教学研究センター 総合研究所 臨床心理学研究センター 宗教文化ミュージアム 社会連携センター
オープンラーニングセンター 人権教育センター 附属こども園

関連施設

(福)和順共生会 特別養護老人ホーム「和順の里」



I 沿革

1868(明治 元)年		・知恩院山内の源光院に仏教講究の機関を設置
1870(明治 3)年	1月	・知恩院山内の源光院に仮勸学場を開設
1898(明治 31)年	8月	・浄土宗制の変更により、浄土宗学本校の高等専門科を浄土宗専門学院へ改称、仮校舎を大本山百万遍知恩寺に設置
1901(明治 34)年	9月	・校舎を洛東如意ヶ獄の山麓、鹿ヶ谷に新築移転
1904(明治 37)年	5月	・専門学校令準拠に伴い、芝の伝道講習院と合併し浄土宗教大学院へ改称、京都に浄土宗教大学院専門科（分校）を設置
	10月	・浄土宗教大学院を浄土宗大学へ改称、浄土宗教大学院専門科（分校）を浄土宗大学専門科（分校）へ改称
1907(明治 40)年	4月	・浄土宗学制の改革により浄土宗大学を宗教大学へ改称。浄土宗大学専門科（分校）を宗教大学専門科（分校）へ改称
1912(明治 45)年	4月	・財団法人浄土宗教学資団設立
	5月	・【開学】宗教大学より独立。分校を廃止し専門学校令により高等学院設置
1913(大正 2)年	4月	・高等学院を佛教専門学校に改称
1934(昭和 9)年	1月	・市内上京区鷹野北町（現 北区紫野北花ノ坊町）に移転増築
1949(昭和 24)年	4月	・学制改革に伴い、佛教大学を設立、仏教学部仏教学科設置
1951(昭和 26)年	3月	・佛教専門学校廃止
		・組織変更により学校法人浄土宗教育資団設立
1953(昭和 28)年	4月	・通信教育課程開設。仏教学部仏教学科開設
1957(昭和 32)年	4月	・仏教学専攻科設置
1962(昭和 37)年	4月	・仏教学部仏教福祉学科設置
1963(昭和 38)年	4月	・通信教育課程に仏教学部仏教福祉学科開設
1965(昭和 40)年	3月	・仏教学部仏教学科、仏教福祉学科廃止（通学、通信両課程とも）
	4月	・文学部設置。文学部仏教学科、国文学科、社会福祉学科設置
		・通信教育課程に文学部開設。文学部仏教学科、国文学科、社会福祉学科開設
1966(昭和 41)年	4月	・文学部史学科設置
		・通信教育課程に文学部史学科開設
1967(昭和 42)年	4月	・社会学部設置。社会学部社会学科、社会福祉学科設置
		・通信教育課程に社会学部開設。社会学部社会学科、社会福祉学科開設
		・大学院文学研究科仏教学専攻（修士課程）、浄土学専攻（修士課程）設置
1968(昭和 43)年	4月	・文学部教育学科設置
		・通信教育課程に文学部教育学科開設
1969(昭和 44)年	4月	・大学院文学研究科仏教学専攻（博士後期課程）設置
1971(昭和 46)年	4月	・大学院文学研究科日本史学専攻（修士課程）、東洋史学専攻（修士課程）、社会学研究科社会福祉学専攻（修士課程）設置
		・通信教育課程に仏教学専攻科開設
1973(昭和 48)年	4月	・大学院社会学研究科社会学専攻（修士課程）設置
1975(昭和 50)年	4月	・文学部英文学科設置
1976(昭和 51)年	4月	・付属幼稚園設置
1977(昭和 52)年	4月	・大学院文学研究科日本史学専攻(博士後期課程)、東洋史学専攻(博士後期課程)、社会学研究科社会学・社会福祉学専攻(博士後期課程)設置
		・別科（仏教専修）設置（浄山道場開設）
1981(昭和 56)年	4月	・通信教育課程に文学部英文学科開設
		・大学院文学研究科国文学専攻（修士課程）設置
1984(昭和 59)年	11月	・四条センター開設
1986(昭和 61)年	4月	・文学部中国文学科設置
1987(昭和 62)年	4月	・大学院文学研究科英米文学専攻（修士課程）設置
1989(平成 元)年	4月	・教育学部設置。教育学部教育学科、社会教育学科、社会学部応用社会学科設置
1991(平成 3)年	4月	・通信教育課程に文学部中国文学科開設
		・大学院文学研究科国文学専攻（博士後期課程）、仏教文化専攻（修士課程）設置
		・総合研究所開設（仏教文化、仏教社会事業、歴史、心理学、社会学研究所の旧5研究所を統廃合）
1992(平成 4)年	6月	・ロサンゼルス校（B.U.L.A.）開校
1993(平成 5)年	4月	・大学院文学研究科中国文学専攻（修士課程）、教育学研究科生涯教育専攻（修士課程）設置
1995(平成 7)年	4月	・通信教育課程に社会学部応用社会学科開設
		・大学院文学研究科英米文学専攻（博士後期課程）設置
		・臨床心理学研究センター開設

1996(平成 8)年	4月	・通信教育課程に教育学部教育学科開設
1997(平成 9)年	1月	・成徳常照館（新図書館）竣工
1998(平成10)年	4月	・大学院文学研究科浄土学専攻（博士後期課程）、仏教文化専攻（博士後期課程）、中国文学専攻（博士後期課程）設置
1999(平成11)年	4月	・教育学部社会教育学科を生涯学習学科に学科名称変更
		・通信制大学院開設。文学研究科浄土学専攻、仏教学専攻、仏教文化専攻、日本史学専攻、東洋史学専攻、中国文学専攻、英米文学専攻（修士課程）、教育学研究科生涯教育専攻（修士課程）、社会学研究科社会福祉学専攻（修士課程）開設
2000(平成12)年	4月	・教育学部臨床心理学科、社会学部健康福祉学科設置
		・福祉教育開発センター設置
2001(平成13)年	4月	・文学部国文学科を日本語日本文学科に、中国文学科を中国語中国文学科に、英文学科を英語英米文学科に学科名称変更(通学、通信両課程とも)
		・大学院教育学研究科生涯教育専攻（博士後期課程）設置
		・通信教育課程に大学院文学研究科国文学専攻（修士課程）、社会学研究科社会学専攻（修士課程）開設
2002(平成14)年	2月	・学校法人華頂学園との法人合併認可
	4月	・大学院教育学研究科臨床心理学専攻（修士課程）設置
2003(平成15)年	4月	・通信教育課程に大学院文学研究科仏教学専攻(博士後期課程)、日本史学専攻(博士後期課程)、教育学研究科臨床心理学専攻(修士課程)開設
		・アジア宗教文化情報研究所設置
2004(平成16)年	3月	・通信教育課程の仏教学専攻科廃止
	4月	・社会福祉学部設置。文学部人文学科、社会学部現代社会学科、公共政策学科、社会福祉学部社会福祉学科設置
		・通信教育課程に社会福祉学部開設。文学部人文学科、社会学部現代社会学科、公共政策学科、社会福祉学部社会福祉学科開設
		・文学部中国語中国文学科を中国学科に、英語英米文学科を英米学科に学科名称変更（通学、通信両課程とも）
2005(平成17)年	4月	・大学院教育学研究科臨床心理学専攻（博士後期課程）設置
2006(平成18)年	4月	・保健医療技術学部設置。保健医療技術学部理学療法学科、作業療法学科設置
		・大学院社会学研究科社会学専攻（博士後期課程）、大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻（修士課程、博士後期課程）設置
		・通信教育課程に大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻（修士課程）開設
2007(平成19)年	3月	・財団法人大学基準協会(学校教育法第110条に基づく認証評価機関)による「大学基準」適合認定【認定期間:2014(平成26)年3月31日まで】
		・仏教学専攻科廃止
2008(平成20)年	4月	・アジア宗教文化情報研究所を宗教文化ミュージアムへ改称
2009(平成21)年	1月	・学校法人東山学園との法人合併認可
	4月	・学校法人浄土宗教育資団を学校法人佛教教育学園に法人名称変更
		・佛教大学付属幼稚園を佛教大学附属幼稚園に園名変更
2010(平成22)年	4月	・仏教学部、歴史学部設置。仏教学部仏教学科、歴史学部歴史学科、歴史文化学科、文学部日本文学科設置
		・通信教育課程に仏教学部、歴史学部開設。仏教学部仏教学科、歴史学部歴史学科、歴史文化学科、文学部日本文学科開設
2011(平成23)年	4月	・二条キャンパス開校
2012(平成24)年	4月	・開学100周年
		・通信教育課程開設60年
		・保健医療技術学部看護学科設置
2013(平成25)年	3月	・公益財団法人大学基準協会(学校教育法第110条に基づく認証評価機関)による「大学基準」適合認定【認定期間:2020(平成32)年3月31日まで】
2014(平成26)年	4月	・法然仏教学研究センター開設
	11月	・佛教大学四条センター開設30周年
2015(平成27)年	4月	・大学院文学研究科仏教学専攻、文学専攻、歴史学専攻（修士課程、博士後期課程）設置
		・通信教育課程に大学院文学研究科仏教学専攻、文学専攻、歴史学専攻（修士課程）、仏教学専攻、歴史学専攻（博士後期課程）開設
2016(平成28)年	10月	・礼拝堂（水谷幸正記念館）竣工
2017(平成29)年	3月	・紫野キャンパス整備事業完了
		・ロサンゼルス校（B.U.L.A.）閉校
	7月	・紫野キャンパス15号館 竣工
2020(令和 2)年	3月	・公益財団法人大学基準協会(学校教育法第110条に基づく認証評価機関)による「大学基準」適合認定【認定期間：2027(令和9)年3月31日まで】
	10月	・佛教大学四条センターを紫野キャンパスへ移転
2021(令和 3)年	3月	・福祉教育開発センター廃止
	4月	・総合研究所開設30周年
		・佛教大学オープンラーニングセンター（O.L.C.）開設（四条センター改称）
2022(令和 4)年	4月	・教育学部幼児教育学科設置
		・通信教育課程に教育学部幼児教育学科開設
2023(令和 5)年	4月	・佛教大学附属こども園設置（附属幼稚園から移行）
2026(令和 8)年	3月	・二条キャンパス2号館竣工
	4月	・保健医療技術学部看護学科廃止。看護学部看護学科設置

佛教大学の建学の理念ならびに使命と目的

佛教大学は、学則第1条に示す通り仏教精神を建学の理念とし、大学の責務である「人材養成」を目的とし、「教育」「研究」「社会貢献」の三領域において、仏教精神に基づく多様な活動を行いながら、世界文化の向上と人類福祉の増進に貢献することを使命として、これを達成するために相応しい教育研究組織を設置しています。

【学則第1条】

「本学は学校教育法（昭和22年法律第26号）に基き、仏教精神により人格識見高邁にして、活動力ある人物の養成を目的とし、世界文化の向上、人類福祉の増進に貢献することを使命とする」

【仏教精神】

本学が建学の理念としている仏教精神とは、仏教を開いたゴータマ・ブッダ（釈尊）と浄土宗を開いた法然上人とに共通する生き方と考え方を指します。釈尊は「私とは何か」「私はどう生きるか」そして「私は自分自身に何を期待できるのか」つまり私の生きる道＝人の生きる道を求めて修行し、その道を成就して、われわれに人として歩むべき道を説き示したのです。一方、法然上人は、末法とも呼ばれた混乱の続く不安定な時代にあって、生きることに苦しみ、天災地変や戦乱の苦しみに喘ぐ人々の中で、大乘仏教に私の生きる道＝人の生きる道を求め、自己の愚かさを自覚し、念仏の道を体得し、すべての人が等しく導かれる道を説いたのです。ブッダによってはじめられ、法然上人によって受け継がれた生き様と考え方こそ、「転識得智」なのです。それは現実の生き方の中で、常に己自身のあり方をしっかりと見つめながら、学んできた知識を人生のさまざまな場において何を為すべきか判断する力、実行してゆく力、すなわち生きる力へと転換してゆける智慧を得ることなのです。この二人に共通する生き方こそが仏教精神に他なりません。この精神にのっとり、自らも生かされている社会において、他に幸せを分かち与え、他の苦をぬぐい去る慈悲のこころをもって、自らが生きていることを活かしてゆける人材の養成を目指します。

佛教大学の教育研究上の目的

佛教大学は、使命と目的に基づいて、以下のように具体的な教育研究上の目的を設定し、大学の教育事業を展開していきます。

人材養成の目的

佛教大学は、学則第1条に定める使命を果たすために、建学の理念である仏教精神の4つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤として、社会で実際に活動するために必要な基礎的な知識や素養、専攻する学問分野における専門的な知識・技能を身につけ、学修経験を統合し、生涯にわたって学び続けながら周囲の人々と協力し、主体的に自己実現や社会貢献に向けて活動することのできる人材を養成します。

教育研究上の目的

佛教大学は、学則第1条に基づき、建学の理念である仏教精神の4つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤として、基礎的な知識や素養、専門的な知識・技能を身につけ、学修経験を統合し主体的に自己実現や社会貢献に向けて活動することのできる人材を養成するとともに、そのために必要な教育研究活動を展開し、それらを通じて社会に貢献していくことを目的とします。

佛教大学の教育方針（三つのポリシー）

佛教大学は、建学の理念に基づき、使命と目的ならびに教育研究上の目的を達成するために、ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）を以下の通り定めます。

佛教大学のディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

以下に示す力を修得するとともに、学部・学科の人材養成の目的に基づいて設定された教育課程を修めた学生に対して、本学は卒業を認定し学位（学士）を授与します。

（仏教精神）

D1 仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、専攻する学問分野の知識や技能と統合して活用することができる

（知識・理解・汎用的技能）

D2 社会人として必要な幅広い教養や、専攻する学問分野の体系的な理解に不可欠な多様な知識・技能を身につけ、活用することができる

1. 多文化・異文化に関する知識により、多様な視点で物事を考えることができる
2. 文化、自然、社会に関する知識により、体系的に物事を考えることができる
3. ICTを活用して、多様な情報を収集・分析し、効果的に活用することができる
4. 自己理解を深め、職業観を持ち、自らのキャリアを決定することができる

D3 専攻する学問分野における専門的な知識や技能を修得し、社会における諸問題を把握・解決するために、その知識・技能を活用することができる

1. 専門領域に必要な基礎的な知識や視点を習得している
2. 専門領域の深い知識や技能を習得している
3. 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現することができる
4. 社会における問題を把握し、解決に必要な情報を収集・分析し、表現することができる

（態度・志向性）

D4 社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、専攻する学問分野で身につけた知識や技能等をもとに、社会に貢献することができる

（学びと成長への内発的動機）

D5 自ら探求したい課題・テーマを見出し、目的や目標を定め、生涯にわたり主体的に学び続けるとともに、経験や実践を振り返りながら身につけた多様な能力を統合し、新たな学びへとつなげることができる。さらに、他者と協働し、共に成長する意欲や姿勢を持続することができる

佛教大学のカリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

佛教大学は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、共通教養科目、専門教育科目、その他の必要な科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期（配当セメスター）などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実技、実験、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

（1）仏教精神

仏教精神に基づいた4つの力を身につけ、専攻する学問分野の知識や技能と統合し、活用できるようにするために、共通教養科目の内に仏教・自校教育科目群を配置します。また、必要に応じて、専門科目の内に仏教精神涵養科目を配置するとともに、実践や実習、ボランティアなどの機会を提供します。

（2）知識・理解×汎用的技能

【主に共通教養で習得】

社会人として必要な教養や、専攻する学問分野の理解に必要な基礎的な知識および技能を身につけ、また活用できるようにするため、共通教養科目を提供します。共通教養科目は、グローバル科目群、データサイエンス科目群、初年次教育科目群、キャリアスタディ科目群、プロジェクト科目群、自己形成科目群によって構成します。

1. グローバル科目群は、多文化・異文化に関する知識により、多様な視点で物事を考えられるようにするために、語学・国際教養・海外研修で構成する
2. データサイエンス科目群は、ICTを活用することにより、多様な情報を収集・分析し、情報を効果的に活用できるようにするために、必修科目のICTリテラシーのほか、データサイエンスや統計学、プログラミングの基礎を学ぶ科目で構成する
3. 初年次教育科目群は、初年次学生が大学生として基本的な資質・能力を修得し、キャリアに対する意識を養うため、「スタディ・スキルズ」「キャリア・スキルズ」等の科目で構成する。また、各学部学科において、専門学習への導入を目指し、「アカデミック・スキルズ」を提供する
4. キャリアスタディ科目群は、社会人基礎力修得の必要性を理解するとともに、現代社会に即した幅広い職業観を養い、自己理解を深めながら、学習生活・大学生活やキャリア意識をもつことを目指し、社会人基礎力をより実践的に習得する「マイファーストキャリア」「ライフ・キャリアデザイン」「キャリア形成とマネジメント」などの科目で構成する
5. プロジェクト科目群は、主にPBL手法を用いながら、課題解決に取り組み、社会に内在する諸問題を知り、考え、協力しながら行動する力を養うために、プロジェクト科目を置く
6. 自己形成科目群は、文化、自然、社会に関する知識および基礎的な考察する力を養うため、「文化と芸術」「地域と社会」「人間と自然」に関係する科目で構成する

佛教大学の教育方針（三つのポリシー）

【主に専門で習得】

所属する学部・学科において、専攻する学問分野における専門的な知識・技能を身につけ、社会において活用することができるようにするため、専門科目を学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目に区分し、体系的に編成します。

1. 専攻する学問分野に必要な基礎的知識や視点を習得するために、学部ごとに学部基幹科目を提供する
2. 専攻する学問分野に関する専門的な知識や技能を習得するために、学科ごとに学科基礎科目を提供する
3. 専攻する学問分野に関するより高度な知識や技能を習得し、知識や情報を分析し、論理的に表現することができるよう、学科ごとにコースや領域に即した学科専攻科目を提供する
4. 専攻する学問分野に関連した幅広い知識や技能を習得し、社会における諸問題の把握や解決に必要な情報の収集・分析、論理的な思考や表現に資する力を養うために学科ごとに関連科目を提供する

（3）態度・志向性

共通教養科目、専門科目ともに、アクティブ・ラーニング、PBL、グループワーク、演習・実習など、多彩な学習方法を組み込んだ科目を提供することにより、社会の一員としての意識や他者との協調・協働などの態度や志向性を身につけ、社会に貢献しようとする意志を涵養します。

（4）学びと成長への内発的動機

共通教養科目の内に、自らの興味や関心をきっかけに学びの幅を広げ、また実際の社会問題と向き合い解決を目指すことによって、主体的に粘り強く学び続け、他者と協働的に学び、ともに成長することの重要性が体得できるよう、学部横断科目およびプロジェクト科目を提供します。

＜学修成果の評価方針＞

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文および卒業研究レポートの評価は、ルーブリックなどの手法を用いながら論文やレポートの内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

1. 筆記試験による評価
2. レポート試験による評価
3. 実技試験による評価
4. 授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

佛教大学は、建学の理念である仏教精神を基盤として、社会で活動するために必要な知識や素養、専攻する学問分野における専門的な知識・技能を身につけ、生涯にわたって学び続けながら周囲の人々と協力し、自己実現や社会貢献に向けて活動することのできる人材の養成を目的としています。

このような本学の人材養成の目的に共感し、各専門分野において強い関心と学ぼうとする確かな意欲をもち、他者と協調・協働することで、自己実現や社会貢献に向けて主体的に活動する意欲がある多様な人を受け入れます。

そのために各種の入試制度を用いて、高等学校等で修得した以下の点について評価を行い、それらを備えた人を受け入れることを基本方針とします。

（1）知識・技能

入学を希望する学部学科での学修に必要な基礎学力、専門教育に関連する教科に関する知識・技能及びそれらを応用する力

（2）思考力・判断力・表現力

修得した知識・技能を活用し、学部学科での学びにかかわる基礎的または一般的問題・質問に文章・口頭で答えることができる力

（3）主体的に取り組む態度

学部学科の人材養成の目的にふさわしい学修への意欲・態度と、学力だけでは見出すことのできない能力や意欲、将来の可能性

入学者選抜	(1)知識・技能	(2)思考力・判断力・表現力	(3)主体的に取り組む態度
①総合型選抜（自己推薦制）	○	○	○
②学校推薦型選抜（公募制）	○		
③一般選抜（A・B・C）	○		
④大学共通テスト利用選抜（前期・後期）	○		
⑤同窓選抜	○	○	○
⑥宗門後継者選抜	○		○
⑦帰国・外国人選抜		○	○
⑧課外活動選抜	○	○	○
⑨スポーツ強化枠選抜	○	○	○
⑩指定校 MU 選抜	○	○	○
⑪指定校高大連携選抜	○	○	○
⑫社会人1年次選抜		○	○

学部 / 学科

仏教学部

仏教学部	仏教学科	取得学位：学士（文学）
------	------	-------------

人材養成の目的

仏教学部仏教学科は、仏教および仏教に関連する領域についての基礎知識と専門知識を修得し、それらの知識を活用して問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析して、解決策を論理的に表現することを通じて、仏教の魅力を発信したり、現代社会が抱える諸問題に対応することができる人材を養成します。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 ブッダと法然の生涯と思想、ならびにそれらから展開した思想の概要と学問分野について説明することができる
- D2 仏教を学ぶにあたって必要な研究資源と研究技法を活用することができる
- D3 さまざまな言語で記述された資料を適切に読解して、問題解決に必要な情報を収集することができる
- D4 仏教史の概要を説明することができる
- D5 収集した情報を、歴史的展開を踏まえた上で論理的に分析し、表現することができる
- D6 現代社会が抱える問題を把握し、仏教をそれらの諸問題への対応に活用することができる
- D7 仏教の魅力を発信することができる

以上を示す仏教学部仏教学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

仏教学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。学科専攻科目には、ゼミ、共通、現代社会と仏教、仏教学系、文化（思想・文学・美術）系、僧侶養成系の各科目群を提供します。仏教学系、文化（思想・文学・美術）系、僧侶養成系は、自身が志向する研究領域に従って選択します。その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期、配当セメスターなどを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、演習、フィールドワークなどを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

- ① ブッダと法然の生涯と思想、ならびにそれらから展開した思想の概要と学問分野を説明できるようになるために、学部基幹科目を提供する
- ② 仏教を学ぶにあたって必要な研究資源と研究技法を活用できるようになるために、学科基礎科目の中に「アカデミック・スキルズ」を提供する
- ③ さまざまな言語で記述された資料を適切に読解し、情報を収集できるようになるために、学科基礎科目の中に「古文入門」「古文上級」「漢文入門」「漢文上級」「 Sanskrit 語入門」「 Sanskrit 語上級」「パーリ語」「チベット語」を提供する
- ④ 仏教史の概要を説明できるようになるために、学科専攻科目の中に共通科目群を提供する
- ⑤ 収集した情報を、歴史的展開を踏まえた上で論理的に分析し、表現することができるようにするために、学科専攻科目および関連科目を提供する。学科専攻科目には、論理的に表現できるようになるためのゼミ科目群、歴史的展開を踏まえた上で論理的に分析できるようになるための仏教学系、文化（思想・文学・美術）系、僧侶養成系科目群、および関連科目を提供する

文学部

人材養成の目的

文学部は、大学の人材養成の目的その他の教育研究上の目的を踏まえ、文学、文化および言語に関連する領域に関わる知識を活用して、自己および他者を見つめて相互理解を形成し、さらに世界の多様性を踏まえて社会で活躍できる人材の養成を目的とします。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 社会のさまざまな事象について、建学の理念によって培われた倫理観に基づいて判断を下し、かつ修得した知識を活用して社会的責任を果たすことができる
- D2 日本、中国、英語圏の諸言語・諸文化に関するそれぞれの専門領域において、深い知識と理解力を身につけている
- D3 日本、中国、英語圏の諸言語・諸文化に関するそれぞれの専門領域において、テーマを設定して自らの見解をまとめることができる
- D4 選択した専門領域以外の関連領域について、基礎的な知識を身につけている
- D5 国際交流の場において、相互理解のために情報の受信者あるいは発信者として活動できる一定の知識と能力を身につけている

以上を示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および文学部各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

文学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。また、日本文学科、中国学科、英米学科それぞれの専門性に対応した教員免許状取得希望者のために関連する科目を提供します。

- ⑥ 卒業後の進路に応じた各種の免許状・資格を取得することができるよう関連科目を提供する
- ⑦ 現代社会が抱える問題を把握し、仏教をそれらの諸問題への対応に活用できるようにするため、学科専攻科目に現代社会と仏教科目群、および関連科目を提供する
- ⑧ 仏教の魅力を発信することができるようにするために学科専攻科目に現代社会と仏教科目群、および関連科目を提供する

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ① 筆記試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

<求める学生像>

仏教学科は、仏教および仏教に関連する領域についての基礎知識と専門知識を修得し、それらの知識を活用して問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析して、解決策を論理的に表現することを通じて、仏教の魅力を発信することや、現代社会が抱える諸問題に対応できる人材を養成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

- ① 人間の精神・歴史・芸術・社会・文化などについて、高等学校等で学ぶ基礎的な知識と分析力を備えている人【知識・技能】
- ② 仏教（インド・チベット・中国・日本など）および仏教に関連する領域（歴史・文学・美術など）に対して、強い関心と探究心を持ち、そのことを表現できる人【思考力・判断力・表現力】
- ③ 仏教の魅力を発信することや、仏教の考え方によって、現代社会が抱える諸問題に、主体的に対応する意欲を有する人【主体的に取り組む態度】
- ④ 浄土宗教師（浄土宗僧侶）となって浄土宗の教えを受け継ぎ、さらに広めていこうという意欲を有する人【主体的に取り組む態度】

<大学入学までの学修の指針>

高等学校等までの学習では、仏教と関連が深い教科である「国語」「地理歴史」を中心としつつ、「外国語（英語）」「公民」など、仏教学科での専門的な学修に必要な基礎学力を身につけるための教科についても幅広く学習していることを望みます。

通学課程

1949年	仏教学部仏教学科設置
1965年	文学部仏教学科設置
2004年	文学部人文学科設置
2010年	仏教学部仏教学科設置

通信教育課程

1953年	仏教学部仏教学科開設
1965年	文学部仏教学科開設
2004年	文学部人文学科開設
2010年	仏教学部仏教学科開設

<教育課程実施の方針>

- ① 日本、中国に代表される東アジア、および英米を中心とした英語圏の言語や文化に関するそれぞれの専門領域において、深い知識と理解力を身につけるため学部基幹科目に、世界の言語や文化の多様性を理解する基礎となる「中国語と中国文化」「英語と英米文化」「世界の言語と文化(朝鮮語)」「世界の言語と文化(ペトナム語)」「世界の言語と文化(フランス語)」「世界の言語と文化(ドイツ語)」を提供する
- ② 言語や文化の知識や理解を深めるために各学科に包摂される学問分野に基づいた学科基礎科目を提供する
- ③ 学修成果を、自らの言葉で論理的に表現できる力を養うため、「アカデミック・スキルズ」および4年次に「卒業研究ゼミ」を設ける
- ④ 国際交流の場において、相互理解のために情報の受信者あるいは発信者として活動できる知識と能力を身につけるために、長期の海外留学制度を提供する

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文および卒業研究レポートの評価は、論文やレポートの内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ① 筆記試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 授業内のプレゼンテーション等による評価
- ④ 授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

<求める学生像>

大学の人材養成の目的その他の教育研究上の目的を踏まえ、文学、文化および言語に関連する領域にかかわる知識を活用して、自己および他者を見つめて相互理解を形成し、さらに世界の多様性を踏まえて社会で活躍できる人材を養成するとともに、そのために必要な教育研究活動を展開し、それらを通じて社会に貢献していくことを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

- ①興味をもった事柄や分野についての本を読み、その内容についてまとめることができる人【知識・技能】
- ②日本語・中国語・英語などの言語について学ぶための基礎となる思考力・判断力・表現力を有している人【思考力・判断力・表現力】
- ③日本の文学や思想、文化について学ぶための基礎となる思考力・判断力・表現力を有している人【思考力・判断力・表現力】
- ④外国語を活用して仕事をしたり、国際交流などの場において活躍したいと考えている人【主体的に取り組む態度】

文学部

日本文学科

取得学位：学士（文学）

人材養成の目的

日本文学科は、大学および文学部の人材養成の目的その他の教育研究上の目的を踏まえ、日本語学・日本語教育・文学に関する専門的な知識・教養、および書道文化に関する専門的な知識、技能を備えた人材を養成するとともに、日本文学・日本文化に対する理解に基づき、広く社会に貢献でき、また日本の文化と異文化を相対的に把握し、国際社会の中で協調性を保ちつつ活躍できる人材の養成を目的とします。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 日本語学・日本語教育・文学についての専門的な知識・教養、あるいは書道文化についての専門的な知識・技術を社会の幅広い分野で役立てる力を備えている
- D2 日本以外にも含めたさまざまな地域の歴史や文化と、文芸の関わりについて、知識と見識を備えている
- D3 口頭あるいは文章によって、適切な日本語を用い、的確に自己表現する力、他者の言葉を理解し、お互いを分かり合う力を備えている
- D4 身につけた専門知識を生かして主体的に問題の発見と解決を行い、その結果を社会に向けて発信することができる
- D5 日本の文化と異文化を相対的に把握でき、国際社会の中で相互理解をすすめながら他者と協働し社会貢献する力を備えている
- D6 目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、修得した多様な能力を統合し、他者と協働しつつ活動する意志と能力をもっている

以上に示す力を修得するとともに、佛敎大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および文学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

日本文学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。

その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期（配当セメスター）などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供し、加えて、日本文学独自のキャリア教育科目である「日文キャリアプログラム」を職業別五分野にわたって展開するなど特徴的な教育課程を編成しています。

<教育課程実施の方針>

- ①日本語学・日本語教育・文学および書道文化について、専門的な知識・教養・技術を社会に役立てる力を、各自の興味・関心に応じて体系的に修得するために、学科基礎科目の中に「日本文学初学」等の科目を設ける
- ②公正な議論を通じて相互の立場を主張し合い、理解し合い、一致点を見出していくための姿勢と技能を実践的に養成するため、学科基礎科目の中に「アカデミック・スキルズ」等の演習科目などを設ける
- ③日本の文化に対する高度な理解に基づき、異文化理解を含めた広い分野へと導く段階的な学修プログラムを提供する。日本以外にも含めたさまざまな地域の歴史や文化と、文芸の関わりについて、実践的な活動を通じて理解する。学科専攻科目の中に「比較文学」「日本文学情報処理」「日本文学講読」等の科目を設ける
- ④専門的な知識や教養を現代社会に有機的に接続させ、実践的な技能を磨くために、学科専攻

- ⑤日本と外国の相互理解のための知識や能力を身につけたいと考えている人【主体的に取り組む態度】

<大学入学までの学修の指針>

そこで、高等学校等での学習では、「国語」「外国語（英語）」、その他の外国語を中心としつつ、日本の文化・歴史に関する教科、あるいは中国語圏の文化や歴史にかかわる教科、あるいは英語圏の文化や歴史にかかわる教科について幅広く学んでいることを望みます。また、多くの人と積極的ににかかわる意志や姿勢、あるいは異文化理解や異文化交流に積極的な姿勢を有していることを望みます。

科目の中に「専門ゼミ」、「卒業研究ゼミ」等のゼミ科目を設ける

社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、社会に貢献することができるようにするため、「文献学入門（版本）」「文献学入門（写本）」「卒業研究ゼミ」等の多様な学習方法を組み込んだ科目を提供します。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、他者と協働的に学び、ともに成長することができるように、「日本文学講読」「日本語学講読」「書道文化作品研究」「日本語教授法」等の科目を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文および卒業研究レポートの評価は、論文やレポートの内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③授業内のプレゼンテーション等による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

<求める学生像>

大学及び文学部の人材養成の目的その他の教育研究上の目的を踏まえ、日本の文学、文化および言語に関連する領域にかかわる知識を活用して、日本の文化と異文化を相対的に把握し、国際社会の中で活躍できる人材を養成するとともに、そのために必要な教育研究活動を展開し、それらを通じて社会に貢献していくことを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

- ①日本の文学・文化や言語について基礎的な知識を有する人【知識・技能】
- ②人間やその営みについて、さまざまな情報を理解し、批判的に考え、自分独自の意見を表現するための基礎となる思考力・判断力・表現力を有している人【思考力・判断力・表現力】
- ③言語や文化に関する知識や見解を社会のために役立たせる意欲を有する人【主体的に取り組む態度】
- ④文芸創作の意欲があり、創造性の豊かな人【思考力・判断力・表現力】

<大学入学までの学修の指針>

そこで、高等学校等での学習では、コミュニケーション能力にかかわる「国語」を中心としつつ、「外国語（英語）」や、日本の文化・歴史に関する科目も含め、専門的な学修に必要な基礎的な知識にかかわる教科についても幅広く学んでいることを望みます。また、多くの人と積極的ににかかわる意志や姿勢を有していることを望みます。

通学課程

- 1965年** 文学部国文学科設置
- 2001年** 日本語日本文学科に名称変更
- 2004年** 文学部人文学科設置
- 2010年** 文学部日本文学科設置

通信教育課程

- 1965年** 文学部国文学科開設
- 2001年** 日本語日本文学科に名称変更
- 2004年** 文学部人文学科開設
- 2010年** 文学部日本文学科開設

文学部

中国学科

取得学位：学士（文学）

人材養成の目的

中国学科は、大学および文学部の人材養成の目的その他の教育研究上の目的を踏まえ、中国語圏に関する文学、文化および言語に関連する領域に関わる知識を活用して、自己および他者を見つめて相互理解を形成し、さらに世界の多様性を踏まえて社会で活躍できる人材の養成を目的とします。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができる
- D2 中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけている
- D3 海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力を、国際交流の場において役立てることができる
- D4 以下のうち、いずれか一つの力を身につけている
- ①コミュニケーション系を選択した場合は、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけている
- ②文献読解系を選択した場合は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できる
- D5 中国語圏以外にも含めたさまざまな地域の言語と文化の関わりについて、知識と見識を備えている
- D6 中国語圏の文化と異文化を相対的に把握でき、国際社会の中で相互理解をすすめながら他者と協働し社会貢献する力を備えている
- D7 目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、修得した多様な能力を統合し、他者と協働しつつ活動する意志と能力をもっている

以上に示す力を修得するとともに、佛敎大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および文学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

中国学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科専攻科目、関連科目を順次

性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。

その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期（配当セメスター）などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義・聴読・読読・演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

3年次からはコミュニケーション系、文献系、共通の3つの体系に分かれた科目群を提供します。コミュニケーション系では主に中国語ネイティブの教員から中国語の自然な発話を学ぶ科目を提供するほか、文献系では古典ないしは現代の文献から中国を体系的に理解できるような科目を提供します。

またコースに関係なく、2年次秋学期と3年次春学期には、吉林大学への中国語現地研修を行い、HSK（漢語水平考試）を受ける機会を提供しています。

<教育課程実施の方針>

- ①専門領域の学修の基盤となる中国語能力を修得するために、学科基礎科目に「中国語入門」「中国語聴解」「中国語基礎演習」を提供する
- ②中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができるようになるために、「中国語概論」「中国思想史」「漢語聽說実践」を提供する
- ③中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけるために、コミュニケーション系と文献系からなる二つの学修領域を設定する
- ④コミュニケーション系では、主として中国語の実践的運用能力の修得を目指し、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけるために、学科専攻科目に「漢語会話演習」「漢語表現法演習」を提供する
- ⑤文献系では、主として中国の言語、文学、思想、文化に対する理解力の修得を目指すために、学科専攻科目に「漢語現代文読解」「漢語古典文読解」を提供する
- ⑥文献系では設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できるように、学科専攻科目として「卒業研究ゼミ」および「卒業論文」「卒業研究」を提供する。コミュニケーション系では、中国語のプレゼンテーション能力の育成のために、学科専攻科目として「漢語表現法演習（演習）」および「卒業研究ゼミ」「卒業論文」「卒業研究」を提供する
- ⑦海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力をつけるために、2

年次秋学期と3年次春学期に吉林大学への中国語現地研修を行なうほか、HSK(漢語水平考試)を受ける機会を提供する

中国語圏の文化と異文化を相対的に把握でき、国際社会の中で相互理解をすすめるながら他者と協働し社会貢献する力をつけるために、学科基礎科目と学科専攻科目に「中国語現地研修」、関連科目に「異文化理解『中国』」「日中比較文化研究」を提供します。目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、修得した多様な能力を統合し、他者と協働しつつ会同活動する意志と能力を養うために、各学年にゼミに対応する科目「入門ゼミ」「中国学科発展ゼミ」「卒業予備ゼミ」「卒業研究ゼミ」を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容の評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文および卒業研究レポートの評価は、論文やレポートの内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③授業内のプレゼンテーション等による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

<求める学生像>

大学及び文学部の人材養成の目的その他の教育研究上の目的を踏まえ、中国語圏に関する文学、文化および言語に関連する領域にかかわる知識を活用して、自己および他者を見つめて相互理解を形成し、さらに世界の多様性を踏まえて社会で活躍できる人材を養成するとともに、そのために必要な教育研究活動を展開し、それらを通じて社会に貢献していくことを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

- ①高等学校等で学ぶレベルの基礎的な国語力・外国語への理解力を備えている人【知識・技能】

文学部	英米学科	取得学位：学士（文学）
------------	-------------	-------------

人材養成の目的

英米学科は、大学および文学部の人材養成の目的その他の教育研究上の目的を踏まえ、英語圏に関する文学、文化および言語に関連する領域に活用して、国際交流に携わるとともに、現代社会を取り巻く諸問題と向き合い、英語を使ってその解決に積極的に取り組むことのできる人材の養成を目的とします。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 国際社会において通用する英語の運用能力と、異文化に対する柔軟な理解力を備えている
- D2 英語圏の文化についての専門的な知識を有し、異なった文化を理解し受け入れる包容力を持ち、それらを活用して、問題を解決しようという前向きな姿勢を身に付けている
- D3 英語と英語圏文化についての知識と理解力を諸外国とのさまざまな分野での交流に役立てることができる
- D4 文化、社会、歴史、政治などの最新の話題について、英語を使って自分の考えを表現することができる
- D5 文献検索の方法を熟知し、テキストの精緻な読解と分析を行い、そこから得られた独自の考えを英語によって表現できる
- D6 英語圏以外も含めたさまざまな地域の言語と文化の関わりについて、知識と見識を備えている
- D7 英語圏の文化と異文化を相対的に把握でき、国際社会の中で相互理解をすすめるながら他者と協働し社会貢献する力を備えている
- D8 目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、修得した多様な能力を統合し、他者と協働しつつ活動する意志と能力をもっている

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および文学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位(学士)を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

英米学科では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程(カリキュラム)を編成します。その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性・体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期(配当セメスター)などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。また、積み上げ学習が必要な科目に関しては、段階的な構成となっており、学科での学びの中心となる学科専攻科目は「英語文化系」と「英語コミュニケーション系」の二つの科目群に分かれており、学生のニーズに応えられるカリキュラムを提供します。

<教育課程実施の方針>

- ①国際社会において通用する英語の運用能力と、異文化に対する柔軟な理解力を身につけるために、学科基礎科目の中に「English Conversation」「English Listening Skills」「English Writing」「英文法」を提供する
- ②英語圏の文化についての専門的な知識を有しさまざまな問題を解決できるようになるために、学科基礎科目の中に「英語文学論」「英語演習」を提供する
- ③英語と英語圏文化についての知識と理解力を諸外国とのさまざまな分野での交流に役立てることができるようにするために、学科基礎科目の中に「Advanced Conversation」を提供する
- ④文化、社会、歴史、政治などの最新の話題について、英語を使って自分の考えを表現する力を身につけるために、学科基礎科目の中に「アカデミック・スキルズ」を、そして学科専攻科目の中に「Academic Reading」「Academic Writing」を提供する
- ⑤文献検索の方法を熟知し、テキストの精緻な読解と分析を行い、そこから得られた独自の

歴史学部

人材養成の目的

歴史学部は、建学の理念に基づき、過去から現代に至る人間の営みを見つめることを通して、豊かな「人間力」をもち、社会人として必要な教養や技能を身につけた人材を養成します。さらに、歴史学の学修を通して、時間的・空間的な多様性を理解し、自己とそれを取り巻く文化・社会を客観的に捉え、人間・社会・文化等の歴史的な事象についての幅広い知識と多様性への理解に裏打ちされた洞察力と判断力を備えた人材を養成します。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 建学の理念に基づき、豊かな人間性と社会を支える広い教養を身につけている
- D2 過去を探究する学術的な方法について理解している
- D3 歴史的な情報を史資料に基づき分析、解釈できる

- ②中国語圏やアジアの言語や文化に関するさまざまな情報を理解し、批判的に考え、自分独自の意見を表現するための基礎となる思考力・判断力・表現力を有している人【思考力・判断力・表現力】
- ③中国語を通じたコミュニケーションおよび中国語の古典や現代の文献に興味を有する人【主体的に取り組む態度】
- ④中国語や中国古典文の教育に興味をもち、中国語や漢文などを含む国語の教員として社会に貢献することを目指す人【主体的に取り組む態度】
- ⑤海外で学ぶことや働くことを目標としている人【主体的に取り組む態度】

<大学入学までの学修の指針>

そこで、高等学校等での学習では、「国語」「外国語」を中心としつつ、中国語圏の文化や歴史にかかわる教科について幅広く学んでいることを望みます。また、異文化理解や異文化交流に積極的な姿勢を有していることを望みます。

通学課程	
1986年	文学部中国文学科設置
2001年	中国語中国文学科に名称変更
2004年	中国学科に名称変更
通信教育課程	
1991年	文学部中国文学科開設
2001年	中国語中国文学科に名称変更
2004年	中国学科に名称変更

の考えを英語によって表現できるようになるために、学科専攻科目の中に「卒業研究予備ゼミ」「卒業研究ゼミ」「卒業論文」を提供する

- ⑥英語圏以外も含めたさまざまな地域の言語と文化の関わりについて知識と見識を身につけるために、学部基幹科目の中に「中国語と中国文化」を、学科基礎科目の中に「英語学概論」を提供する

英語圏の文化と異文化を相対的に把握し、国際社会の中で相互理解をすすめるながら他者と協働し社会貢献する力を身につけるために学科専攻科目の中に「Study Abroad」を提供します。目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、修得した多様な能力を統合し、他者と協働しつつ活動する意志と能力を身につけるために、学科専攻科目の中に「Study Abroad Project」を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容の評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文および卒業研究レポートの評価は、論文やレポートの内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③授業内のプレゼンテーション等による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

<求める学生像>

大学及び文学部の人材養成の目的その他の教育研究上の目的を踏まえ、英語圏に関する文学、文化および言語に関連する領域にかかわる知識を活用して、国際交流に携わるとともに、現代社会を取り巻く諸問題と向き合い、英語を使ってその解決に積極的に取り組むことのできる人材を養成するとともに、そのために必要な教育研究活動を展開し、それらを通じて社会に貢献していくことを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

- ①高等学校等で学ぶレベルの基礎的な英語力を備えている人【知識・技能】
- ②英語圏の言語や文化に関するさまざまな情報を理解し、批判的に考え、自分独自の意見を表現するための基礎となる思考力・判断力・表現力を有している人【思考力・判断力・表現力】
- ③英語を通じた東西文化の交流に興味を有する人【主体的に取り組む態度】
- ④英語教育に興味をもち、英語の教員として社会に貢献することを目指す人【主体的に取り組む態度】
- ⑤海外で学ぶことや働くことを目標としている人【主体的に取り組む態度】

<大学入学までの学修の指針>

そこで、高等学校等での学習では、「国語」「外国語（英語）」を中心としつつ、英語圏の文化や歴史にかかわる教科について幅広く学んでいることを望みます。また、異文化理解や異文化交流に積極的な姿勢を有していることを望みます。

通学課程	
1975年	文学部英文文学科設置
2001年	英語英米文学科に名称変更
2004年	英米学科に名称変更
通信教育課程	
1981年	文学部英文文学科開設
2001年	英語英米文学科に名称変更
2004年	英米学科に名称変更

- D4 個人・文化・社会に関わる多様な価値観の存在を理解する
 - D5 形成した歴史像を自らの言葉で論理的に表現できる
 - D6 時間的・空間的な多様性を理解し、課題を発見しようとする姿勢を有している
 - D7 過去の社会や文化に多面的な関心を持ち、自らの見解を形成しようとする
- 以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および歴史学部各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位(学士)を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

歴史学部では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に定めた知識・理解・

汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程(カリキュラム)を編成します。教育課程(カリキュラム)は、学部に設けられた歴史、歴史文化それぞれの学科で学修する領域を考慮しながら編成します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実習、演習、研修(臨地研修・フィールドワーク)などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

- ①過去を探索する学術的な方法について基礎的な理解を目指し、各種概論を中心とした学部基幹科目を提供する
 - ②歴史的な情報を史料に基づき分析、解釈できる力を養うため、各学科に包摂される学問分野に基づいた学科基礎科目を提供する
 - ③課題を発見しようとする姿勢を養い、自らの見解を形成する力の要請を目指すため、2年生以降の各学年においてゼミ科目を提供する
- 学修成果を、自らの言葉で論理的に表現できる力を養うため4年次に「卒業論文」の執筆を前提とした「卒業研究ゼミ」を提供します。専門教育の学修内容を補完し、より幅の広い学修を促すため、多彩な関連科目を設定する。両学科の関連科目は過去の事象をさまざまな角度から考察する歴史学という学問の特性を考慮して互いに履修可能となるよう設定し、横断的な学修を担保します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容の評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、ルーブリックを用いた論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

歴史学部 歴史学科 取得学位：学士（文学）

人材養成の目的

歴史学科は、歴史学の学修を通じて、地域社会や国際社会の課題を理解し、その解決に向けて取り組むことができる人材を養成します。特に歴史の時間的・空間的多様性を重視した教育研究活動を通じて涵養した力により社会に貢献していくことを目的とします。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 建学の理念に基づき、豊かな人間性と社会を支える広い教養を身につけている
- D2 文献史学の基礎的な方法について理解している
- D3 歴史的な情報を文献史料に基づき分析、解釈できる
- D4 個人・文化・社会に関わる多様な価値観の存在を理解する
- D5 形成した歴史像を自らの言葉で論理的に表現できる
- D6 時間的・空間的な多様性を理解し、課題を発見しようとする姿勢を有している
- D7 歴史事象に多面的な関心を持ち、自らの見解を形成しようとする

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)および歴史学部のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に示す力を修得した学生に対して学位(学士)を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

歴史学科では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程(カリキュラム)を編成します。教育課程(カリキュラム)は、歴史学の専門性に即して学科専攻科目の一部を日本史、東洋史、西洋史の各領域に区分し、それぞれの領域の特性に即して編成します。その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期(配当セメスター)などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、演習、研修(フィールドワーク)などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

- ①文献史学の基礎的な方法について理解し、歴史的な情報を文献史料に基づき分析、解釈できる力を段階的に養うため講読や演習を提供する
- ②個人・文化・社会に関わる多様な価値観の存在、および時間的・空間的な多様性を理解することを旨として特講を提供する
- ③2年生以降の専門科目の履修は、日本史、東洋史、西洋史いずれかの領域の専門的な知識や技能の習得、進化を図るとともに、異なる領域の専攻科目を副専攻として学修することにより、多角的な視点からの理解を促す

幅広い教養と高度な能力の修得を目指して関連科目を提供します。専門的な学修内容を補完し、史料や文献の高度な読解、分析方法を学ぶ科目のほか、実践的な力を養う関連科目として「フィールドワーク入門」「ワークショップ実習」;さまざまな文化に触れる関連科目として「日本史臨地研修」「外国史臨地研修」などを提供します。

歴史学部 歴史文化学科 取得学位：学士（文学）

人材養成の目的

歴史文化学科は、歴史学の学修を通じて、地域社会や国際社会の課題を理解し、その解決に向けて取り組むことができる人材を養成します。特に現場での学修や体験の成果を重視した教育研究活動を通じて涵養した力により社会に貢献していくことを目的とします。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 建学の理念に基づき、豊かな人間性と社会を支える広い教養を身につけている
- D2 歴史や文化事象を探索する基礎的な方法について理解している
- D3 歴史や文化事象に関わる情報を様々な資料に基づき分析、解釈できる
- D4 歴史や文化事象に関わる多様な価値観の存在を理解する
- D5 解釈した歴史文化についての理解を自らの言葉で論理的に表現できる
- D6 歴史的な文化事象の多様性を理解し、課題を発見しようとする姿勢を有している
- D7 歴史的な文化事象に多面的な関心を持ち、自らの見解を形成しようとする

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)および歴史学部のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に示す力を修得した学生に対して学位(学士)を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

歴史文化学科では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程(カリキュラム)を編成します。教育課程(カリキュラム)は、学科専攻科目の一部を歴史的な文化事象の特性に応じて地域文化、民

用いた論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実技試験による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

<求める学生像>

歴史学部では、歴史の学びによって思考力・判断力・表現力が涵養された人材の養成を目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

- ①世界史・日本史・地理など地理歴史科目のいずれかについてより広範な知識を有している人【知識・技能】
- ②自分の考えを言葉や文章で表現できる人【思考力・判断力・表現力】
- ③歴史や文化について関心のある人【主体的に取り組む態度】
- ④大学での学修を活かして、社会に積極的にいかかわろうとする人【主体的に取り組む態度】

<大学入学までの学修の指針>

そこで、高等学校等での学習では、「地理歴史科目」を中心としつつ、専門的な学修に必要な基礎的な学力にかかわる教科についても幅広く学んでいることを望みます。

関連科目において、京都の歴史や文化を集中的に学ぶ京都学プログラム(「京都学入門」「京都の暮らし」「京都の飲食文化」「京都の衣服」「京都の祭り」「京都学演習」)、GIS学術士の資格認定を目指し、「地理情報学」「地理情報システム演習」など体系的で効果的な学修を目的としたプログラム科目群を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容の評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、ルーブリックを用いた論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実技試験による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

<求める学生像>

歴史学科では、歴史的な文献史料の学びによって思考力・判断力・表現力が涵養された人材の養成を目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

- ①世界史や日本史いずれかについて、高等学校等における学習内容を十分に理解できている人【知識・技能】
- ②日本史・東洋史・西洋史のいずれかについて、強い関心を有する人【思考力・判断力・表現力】
- ③自分の考えを言葉や文章で表現できる人【主体的に取り組む態度】
- ④歴史の学修を通じて高度な思考力・判断力・表現力を身につけたい人【思考力・判断力・表現力】
- ⑤学修成果を活かして、社会に積極的にいかかわろうとする人【主体的に取り組む態度】

<大学入学までの学修の指針>

そこで、高等学校等での学習では、「地理歴史科目（歴史総合・日本史探究・世界史探究）」を中心としつつ、専門的な学修に必要な基礎的な学力にかかわる教科についても幅広く学んでいることを望みます。

通学課程

- 1966年 文学部史学科設置
- 2004年 文学部人文科学科設置
- 2010年 歴史学部歴史学科設置

通信教育課程

- 1966年 文学部史学科開設
- 2004年 文学部人文科学科開設
- 2010年 歴史学部歴史学科開設

俗文化、芸術文化の各領域に区分し、それぞれの領域の特性を考慮しながら編成します。その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期(配当セメスター)などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、演習、研修(フィールドワーク)などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

- ①文化事象を探索するさまざまな方法について、基礎的な理解を促し、歴史文化に関するさまざまな情報を資料に基づき分析、解釈できる力を段階的に養うため講読や演習を提供する
- ②歴史や文化事象に関わる多様な価値観の存在、および価値観の多様性を理解することを目指し、特講とともに複数のフィールドワーク科目を提供する
- ③2年生以降の専門科目の履修は、地域文化、民俗文化、芸術文化いずれかの領域の専門的な知識や技能の修得、進化を図るとともに、異なる領域の専攻科目を副専攻として学修することにより、多角的な視点からの理解を促す

幅広い教養と高度な能力の修得を目指して関連科目を提供します。専門的な学修内容を補完し、資料や文献の高度な読解、分析方法を学ぶ科目のほか、より実践的な力を養う関連科目として「ワークショップ実習」;さまざまな文化に触れる関連科目として「日本史臨地研修」「外国史臨地研修」などを提供します。

関連科目において、京都の歴史や文化を集中的に学ぶ京都学プログラム(「京都学入門」「京都の暮らし」「京都の飲食文化」「京都の衣服」「京都の祭り」「京都学演習」)、GIS学術士の資格認定を目指し、「地理情報学」「地理情報システム演習」など体系的で効果的な学修を目的としたプログラム科目群を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、ルーブリックを用いた論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実技試験による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

<求める学生像>

歴史文化学科では、歴史的な文化事象の学びによって思考力・判断力・表現力が涵養された人材の養成を目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

- ①世界史・日本史・地理など地理歴史科目のいずれかについて、高等学校等における学習内容を十分に理解できている人【知識・技能】
- ②歴史的な文化事象について、強い関心を有する人【思考力・判断力・表現力】
- ③自分の考えを言葉や文章で表現できる人【主体的に取り組む態度】
- ④歴史的な文化事象に関する学修を通じて、高度な思考力・判断力・表現力を身につけた人

教育学部

人材養成の目的

教育学部は、建学の理念である仏教精神の4つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤とした上で、教育・心理職の重要性を自覚し、「理論と実践の往還」のもとで構築した知識・技能を活用して、協働的に子ども・人の発達成長や心の健康における諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる人材を養成します。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、教育学や臨床心理学領域の知識や技能と統合して活用することができる
- D2 教育学・臨床心理学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から知識構築や技能修得をし、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる
- ①教育学・臨床心理学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している
 - ②教育学・臨床心理学領域の深い知識構築や技能修得をしている
 - ③社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができる
 - ④社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができる
- D3 社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、教育学・臨床心理学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、子ども・人の発達成長や心の健康に貢献することができる
- D4 目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける教員・学び続ける心理学の実践家）、自らの振り返りにより、それまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる

以上に示す力を修得するとともに、佛科大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および教育学部各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

教育学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、「理論と実践の往還」を踏まえ、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実技、実験、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、教育学や臨床心理学領域の知識や技能と統合して活用することができるようにするために、実習やインターンシップ科目を提供すると共に、学習方法にアクティブ・ラーニングやグループワークを組み込みます。

教育学・臨床心理学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から新たに知識構築や技能修得し、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができるようにするため、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目からなる専門教育を体系的に編成します。

- ①教育学・臨床心理学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得し、学びの意欲と見通しを持つために、学部基幹科目として「教育原論」等の科目を提供する

教育学部

教育学科

取得学位：学士（教育学）

人材養成の目的

教育学科は、建学の理念である仏教精神の4つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤とした上で、教育職の重要性を自覚し、「理論と実践の往還」のもとで構築した知識・技能を活用して、協働的に子ども・人の発達成長における諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる人材を養成します。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、教育学領域の知識や技能と統合して活用することができる
- D2 教育学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から知識構築や技能修得をし、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる
- ①教育学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している
 - ②教育学領域の深い知識構築や技能修得をしている
 - ③社会（特に学校）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができる
 - ④社会（特に学校）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができる
- D3 社会（特に学校）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、教育学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、子ども・人の発達成長に貢献することができる

たい人【思考力・判断力・表現力】

- ⑤学修成果を活かして、社会に積極的にいかかわろうとする人【主体的に取り組む態度】

<大学入学までの学修の指針>

そこで、高等学校等での学習では、「地理歴史科目（歴史総合・地理総合・地理探究・日本史探究・世界史探究）」を中心としつつ、専門的な学修に必要な基礎的学力にかかわる教科についても幅広く学んでいることを望みます。

通学課程

- 1966年 文学部史学科設置
- 2004年 文学部人文科学科設置
- 2010年 歴史学部歴史文化学科設置

通信教育課程

- 1966年 文学部史学科開設
- 2004年 文学部人文科学科開設
- 2010年 歴史学部歴史文化学科開設

- ②教育学・臨床心理学領域の深い知識構築や技能修得し、学びの意欲と見通しを持つために、学科ごとに学科基礎科目として「アカデミック・スキルズ」「教育学基礎演習」「臨床心理学基礎ゼミ」等の科目を提供する
- ③社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができるようにするために、学科ごとに学科専攻科目として「教育学演習」「卒業論文演習」「臨床心理学ゼミ」「卒業研究ゼミ」等の科目を提供する
- ④社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができるようにするために、学科ごとに学科専攻科目として「教育学演習」「卒業論文演習」「臨床心理学ゼミ」「卒業研究ゼミ」等の科目を提供する

社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、教育学・臨床心理学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、子ども・人の発達成長や心の健康に貢献することができるようにするために、関連科目として「教育実習」等の科目を提供すると共に、学習方法に演習・実験やアクティブ・ラーニング、グループワークを組み込みます。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける教員・学び続ける心理学の実践家）、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、ともに成長することができるよう、自身の興味関心に合わせて学びの幅を広げる関連科目や通信教育課程の併修制度等を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として形成した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実験・実習・インターンシップ等の取り組み状況による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

<求める学生像>

教育学部は教育・保育・心理職の重要性を自覚し、「理論と実践の往還」のもとで構築した知識・技能を活用して、協働的に子ども・人の健やかな発達成長や心にかかわる諸課題の解決・支援と新たな創造に取り組むことができる人材を養成します。そのために、次のような学生を求めています。

- ①教育学・臨床心理学を学修するに必要な基礎学力を有する人【知識・技能】
- ②常に社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）に関する問題意識を持ち、他者と協力して諸課題の解決や今後のあり方を論理的に考えようとする人【思考力・判断力・表現力】
- ③将来、教育・保育・心理職として活躍したいと考えている人【主体的に取り組む態度】
- ④自身の目標を設定し、それに向けて弛まぬ努力を惜しまない人【主体的に取り組む態度】

<大学入学までの学修の指針>

高等学校等までの学習では、学習指導要領にある「各学科に共通する各教科」（例えば国語や芸術、外国語など）を幅広く学習するとともに、得意教科を持つことを望みます。

- D4 目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける教員、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる

以上に示す力を修得するとともに、佛科大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および教育学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

教育学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、「理論と実践の往還」を踏まえ、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期（配当セメスター）などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実技、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力

する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、教育学領域の知識や技能と統合して活用することができるようにするために、実習やインターンシップ科目を提供すると共に、学習方法にアクティブ・ラーニングやグループワークを組み込みます。

教育学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から新たに知識構築や技能修得し、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができるようにするため、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目からなる専門教育を体系的に編成します。

- ①教育学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得し、学びの意欲と見通しを持つために、学部基幹科目として「教育原論」等の科目を提供する
- ②教育学領域の深い知識構築や技能修得し、学びの意欲と見通しを持つために、学科基礎科目として「アカデミック・スキルズ」「教育学基礎演習」等の科目を提供する
- ③社会（特に学校）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができるようにするために、学科専攻科目として「教育学演習」「卒業論文演習」等の科目を提供する
- ④社会（特に学校）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができるようにするために、学科専攻科目として「教育学演習」「卒業論文演習」等の科目を提供する

社会（特に学校）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、教育学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、子ども・人の発達成長に貢献することができるようにするために、関連科目として「教育実習」等の科目を提供すると共に、学習方法に演習やアクティブ・ラーニング、グループワークを組み込みます。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける教員）、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、ともに成長することができるよう、自身の興味関心に合わせて学びの幅を広げる関連科目や通信教育課程の併修制度等を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として形成した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実習・インターンシップ等の取り組み状況による評価

④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

<求める学生像>

教育学科は教育職の重要性を自覚し、「理論と実践の往還」のもとで構築した知識・技能を活用して、協働的に子ども・人の健やかな発達成長にかかわる諸課題の解決と新たな創造に取り組むことができる人材を養成します。そのために、次のような学生を求めています。

- ①教育学を学ぶに必要な基礎学力を有する人【知識・技能】
- ②常に社会（特に学校）に関する問題意識を持ち、他者と協力して諸課題の解決や今後のあり方を論理的に考えようとする人【思考力・判断力・表現力】
- ③将来、教育職として活躍したいと考えている人【主体的に取り組む態度】
- ④自身の目標を設定し、それに向けて弛まぬ努力を惜しまない人【主体的に取り組む態度】

<大学入学までの学修の指針>

高等学校等までの学習では、学習指導要領にある「各学科に共通する各教科」（例えば国語や芸術、外国語など）を幅広く学習するとともに、得意教科を持つことを望みます。

通学課程

- | | |
|-------|----------------------------|
| 1968年 | 文部省教育学科設置 |
| 1989年 | 教育学部教育学科設置
教育学部社会教育学科設置 |
| 1999年 | 社会教育学科を生涯学習学科に名称変更 |
| 2004年 | 生涯学習学科の学生募集を停止し、教育学科の収容定員増 |

通信教育課程

- | | |
|-------|------------|
| 1968年 | 文部省教育学科開設 |
| 1996年 | 教育学部教育学科開設 |

教育学部 幼児教育学科 取得学位：学士（教育学）

人材養成の目的

幼児教育学科は、建学の理念である仏教精神の4つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤とした上で、教育・保育職の重要性を自覚し、「理論と実践の往還」のもとで構築した知識・技能を活用して、協働的に子どもの発達成長における諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる人材を養成します。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、幼児教育学領域の知識や技能と統合して活用することができる
- D2 幼児教育学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から知識構築や技能修得をし、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる
- ①幼児教育学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している
 - ②幼児教育学領域の深い知識構築や技能修得をしている
 - ③社会（特に園）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができる
 - ④社会（特に園）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができる
- D3 社会（特に園）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、幼児教育学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、子どもの発達成長に貢献することができる
- D4 目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける教員・保育者）、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる

以上に示す力を修得するとともに、佛教学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および教育学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

幼児教育学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、「理論と実践の往還」を踏まえ、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期（配当セメスター）などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実技、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、幼児教育学領域の知識や技能と統合して活用することができるようにするために、実習やインターンシップ科目を提供すると共に、学習方法にアクティブ・ラーニングやグループワークを組み込みます。

幼児教育学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から新たに知識構築や技能修得し、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができるようにするため、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目からなる専門教育を体系的に編成します。

<求める学生像>

幼児教育学科は教育・保育職の重要性を自覚し、「理論と実践の往還」のもとで構築した知識・技能を活用して、協働的に子どもの健やかな発達成長にかかわる諸課題の解決と新たな創造に取り組むことができる人材を養成します。そのために、次のような学生を求めています。

- ①幼児教育学を学ぶに必要な基礎学力を有する人【知識・技能】
- ②常に社会（特に園）に関する問題意識を持ち、他者と協力して諸課題の解決や今後のあり方を論理的に考えようとする人【思考力・判断力・表現力】
- ③将来、教育・保育職として活躍したいと考えている人【主体的に取り組む態度】
- ④自身の目標を設定し、それに向けて弛まぬ努力を惜しまない人【主体的に取り組む態度】

<大学入学までの学修の指針>

高等学校等までの学習では、学習指導要領にある「各学科に共通する各教科」（例えば国語や芸術、外国語など）を幅広く学習するとともに、得意教科を持つことを望みます。

通学課程

- | | |
|-------|--------------|
| 2022年 | 教育学部幼児教育学科設置 |
|-------|--------------|

通信教育課程

- | | |
|-------|--------------|
| 2022年 | 教育学部幼児教育学科開設 |
|-------|--------------|

人材養成の目的

臨床心理学科は、建学の理念である仏教精神の4つの力①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を基盤とした上で、「こころ」の重要性を自覚し、「理論と実践の往還」のもとで構築した知識・技能を活用して、協働的に心の健康における諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる人材を養成します。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、臨床心理学領域の知識や技能と統合して活用することができる
- D2 臨床心理学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から知識構築や技能修得をし、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる
- ①臨床心理学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している
- ②臨床心理学領域の深い知識構築や技能修得をしている
- ③社会（特に臨床心理学の必要とされる現場）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができる
- ④社会（特に臨床心理学の必要とされる現場）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができる
- D3 社会（特に教育・医療・福祉・司法矯正・行政・企業などの分野）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、臨床心理学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、心にかかわる諸問題の解決・支援に貢献することができる
- D4 目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける心理学の実践家）、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる

以上に示す力を修得するとともに、佛科大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および教育学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

臨床心理学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、「理論と実践の往還」を踏まえ、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学習目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期（配当セメスター）などを考慮しながら主体的に履修できるように配慮します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、演習、実験、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、臨床心理学領域の知識や技能と統合して活用することができるようにするために、実習科目を提供すると共に、学習方法にアクティブ・ラーニングやグループワークを組み込みます。

臨床心理学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から新たに知識構築や技能修得し、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができるようにするため、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目からなる専門教育を体系的に編成します。

社会学部

人材養成の目的

社会学部は、仏教精神に基づく豊かな人間性と確固たる倫理観、感謝の精神と社会人としての教養を備え、自己を見つめる力、自分の考えを伝え他者の考えを理解する力、他者を尊重しともに行動する力を身につけ、社会学または公共政策をはじめとする各専門領域の学びを通して、現代社会の諸課題に積極的に取り組むために必要な専門性と実行力をもち、主体的に共生社会の形成に貢献できる人材を養成します。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 社会学または公共政策学の領域における専門的な知識や技術を修得し、社会における諸問題を把握・解決するために、その知識・技能を活用することができる
- ①社会学または公共政策の領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している
- ②社会学または公共政策の領域の深い知識や技能を修得している
- ③社会学または公共政策の領域の情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現することができる
- ④社会における問題を把握し、解決に必要な情報を収集・分析し、表現することができる
- D2 社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、社会学または公共政策学の領域で身につけた知識や技能等をもとに、社会に貢献することができる
- D3 自ら探求したい課題・テーマを見出し、目的や目標を定め、生涯にわたり主体的に学び続けるとともに、経験や実践を振り返りながら身につけた多様な能力を統合し、新たな学びへとつなげることができる。さらに、他者と協働し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる

以上に示す力を修得するとともに、佛科大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および社会学部各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

社会学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、アクティブ・ラーニング、PBL、インターンシップ、グループワーク、演習、実習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

社会学または公共政策学の領域における専門的な知識・技能を修得し、社会における諸問題を把握・解決のために、その知識・技能を活用することができるようにするため、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目からなる専門教育を体系的に編成します。

- ①社会学または公共政策学の領域に必要な基礎的な知識や視点を修得するために、学部基幹科目に「現代社会論」「公共性と社会」を提供する

- ①臨床心理学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得し、学びの意欲と見通しを持つために、学部基幹科目として「教育原論」等の科目を提供する
- ②臨床心理学領域の深い知識構築や技能修得し、学びの意欲と見通しを持つために、学科基礎科目として「アカデミック・スキルズ」「臨床心理学基礎ゼミ」等の科目を提供する
- ③社会（特に臨床心理学の必要とされる現場）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができるようにするために、学科専攻科目として「臨床心理学ゼミ」「卒業研究ゼミ」等の科目を提供する
- ④社会（特に臨床心理学の必要とされる現場）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができるようにするために、学科専攻科目として「臨床心理学ゼミ」「卒業研究ゼミ」等の科目を提供する

社会（特に臨床心理学の必要とされる現場）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、臨床心理学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、心の健康に貢献することができるようにするために、学習方法に演習・実験やアクティブ・ラーニング、グループワークを組み込みます。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける心理学の実践家）、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、ともに成長することができるよう、自身の興味関心に合わせて学びの幅を広げる関連科目や通信教育課程の併修制度等を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として形成した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせずて評価を行います。また、卒業論文の評価は、論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実験・実習等の取り組み状況による評価
- ④授業への取組状況や授業内的小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

<求める学生像>

臨床心理学科は心理学の重要性を自覚し、「理論と実践の往還」のもとで構築した知識・技能を活用して、協働的に心にかかわる諸課題の解決・支援と新たな創造に取り組むことができる人材を養成します。そのために、次のような学生を求めています。

- ①臨床心理学を学ぶに必要な基礎学力を有する人【知識・技能】
- ②常に社会（特に臨床心理学の必要とされる現場）に関する問題意識を持ち、他者と協力して諸課題の解決や今後のあり方を論理的に考えようとする人【思考力・判断力・表現力】
- ③将来、心理職として活躍したいと考えている人【主体的に取り組む態度】
- ④自身の目標を設定し、それに向けて弛まぬ努力を惜しまない人【主体的に取り組む態度】

<大入学者までの学修の指針>

高等学校等までの学習では、学習指導要領にある「各学科に共通する各教科」（例えば国語や芸術、外国語など）を幅広く学習するとともに、得意教科を持つことを望みます。

通学課程

2000年 教育学部臨床心理学科設置

- ②社会学または公共政策学の領域の情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現することができるようにするために、学科ごとに学科基礎科目（現代社会学科：「アカデミック・スキルズ」「社会学史（古典）」「社会学史（現代）」、公共政策学科：「アカデミック・スキルズ」「公共政策学（概論）」「公共政策学（各論）」を提供する
- ③社会学または公共政策学の領域の深い知識や技能を修得するため、学科ごとに学科基礎科目（現代社会学科：「アカデミック・スキルズ」「社会学史（古典）」「社会学史（現代）」、公共政策学科：「アカデミック・スキルズ」「公共政策学（概論）」「公共政策学（各論）」を提供する
- ④社会における問題を把握し、解決に必要な情報を収集・分析し、表現することができるようにするために、学科ごとに学科専攻科目（現代社会学科：「現代社会学ゼミ」「現代社会学卒業研究ゼミ」「卒業レポート」、公共政策学科：「公共政策学ゼミ」「公共政策学卒業研究ゼミ」「卒業レポート」）を提供する

社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、社会学または公共政策学の領域で身につけた知識や技能等をもとに社会に貢献することができるようにするため、講義、アクティブ・ラーニング、PBL、インターンシップ、グループワーク、演習、実習など、多様な学習方法を組み込んだ科目を提供します。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、他者と協働的に学び、ともに成長することができるよう、自身の興味関心に合わせて学びの幅を広げる科目や、自らが社会問題と向き合うPBL科目等を提供するとともに、人生の多様なステージや目的に応じて学びを深める機会を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせずて評価を行います。また、卒業研究レポートの評価は、レポートの内容に関する評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③プレゼンテーションによる評価
- ④授業への取組状況や授業内的小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

<求める学生像>

社会学部では、社会学や公共政策学をはじめとする専門領域の学びを通して、現代社会の諸課題に積極的に取り組むために必要な専門性と実行力をもち、主体的に共生社会の形成に貢献できる人材の養成を目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

- ①社会学、公共政策学と関連分野を学ぶ基礎となる学力を有する人【知識・技能】
- ②他者の考えを理解するとともに尊重し、共に行動できる人【思考力・判断力・表現力】
- ③学習や体験を通じて社会に対する問題意識を有する人【主体的に取り組む態度】
- ④現代社会の諸課題に積極的に取り組む意欲がある人【主体的に取り組む態度】

<大学入学までの学修の指針>

そこで、高等学校等での学修では、コミュニケーション能力にかかわる「国語」「外国語（英語）」を中心としつつ、「数学」「公民」など、専門的な学修に必要な基礎的学力にかかわる教科についても幅広く学んでいることを望みます。また、多くの人と積極的ににかかわる意志や姿勢を有していることを望みます。

社会学部

現代社会学科

取得学位：学士（社会学）

人材養成の目的

現代社会学科は、仏教精神に基づく豊かな人間性と確固たる倫理観、感謝の精神と社会人としての教養を備え、自己を見つめる力、自分の考えを伝え他者の考えを理解する力、他者を尊重しともに行動する力を身につけ、社会学をはじめとする専門領域の学びを通して、現代社会の諸課題に積極的に取り組むために必要な専門性と実行力を持ち、主体的に共生社会の形成に貢献できる人材を養成します。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 社会学の領域における専門的な知識や技術を修得し、社会における諸問題を把握・解決するために、その知識・技能を活用することができる
- ① 変転する現代社会の多様な現象や問題に対して、自己を見失わず常識にとらわれない柔軟な見方ができるよう、社会学の領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している
 - ② グローバル化し多文化が共存する世界の中で、異なる文化や宗教に開かれた態度をとり、地域の課題に的確な判断を下すことができるよう、社会学の領域の深い知識や技能を修得・活用し、分析・表現することができる
 - ③ 差別やマイノリティをめぐる課題など、多様な社会問題について幅広い知見を有し、共生社会の実現に寄与できるよう、社会学の領域の深い知識や技能を修得・活用し、分析・表現することができる
 - ④ 現代社会に必要な情報リテラシーを身につけ、情報の質的な受け手および送り手としてコミュニケーションできるよう、社会学の領域の深い知識や技能を修得・活用し、分析・表現することができる
- D2 社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、社会学の領域で身につけた知識や技能等をもとに、社会に貢献することができる
- D3 自ら探求したい課題・テーマを見出し、目的や目標を定め、生涯にわたり主体的に学び続けるとともに、経験や実践を振り返りながら身につけた多様な能力を統合し、新たな学びへとつなげることができる。さらに、他者と協働し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および社会学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

現代社会学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。学科専攻科目では文化・国際コース、共生・臨床社会コース、情報・メディアコースの3コースを設けています。

その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期（配当セメスター）などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、アクティブ・ラーニング、PBL、インターンシップ、グループワーク、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

社会学の領域における専門的な知識や技術を修得し、社会における諸問題を把握・解決するために、その知識・技能を活用することができるようにするため、学部基幹科目「現代社会論」「公共性と社会」、学科基礎科目「アカデミック・スキルズ」「社会学史（古典）」「社会学史（現代）」、学科専攻科目「現代社会学ゼミ」「現代社会学卒業研究ゼミ」「卒業リポート」を提供し、文化・国際コース、共生・臨床社会コース、情報・メディアコースからなる専門教育を体系的に編成します。

- ① 変転する現代社会の多様な現象や問題に対して、自己を見失わず常識にとらわれない柔軟な見方ができるよう、社会学の領域に必要な基礎的な知識や視点を修得するため、学部基幹科目「現代社会論」「公共性と社会」および学科基礎科目「アカデミック・スキルズ」「社会学史（古典）」「社会学史（現代）」を提供する
- ② グローバル化し多文化が共存する世界の中で、異なる文化や宗教に開かれた態度をとり、地域の課題に的確な判断を下すことができるよう、社会学の領域の深い知識や技能を修得・活用し、分析・表現することができるようにするために、学科基礎科目として「アカデミック・スキルズ」「社会学史（古典）」「社会学史（現代）」および学科専攻科目として「現代社会学ゼミ」「現代社会学卒業研究ゼミ」「卒業リポート」「文化社会学」「国際社会論」を提供する

社会学部

公共政策学科

取得学位：学士（社会学）

人材養成の目的

公共政策学科は、仏教精神に基づく豊かな人間性と確固たる倫理観、感謝の精神と社会人としての教養を備え、自己を見つめる力、自分の考えを伝え他者の考えを理解する力、他者を尊重しともに行動する力を身につけ、公共政策をはじめとする専門領域の学びを通して、現代社会の諸課題に積極的に取り組むために必要な専門性と実行力を持ち、主体的に共生社会の形成に貢献できる人材を養成します。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 公共政策学の領域における専門的な知識や技術を修得し、社会における諸問題を把握・解決するために、その知識・技能を活用することができる
- ① 社会、特に地域社会の課題に取り組むために、公共政策の領域に必要な政治学、経済学、法学および関連する学問に関する基礎的な知識や視点を修得している
 - ② 地域社会の担い手としての自覚をもって地域の課題に積極的に取り組む意志と実行力を備えるために、公共政策の領域の深い知識や技能を修得し、活用できる
 - ③ 己を見つめる力、自分の考えを伝え他者の考えを理解する力、他者を尊重しともに行動できるよう、公共政策の領域の情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現することができる
 - ④ 社会、特に地域社会における問題を把握し、解決に必要な情報を収集・分析し、表現することができる
- D2 社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、公共政策学の領域で身につけた知識や技能等をもとに、社会に貢献することができる

- ③ 差別やマイノリティをめぐる課題など、多様な社会問題について幅広い知見を有し、共生社会の実現に寄与できるよう、社会学の領域の深い知識や技能を修得・活用し、分析・表現することができるようにするために、学科基礎科目として「アカデミック・スキルズ」「社会学史（古典）」「社会学史（現代）」および学科専攻科目として「現代社会学ゼミ」「現代社会学卒業研究ゼミ」「卒業リポート」「共生の社会学」「臨床社会学」を提供する
- ④ 現代社会に必要な情報リテラシーを身につけ、情報の質的な受け手および送り手としてコミュニケーションできるよう、社会学の領域の深い知識や技能を修得・活用し、分析・表現することができるようにするために、学科基礎科目として「アカデミック・スキルズ」「社会学史（古典）」「社会学史（現代）」および「現代社会学ゼミ」「現代社会学卒業研究ゼミ」「卒業リポート」、学科専攻科目として「情報・メディアとコミュニケーション」「情報社会論」を提供する

社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、社会学の領域で身につけた知識や技能等をもとに社会に貢献することができるようにするため、アクティブ・ラーニング、PBL、インターンシップ、グループワーク、演習など、多様な学習方法を組み込んだ科目を提供します。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、他者と協働的に学び、ともに成長することができるよう、自身の興味関心に合わせて学びの幅を広げる科目や、自らが社会問題と向き合うプロジェクト科目等を提供するとともに、人生の多様なステージや目的に応じて学びを深める機会を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業研究レポートの評価は、レポートの内容に関する評価によって行います。

- ① 筆記試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ プレゼンテーションによる評価
- ④ 授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

<求める学生像>

現代社会学科では、社会学をはじめとする専門領域の学びを通して、現代社会の諸課題に積極的に取り組むために必要な専門性と実行力を持ち、主体的に共生社会の形成に貢献できる人材の養成を目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

- ① 社会学を学ぶ基礎となる学力を有する人【知識・技能】
- ② 他者の考えを理解するとともに尊重し、共に行動できる人【思考力・判断力・表現力】
- ③ 学習や体験を通じて社会に対する問題意識を有する人【主体的に取り組む態度】
- ④ 現代社会の諸課題に積極的に取り組む意欲がある人【主体的に取り組む態度】

<大学入学までの学修の指針>

そこで、高等学校等での学修では、コミュニケーション能力にかかわる「国語」「外国語（英語）」を中心としつつ、「数学」「公民」など、専門的な学修に必要な基礎的学力にかかわる教科についても幅広く学んでいることを望みます。また、多くの人と積極的ににかかわる意志や姿勢を有していることを望みます。

通学課程

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 1967年 | 社会学部社会学科設置 |
| 1989年 | 社会学部応用社会学科設置 |
| 2004年 | 社会学部現代社会学科設置
(社会学科、応用社会学科を改組改編) |

通信教育課程

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 1967年 | 社会学部社会学科開設 |
| 1995年 | 社会学部応用社会学科開設 |
| 2004年 | 社会学部現代社会学科開設
(社会学科、応用社会学科を改組改編) |

- D3 自ら探求したい課題・テーマを見出し、目的や目標を定め、生涯にわたり主体的に学び続けるとともに、経験や実践を振り返りながら身につけた多様な能力を統合し、新たな学びへとつなげることができる。さらに、他者と協働し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および社会学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

公共政策学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。学科専攻科目では地域政治コース、地域経済コースの2コースを設けています。

その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期（配当セメスター）などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、アクティブ・ラーニング、PBL、インターンシップ、グループワーク、演習、実習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

公共政策学の領域における専門的な知識・技能を修得し、社会における諸問題を把握・解決のために、その知識・技能を活用することができるようにするため、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目からなる専門教育を体系的に編成します。

- ①社会、特に地域社会の課題に取り組むために、公共政策学の領域に必要な政治学、経済学、法学および関連する学問に関する基礎的な知識や視点を修得できるよう、学部基幹科目「現代社会論」「公共性と社会」および学科基礎科目「アカデミック・スキルズ」「公共政策学(概論)」「公共政策学(各論)」を提供する
- ②地域社会の担い手としての自覚をもって地域の課題に積極的に取り組む意志と実行力を備えるために、公共政策の領域の深い知識や技能を修得し、活用できるようにするため、学科基礎科目「アカデミック・スキルズ」「公共政策学(概論)」「公共政策学(各論)」および地域政治コース・地域経済コースの学科専攻科目を提供する
- ③己を見つめる力、自分の考えを伝え他者の考えを理解する力、他者を尊重しともに行動できるよう、公共政策の領域の情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現することができるようにするため、学科基礎科目「アカデミック・スキルズ」「公共政策学(概論)」「公共政策学(各論)」および学科専攻科目「公共政策学ゼミ」「公共政策学卒業研究ゼミ」「卒業レポート」、地域政治コース、地域経済コースを提供する
- ④社会、特に地域社会における問題を把握し、解決に必要な情報を収集・分析し、表現することができるようにするため、学科基礎科目「アカデミック・スキルズ」「公共政策学(概論)」「公共政策学(各論)」および学科専攻科目「公共政策学ゼミ」「公共政策学卒業研究ゼミ」「卒業レポート」、地域政治コース、地域経済コースを提供する

社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、社会学または公共政策学の領域で身につけた知識や技能等をもとに社会に貢献することができるようにするため、アクティブ・ラーニング、PBL、インターナシッブ、グループワーク、演習・実習など、多様な学習方法を組み込んだ科目を提供します。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、他者と協働的に学び、ともに成長することができるよう、自身の興味関心に合わせて学びの幅を広げる科目や、自らが社会問題と向き合うプロジェクト科目等を提供するとともに、人生の多様なステージや目的に応じて学びを深める機会を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業研究レポートの評価は、レポートの内容に関する評価によって行います。

- ①筆記試験による評価

- ②レポート試験による評価

- ③プレゼンテーションによる評価

- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッションポリシー(入学者受入れの方針)

<求める学生像>

公共政策学科では、公共政策学をはじめとする専門領域の学びを通して、現代社会の諸課題に積極的に取り組むために必要な専門性と実行力をもち、主体的に共生社会の形成に貢献できる人材の養成を目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

- ①公共政策学を学ぶ基礎となる学力を有する人【知識・技能】
- ②他者の考えを理解するとともに尊重し、共に行動できる人【思考力・判断力・表現力】
- ③学習や体験を通じて社会に対する問題意識を有する人【主体的に取り組む態度】
- ④現代社会の諸課題に積極的に取り組む意欲がある人【主体的に取り組む態度】

<大学入学までの学修の指針>

そこで、高等学校等での学習では、コミュニケーション能力にかかわる「国語」「外国語(英語)」を中心としつつ、「数学」「公民」など、専門的な学修に必要な基礎的学力にかかわる教科についても幅広く学んでいることを望みます。また、多くの人と積極的ににかかわる意志や姿勢を有していることを望みます。

通学課程

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 1967年 | 社会学部社会学科設置 |
| 1989年 | 社会学部応用社会学科設置 |
| 2004年 | 社会学部公共政策学科設置
(社会学科、応用社会学科を改組改編) |

通信教育課程

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 1967年 | 社会学部社会学科開設 |
| 1995年 | 社会学部応用社会学科開設 |
| 2004年 | 社会学部公共政策学科開設
(社会学科、応用社会学科を改組改編) |

社会福祉学部

社会福祉学部

社会福祉学科

取得学位：学士（社会福祉学）

人材養成の目的

社会福祉学部社会福祉学科は、多様な人々と安心して暮らせる地域社会のために、相互理解や権利意識を持ち、福祉の歴史や原理を社会に活かす力を身につけるとともに、自分の価値を大切にしつつ、異なる価値観を持つ相手とも対話を重ね、社会の課題を新たな可能性の機会として捉えられる人材を養成します。

ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

- D1 多様な人々とともに生きるために必要とされる相互理解に不可欠な知識、教養、技能を身につけ、現実社会と関連づけた権利意識に基づき、福祉の歴史や原理を社会の様々な領域で活かすことができる
 - ①自分とは異なる立場の考え方を理解することができる
 - ②社会や日常の出来事を権利の視点から考えることができる
 - ③培われてきた福祉の歴史や原理をもとに次の社会を展望できる
- D2 自らの価値を大切にしながら、価値が相違する相手とも丁寧に対話を進め、日々、社会で起こる諸課題を新たな価値の創出機会と捉えなおすことができる
 - ①自らの意思や感情を他者に応じて表現することができる
 - ②生活背景を踏まえて他者の視点や立場を想像することができる
 - ③社会の諸課題を新たな可能性を生み出すきっかけにすることができる
- D3 誰もが平等に扱われ自由で安心して暮らせる地域社会をめざして、必要とされるケアや環境を追求し続けることができる

以上に示す社会福祉学部社会福祉学科のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)および佛教大学のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に示す力を修得した学生に対して学位(学士)を授与します。

カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

<教育課程の編成方針>

社会福祉学科では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系的な教育課程(カリキュラム)として編成します。その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系的、および各科目の特性や内容、科目の開講時期(配当セメスター)などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、実技、実習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

多様な人々とともに生きるために必要とされる相互理解に不可欠な知識、教養、技能を身につけ、現実社会と関連づけた権利意識に基づき、福祉の歴史や原理を社会のさまざまな領域で活かすことができるよう、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目等からなる専門教育課程を体系的に編成します。

- ①自分とは異なる立場の考え方を理解することができるよう、学部基幹科目として「現代の社会問題とアクション」「福祉とケアの倫理」を提供する
- ②社会や日常の出来事を権利の視点から考えることができるよう、学部基幹科目として「人権と福祉」、学科基礎科目として「社会保障論」を提供する
- ③培われてきた福祉の歴史や原理をもとに社会を展望できるよう、学科基礎科目として「社会福祉史」「社会福祉原論」を提供する

自らの価値を大切にすると同時に、価値が異なる相手とも丁寧な対話を進め、日々、社会で起こる諸課題を新たな価値の創出機会と捉えなおすことができるよう、社会福祉の実践に基づいた教育課程を提供します。

- ①自らの意思や感情を他者に応じて表現することができるよう、学科基礎科目として「地域共創演習」「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク演習(専門)」を提供する
- ②生活背景を踏まえて他者の視点や立場を想像することができるよう、学科基礎科目として「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)」、学科専攻科目として「ソーシャルワーク演習(専門)」を提供する

- ③社会の諸課題を新たな可能性を生み出すきっかけにすることができるよう、学科基礎科目として「若者支援論」「ソーシャル・ビジネス論」、学科専攻科目として「地域共創演習」をそれぞれ提供する
- ④誰もが平等に扱われ自由で安心して暮らせる地域社会をめざして、必要とされるケアや環境を追求し続けることができるよう、学科基礎科目・学科専攻科目・関連科目において各資格・免許状に応じた科目を提供する

<学修成果の評価方針>

授業を通じて修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下の4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実技試験または実習による評価
- ④授業への取り組み状況や授業内小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッションポリシー(入学者受入れの方針)

<求める学生像>

社会福祉学科では、さまざまな人々が安心して一緒に暮らせる社会を目指して学びを深めます。他の人の考え方を理解したり、一人ひとりが持つ権利について考えたりする力を育みます。また、自分の大切な価値観を守りながら、違う考えを持つ人々とも話し合い、社会の問題を解決する新しいアイデアを生み出す力を身につけます。社会福祉学科では、こうした考え方や目標に共感し、専門的な分野に興味を持って積極的に学ぼうとする人や、他の人と協力しながら自分の夢や社会に役立つことを実現しようとする人を受け入れます。そのために、次のような学生を求めています。

- ①必要な情報を適切に読み取り複数の点から物事を捉えられる人【知識・技能】
- ②憲法に定められている国民の権利について理解している人【知識・技能】
- ③社会が発展してきた過程を理解している人【知識・技能】
- ④自分も他者も大切にするための手段や方法を考えられる人【思考力・判断力・表現力】
- ⑤自分とは違う意見や視点に関心をもって他者と接することができる人【思考力・判断力・表現力】
- ⑥世の中の常識に疑問や違和感をもったことがある人【主体的に取り組む態度】

<大学入学までの学修の指針>

高等学校等までの学習では、社会福祉と関連が深い教科である「国語」「地理歴史」を中心としつつ、「外国語(英語)」「公民」など、専門的な学修に必要な基礎学力にかかわる教科についても幅広く学んでいることを望みます。

通学課程

- | | |
|-------|--|
| 1962年 | 仏教学部仏教福祉学科設置 |
| 1965年 | 文学部社会福祉学科設置 |
| 1967年 | 社会学部社会福祉学科設置 |
| 2000年 | 社会学部健康福祉学科設置 |
| 2004年 | 社会福祉学部社会福祉学科設置
(社会福祉学科、健康福祉学科を改組改編) |

通信教育課程

- | | |
|-------|----------------|
| 1963年 | 仏教学部仏教福祉学科開設 |
| 1965年 | 文学部社会福祉学科開設 |
| 1967年 | 社会学部社会福祉学科開設 |
| 2004年 | 社会福祉学部社会福祉学科開設 |

保健医療技術学部

人材養成の目的

保健医療技術学部は、高い倫理観と他者への思いやりや円滑なコミュニケーション能力を有し、人々の健康に貢献できる人材を育成します。また、保健・医療に関する知識と専門職としての技術をもち、生涯にわたって自己研鑽を続ける力を備える人材を育成します。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 保健・医療に関する基礎的な知識と、専門職としての基本的な実践能力を有している
- D2 さまざまな環境で生活する人々の健康に貢献するために、情報や知識を収集・分析し、適切な説明・報告をすることができる
- D3 豊かな人間性と倫理観を基盤に、保健・医療・健康に携わる者として人を思いやり共感できる
- D4 関係する全ての人々と良好なコミュニケーションをとる能力を有している
- D5 多職種連携における専門職としての自身の役割を理解し、協働することができる
- D6 社会の変化や保健・医療の高度化・情報化に関心を持ち、目標を持って生涯にわたり自己研鑽し続ける力を持っている

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および保健医療技術学部各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

保健医療技術学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた保健・医療に関する知識、専門家としての心構えや資質、実践能力などの修得に向け、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性を持って教育課程（カリキュラム）を編成します。また医療専門職の国家資格やその他の資格取得といった個々の学修目的に合わせて、講義、演習、実習、学外（施設）実習などを適切に組み合わせ段階的に配置します。

<教育課程実施の方針>

- ①保健・医療に関する基礎的な知識と、専門職としての基本的な実践能力の修得に向けた基盤となる科目として学部基幹科目、学科基礎科目を提供する
- ②さまざまな対象者の健康に貢献するために、情報や知識を収集・分析する方法や、それらを適切に説明・報告するための手法が修得できるように、学科基礎科目、学科専攻科目を提供する
- ③豊かな人間性や倫理観などの社会人としての資質を育み、それらを専門職の基盤とするために学部基幹科目や学科基礎科目、学科専攻科目を配置し、講義や演習、学外（施設）実習を提供する

保健医療技術学部

理学療法学科

取得学位：学士（保健学）

人材養成の目的

理学療法学科は、多様な価値観や背景を持つ人々への思いやりや、信頼関係を築くためのコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目指します。また、保健・医療に関する基礎知識と専門職としての実践能力を備えるとともに、より効果的な理学療法アプローチを追求するための研究的思考を身につけた人材の養成に努めます。さらに、自己研鑽を怠らない姿勢を備えた人材を育成します。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 保健・医療に関する基礎的な知識と、理学療法士としてそれらを適切に活用できる基本的な実践能力を身につけている
- D2 さまざまな対象者に対して、より効果的な理学療法アプローチを追求するために、研究的な思考に基づき隣接領域を含めた知見を収集・分析する能力を身につけている
- D3 豊かな人間性、倫理観を持ち、保健・医療・健康に携わる者として多様な価値観や背景を持つ人々を思いやり共感できる
- D4 対象者やその家族ならびに連携する多職種と円滑なコミュニケーションをとる能力を身につけている
- D5 専門職としての役割を理解するとともに、関連する多職種と信頼関係を築き連携し、対象者の健康のために協働することができる
- D6 保健・医療の現場で直面する課題に関心を持ち、常に自己研鑽を怠らない姿勢を身につけている

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および保健医療技術学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

理学療法学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた保健医療に関する知識、理解、汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目（基礎医学系科目、臨床医学系科目、基礎運動学など）、学科専攻科目（各疾患別の理学療法学など）、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性と体系性、各科目の特性や内容、科目の開講時期（配当セメスター）などを考慮しながら主体的に履修できるように配慮します。また学習方法については、学生が国家資格ならびにその他の資格取得などの自分の学修目的にあわせて教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、演習、実習、学外施設での臨床実習などを適切に組み合わせ科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

- ①あらゆる人を社会の一員として理解するために、保健・医療に関する基本的な知識と、理学療法士として必要な基礎的な知識と技術を学べる科目として学部基幹科目、学科基礎科目「解剖学」「生理学」などの基礎医学系科目、「整形外科学」「神経内科学」などの臨床医学系科目、「基礎運動学」などを提供する

- ④コミュニケーション力の向上を目的として学科専攻科目における学内演習・実習、学外（施設）実習を提供する
- ⑤自己研鑽の重要性を認識し、演習などでそれを実行できる素地を育成できるよう学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目・関連科目による講義や演習、学外（施設）実習を提供する

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて以下に示す評価方法を組み合わせて評価を行います。

- ①筆記試験による評価
- ②実技試験による評価
- ③レポート試験による評価
- ④各種提出物の内容に関する評価
- ⑤科目担当者が指定する方法による評価（授業への取組状況や授業内小テストなど）
- ⑥学科が定める学外（施設）実習の評価

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

<求める学生像>

保健医療技術学部では、高い倫理観と他者への思いやり、円滑なコミュニケーション能力を有し、医療・福祉および健康支援に関する専門的な知識と技術を修得することを教育の基盤としています。また、生涯にわたって自己研鑽を続けながら、自己実現や社会貢献、人々の健康や生活の質の向上に主体的に取り組むことのできる人材の育成を目的としています。このような本学部の理念に共感し、各専門分野への強い関心と向学心を持ち、他者と協調・協働しながら主体的に学び、将来にわたって社会に貢献しようとする多様な人を受け入れます。そのために、次のような学生を求めています。

- ①専門科目を学修するに必要な基礎学力を有する人【知識・技能】
- ②直面する問題に立ち向かい、問題解決のために効果的なあり方を考え、行動することができる思考力・創造性と判断力を有する人【思考力・判断力・表現力】
- ③相手に伝わるように内容を十分に咀嚼し、分かりやすい言葉で話せる表現力を有する人【思考力・判断力・表現力】
- ④専門領域のプロフェッショナルを目指す高い目的意識をもち、真摯な取り組みのできる人【主体的に取り組む態度】
- ⑤社会や地域に貢献したいという意欲を有する人【主体的に取り組む態度】

<大学入学までの学修の指針>

専門分野を学修するために必要な基礎学力（読解力、表現力、論理的思考力）があり、目指す専門領域に強い興味をもち常に学び続ける生涯学習の意欲を有する人を望みます。

- ②さまざまな対象者の特性とニーズに対応した理学療法を実践できる力を身につけるために、各疾患別の理学療法ならびに「運動療法学」「物理療法学」「装具学」「義肢学」「日常生活動作学」などの理学療法技術を教授する学科専攻科目を設定する
- ③効果的な理学療法を目指して研究的思考を身につけるために学科基礎科目として「理学療法研究法」ならびに学科専攻科目として「理学療法研究法演習」を提供する
- ④保健・医療・健康に携わる者として求められる基本的な資質・能力を身につけ、人間性を涵養するための学科専攻科目として「臨床基礎実習」「地域理学療法学」を提供する
- ⑤基本的な理学療法知識と技術を統合して、対象者や関係者とのコミュニケーションならびに多職種と連携する能力を身につけるための学外施設での臨床実習科目として「臨床評価実習」「総合臨床実習」を提供する
- ⑥専門性の発展や問題解決に貢献できる基盤をつくる学科横断プログラムを提供する

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す評価方法を組み合わせて評価を行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実技試験による評価
- ④授業への取組状況や授業内課題、提出物など、科目担当者が指定する方法による評価
- ⑤学科が定める学外臨床実習の評価（CBT:computer based testing, OSCE:客観的臨床能力試験等を含む）

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

<求める学生像>

理学療法学科では、専攻する学問分野における専門的な知識・技能を身につけ、生涯にわたって学び続けながら、自己実現や社会貢献に向けて活動することのできる人材の養成を目的としています。このような本学科の人材養成の目的に共感し、理学療法専門分野において強い関心と学ぼうとする確かな意欲をもち、主体的に活動する人を受け入れます。そのために、次のような学生を求めています。

- ①理学療法を学修するに必要な基礎学力を有している人【知識・技能】
- ②保健・医療の現場で直面する課題に関心を持つ人【思考力・判断力・表現力】
- ③理学療法士を目指す高い目的意識をもち、真摯な取り組みのできる人【主体的に取り組む態度】
- ④理学療法士として社会や地域に貢献したいという意欲を有する人【主体的に取り組む態度】

<大学入学までの学修の指針>

専門的な学修に必要な基礎学力（読解力、表現力、論理的思考力）を幅広く身につけていることを望みます。

通学課程

2006年 保健医療技術学部理学療法学科設置

保健医療技術学部

作業療法学科

取得学位：学士（保健学）

人材養成の目的

作業療法学科は、高い倫理観と他者への思いやりや円滑なコミュニケーション能力を有し、人々の健康に貢献できる作業療法士を育成します。また、保健・医療に関する知識と専門職としての技術をもち、生涯にわたって自己研鑽を続ける力を備えるよう育成します。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 作業療法に関する基礎的な知識と、専門職としての基本的な実践能力を有している
- D2 さまざまな環境で生活する人々の健康に貢献するために、専門的知識・技能を活用することができ

- ①対象者にとって必要な情報や知識を収集し、作業療法視点で分析することができる
②分析の結果を、適切に説明・報告することができる
D3 豊かな人間性と倫理観を基盤に、作業療法に携わる者として人を思いやり共感できる
D4 作業療法士として関係する全ての人々と良好なコミュニケーションをとる能力を有する
D5 作業療法士として自身の役割を理解し、多職種連携のもと協働の姿勢を持つことができる
D6 社会の変化や保健・医療の高度化・情報化・作業療法の職域の発展に関心を持ち、目標を持って生涯にわたり自己研鑽する力を持っている

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)および保健医療技術学部ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に示す力を修得した学生に対して学位(学士)を授与します。

カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

＜教育課程の編成方針＞

作業療法学科では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程(カリキュラム)を編成します。その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期(配当セメスター)などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。

また学習方法については、学生が医療専門職の国家資格やその他の資格取得といった個々の学修目的に合わせて、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、演習、臨床実習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

＜教育課程実施の方針＞

- ①作業療法に関する基礎的な知識と、専門職としての基本的な実践能力を身に付け、活用することができるようにするため、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目からなる専門教育を体系的に編成する
①-1作業療法に関する幅広い知識や視点を身に付けるために学部基幹科目に設定されている「健康科学概論」を提供する
①-2保健・医療領域の基礎的な知識や技能を修得するために、基礎医学系科目・臨床医学系科目を提供する
①-3さまざまな作業療法の場において、対象の健康段階や発達段階の特性とニーズを理解するために必要な情報を収集し、分析することができるよう作業療法の基盤系科目・評価系科目を提供する
①-4さまざまな作業療法の場において、分析結果を適切に説明・報告することができるよう治療学系科目・臨床実習系科目・研究系科目を提供する
②医療人として、関係する全ての人々と良好なコミュニケーションをとることができるよう、コミュニケーションを学ぶ科目群として、「作業療法コミュニケーション学Ⅰ,実習系科目」を提供する
③作業療法士としての自身の役割を理解し、多職種連携のもと協働の姿勢を身に付け、活用することができるよう、臨床実習系科目を提供する

看護学部

看護学部	看護学科	取得学位：学士（看護学）
------	------	--------------

人材養成の目的

看護学部看護学科は、豊かな人間性と倫理観を基盤に看護職として人を思いやり共感できる人材を養成します。あわせて、看護学の学識と基礎的な看護実践能力、対象を理解し支援するためのコミュニケーション力、多職種と協働する力、自己研鑽する力、研究的思考やグローバルな視点を備え、地域社会や人々の健康に貢献できる人材を養成します。

ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

- D1 豊かな人間性と倫理観を基盤に、看護職として人を思いやり共感できる
D2 看護学および隣接領域に関する知識と基礎的な看護実践能力を身につけている
D3 グローバルな視点をもち、地域社会やあらゆる環境下において生活する人々の健康に貢献できる力を身につけている
D4 看護の対象を理解し支援するための適切なコミュニケーション力を身につけている
D5 多職種連携における看護職の役割を理解し協働できる
D6 よりよい看護を追求するための研究的思考を身につけている
D7 社会の変化や保健・医療の高度化・情報化に関心を持ち、自己研鑽する力を備えている

以上に示す看護学部看護学科のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)および佛教大学のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に示す力を修得した学生に対して学位(学士)を授与します。

カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

＜教育課程の編成方針＞

看護学科では、入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)に基づき入学した学生が卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる知識や能力を修得できるように、次に掲げる教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)5項目に添った教育課程を編成し実施します。

また、教育方法として、講義では、看護および多分野にわたる学問を通じ、看護職に必要な知識を体系的に学びます。演習では、学内で模擬実践を行い、看護技術やコミュニケーションスキル等を実践的に修得します。また、シミュレーション学習を中心とした、現場に近い環境での学修を行います。臨地実習では、病院や施設での体験学習を通じ、看護を支える思考とともに知識技術を活用し看護実践能力の向上を目指します。看護職に必要な知識、技術、態度を総合的に養成するため、講義、演習、実習を組み合わせ多面的に教育しています。

＜教育課程実施の方針＞

- ①社会人として必要な教養や看護職として求められる基本的な資質・能力を身に付け、人間性を涵養するために、仏教関連科目をはじめとした科目を配置する
②社会環境の中で存在する人間を包括的(全人的)に理解することを基盤として、対象となる人々の健康に関与する看護学の基本を学ぶ科目を配置する
③多様な看護の場において、対象の健康段階や発達段階の特性とニーズに応じた看護を展開する能力を身につける学科専攻科目を配置する
④看護の知識と技術を統合し、対象を中心とした多職種と連携する能力を身につける臨地実習科目を配置する
⑤より良い看護を探索し、専門性の発展に貢献する看護学研究活動の基盤をつくる科目を配置する

- ④社会の変化や保健・医療の高度化・情報化・作業療法の職域の発展に関心を持ち続け、共に成長することができるよう学びの幅を広げ、生涯にわたり自己研鑽の重要性を認識し実行できるよう基盤をつくるための科目として演習系科目、臨床実習系科目、関連科目を提供する

＜学修成果の評価方針＞

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて以下に示す評価方法を組み合わせて評価を行います。

- ①筆記試験による評価
②実技試験による評価
③レポート試験による評価
④各種提出物の内容に関する評価
⑤科目担当者が指定する方法による評価(授業への取組状況や授業内小テストなど)
⑥学科が定める学外(施設)実習の評価

アドミッションポリシー(入学者受入れの方針)

＜求める学生像＞

作業療法学科では、高い倫理観と他者への思いやりや円滑なコミュニケーション能力を有し、人々の健康に貢献できる作業療法士を育成します。また、保健・医療に関する知識と専門職としての技術をもち、生涯にわたって自己研鑽を続ける力を備えるような人材育成を目的としています。このような本学科の目的に共感し、作業療法に強い関心と学ぼうとする確かな意欲をもち、他者と協調・協働することで、自己実現や社会貢献に向けて主体的に活動する意欲がある多様な人を受け入れます。そのために、次のような学生を求めています。

- ①作業療法を学修するために必要な基礎学力を有する人【知識・技能】
②問題解決のために効果的なあり方を考え、行動することができる思考力・創造性と判断力を有する人【思考力・判断力・表現力】
③相手に伝わるように話せる表現力を有する人【思考力・判断力・表現力】
④他者の話をよく聞き、他者の話から学ぶ協調的姿勢を有する人【主体的に取り組む態度】
⑤作業療法士として社会や地域に貢献したいという意欲を有する人【主体的に取り組む態度】

＜大学入学までの学修の指針＞

作業療法を学修するために必要な基礎学力(読解力、表現力、論理的思考力)があり、作業療法に興味をもち学び続ける意欲を有する人を望みます。

通学課程

2006年 保健医療技術学部作業療法学科設置

＜学修成果の評価方針＞

全ての開講科目について、それぞれの学修目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知し、学修成果を厳格かつ公正に評価することにより、仏教精神を基盤に社会のニーズに応じた質の高い看護基礎教育を実現します。学生の学修成果は、定期試験、課題、発表等を用いて多角的な観点から評価します。また、臨地実習においては、学生が提出する記録物、実習態度等をふまえ、実習目標の達成度を総合的に評価します。具体的な評価方法は以下の通りです。

- ①筆記試験・レポート試験による評価
②演習科目での実技試験による評価
③実習科目での実習目標到達度(知識・技術・態度など)による評価
④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

アドミッションポリシー(入学者受入れの方針)

＜求める学生像＞

看護学科では、豊かな人間性と倫理観を基盤に看護職として人を思いやり共感できる人材の養成を目指しています。あわせて、看護学の学識と基礎的な看護実践能力、対象を理解し支援するためのコミュニケーション力、多職種と協働する力、自己研鑽する力、研究的思考やグローバルな視点を備え、地域社会や人々の健康に貢献できる人材の養成を目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

- ①看護学を学ぶために必要な基礎学力を備え、学習を継続する力を有する人【知識・技能】
②看護職に求められるスキルを高め、地域で生活する人々の健康に貢献したいという意欲がある人【知識・技能】
③看護学を学び、豊かな感性と論理的に考え判断する力、情報を活用する力を身につけようとする人【思考力・判断力・表現力】
④他者の考えを知るとともに、自分の考えを自分の言葉で表現できる人【思考力・判断力・表現力】
⑤人への深い関心を持ち、人の可能性を信じ、自分も他者も大切にできる人【主体的に取り組む態度】
⑥他者を思いやることができ、多様な人と主体的にコミュニケーションをとることができる人【主体的に取り組む態度】

＜大学入学までの学修の指針＞

そこで、高等学校等での学習は、コミュニケーション能力にかかわる「国語」「外国語(英語)」を中心に、「数学」「理科」なども含め、専門的な学習に必要な基礎的学力にかかわる教科についても幅広く学んでいることを望みます。また、人に関心を持ち、人と積極的ににかかわる意志や姿勢を有していることを望みます。

通学課程

2026年 看護学部看護学科設置

文学研究科

仏教学専攻

取得学位：修士（文学）・博士（文学）

修士課程

◆人材養成の目的

- ①浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関する高度な専門知識と研究能力を持つ浄土宗教師を養成する。
- ②浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関する高度な専門知識と研究能力を持つ人材を養成する。
- ③浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関する高度な専門知識と研究能力を持ち、それを活かした専門職に就く人材を養成する。

博士後期課程

◆人材養成の目的

- ①浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関して、高度な専門知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成する。
- ②浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成する。

通学課程

- 1967年** 修士課程設置
（浄土学専攻、仏教学専攻。仏教文化専攻は1991年）
- 1969年** 博士後期課程設置
（仏教学専攻。浄土学専攻、仏教文化専攻は1998年）
- 2015年** 修士課程、博士後期課程の各3専攻（浄土学専攻、仏教学専攻、仏教文化専攻）をそれぞれ仏教学専攻として設置

通信教育課程

- 1999年** 修士課程（浄土学専攻、仏教学専攻、仏教文化専攻）開設
博士後期課程（仏教学専攻）開設
- 2015年** 修士課程（浄土学専攻、仏教学専攻、仏教文化専攻）、博士後期課程（仏教学専攻）をそれぞれ仏教学専攻として開設

文学研究科

文学専攻

取得学位：修士（文学）・博士（文学）

修士課程

◆人材養成の目的

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する教育者・研究者となるための基礎的能力を持った人材を養成する。
- ②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する高度の専門知識・能力を持ち、中学・高校教員等の専門職に従事する人材を養成する。
- ③日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する高度の知識を活用して社会基盤を支える知的教養を有し、地域社会や国際社会や国際交流に貢献できる知見を備えた人材を養成する。

博士後期課程

◆人材養成の目的

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関して高度な専門知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成する。
- ②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関して確かな教育能力と研究能力とを兼ね備えた教育者を養成する。

通学課程

- 1981年** 修士課程設置
（国文学専攻。中国文学専攻は1993年、英米文学専攻は1987年）
- 1991年** 博士後期課程設置
（国文学専攻。中国文学専攻は1998年、英米文学専攻は1995年）
- 2015年** 修士課程、博士後期課程の各3専攻（国文学専攻、中国文学専攻、英米文学専攻）をそれぞれ文学専攻として設置

通信教育課程

- 1999年** 修士課程開設
（中国文学専攻、英米文学専攻。国文学専攻は2001年）
- 2015年** 修士課程（国文学専攻、中国文学専攻、英米文学専攻）を文学専攻として開設

文学研究科

歴史学専攻

取得学位：修士（文学）・博士（文学）

修士課程

◆人材養成の目的

- ①歴史学に関する創造性豊かな優れた知的活動を支援するための基礎的能力を持つ人材を養成する。
- ②歴史学に関する広汎で高度な専門知識や分析・研究の技能を活用できる人材を養成する。
- ③世界的視野をもって現代を見つめ、知的基盤社会を支える高度で知的な社会活動が実践できる人材を養成する。

博士後期課程

◆人材養成の目的

- ①歴史学に関する優れて高度な専門知識をもち、独創性豊かな優れた研究能力と優れた教育能力を兼ね備えた人材を養成する。
- ②歴史学に関する独創性豊かな優れた研究成果を学界のみならず広く社会に発信し、還元できる人材を養成する。

通学課程

- 1971年** 修士課程（日本史学専攻、東洋史学専攻）設置
- 1977年** 博士後期課程（日本史学専攻、東洋史学専攻）設置
- 2015年** 修士課程、博士後期課程の各2専攻（日本史学専攻、東洋史学専攻）をそれぞれ歴史学専攻として設置

通信教育課程

- 1999年** 修士課程（日本史学専攻、東洋史学専攻）開設
- 2003年** 博士後期課程（日本史学専攻）開設
- 2015年** 修士課程（日本史学専攻、東洋史学専攻）、博士後期課程（日本史学専攻）をそれぞれ歴史学専攻として開設

教育学研究科

生涯教育専攻

取得学位：修士（教育学）・博士（教育学）

修士課程

◆人材養成の目的

- ①教育学に関する高度な専門的知識、能力をもち、人間の生に寄り添って支援しようとする高度専門職業人を養成する。
- ②教育学に関する創造性豊かな優れた研究者・教育者となるための基礎的能力を持つ人材を養成する。
- ③教育学に関する高度な知識と技能をもって、地域社会を支える高度で知的な素養のある人間性豊かな人材を養成する。

博士後期課程

◆人材養成の目的

- ①教育学に関する高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成する。
- ②教育学に関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成する。

通学課程

1993年 修士課程設置

2001年 博士後期課程設置

通信教育課程

1999年 修士課程開設

教育学研究科

臨床心理学専攻

取得学位：修士（教育学）・博士（教育学）

修士課程

◆人材養成の目的

- ①高度専門職業人としての「臨床心理士・公認心理師」を養成する。
- ②臨床心理学、心理臨床学に関する創造性豊かな優れた研究者・教育者となるための専門領域における基礎的能力を持つ人材を養成する。
- ③臨床心理学、心理臨床学に関する高度な知識と技能を活用しながら、地域社会を支える、高度で知的な素養のある人間性豊かな人材を養成する。

博士後期課程

◆人材養成の目的

- ①臨床心理学、心理臨床学に関する高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成する。
- ②臨床心理学、心理臨床学に関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成する。

通学課程

2002年 修士課程設置

2005年 博士後期課程設置

通信教育課程

2003年 修士課程開設

社会学研究科

社会学専攻

取得学位：修士（社会学）・博士（社会学）

修士課程

◆人材養成の目的

- ①社会学系の文化、社会情報、共生・臨床、ソーシャル・マネジメント系の環境、地域に関する高度な知識を活用しながら、知識基盤社会を支える、高度で知的な素養のある人材を養成する。
- ②新しい社会状況に対応し得る、高度な学問的分析と政策提言のできる高度専門職業人を養成する。
- ③社会学系の文化、社会情報、共生・臨床の3領域、ソーシャル・マネジメント系の環境、地域の2領域に関する創造性豊かな優れた研究者・教育者となるための基礎的能力を持つ人材を養成する。

博士後期課程

◆人材養成の目的

- ①社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関して、専門的かつ先端的な課題に取り組み、高度な研究能力を持つ研究者を養成する。
- ②社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成する。

通学課程

1973年 修士課程設置

1977年 博士後期課程（社会学・社会福祉学専攻）設置

2006年 博士後期課程（社会学専攻）設置

通信教育課程

2001年 修士課程開設

社会福祉学研究科

社会福祉学専攻

取得学位：修士（社会福祉学）・博士（社会福祉学）

修士課程

◆人材養成の目的

- ①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する高度な専門的知識・能力を持つ社会福祉関係高度専門職業人を養成する。
- ②社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する創造性豊かな研究者・教育者となるための基礎的能力を持つ人材を養成する。
- ③社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する高度な知識を活用しながら、福祉社会を支える高度で知的な素養のある人材を養成する。

博士後期課程

◆人材養成の目的

- ①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな研究能力を持つ研究者を養成する。
- ②社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関して、確かな教育力と研究力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成する。

通学課程

1971年 修士課程（社会学研究科社会福祉学専攻）設置

1977年 博士後期課程（社会学研究科社会学・社会福祉学専攻）設置

2006年 修士課程、博士後期課程（社会福祉学研究科社会福祉学専攻）設置

通信教育課程

1999年 修士課程（社会学研究科社会福祉学専攻）開設

2006年 修士課程（社会福祉学研究科社会福祉学専攻）開設

通信教育課程 / 別科

通信教育課程

1953 年開設（関西で最初の正規の通信制大学）／ 1999 年通信制大学院開設（全国初）

学部（本科）

大学通信教育設置基準に基づく正規の大学教育課程（6学部11学科設置）です。

所定の科目（単位）を修得し卒業すれば、学士の学位が取得できます。また、入学後に免許・資格課程登録の手続きを行うことで、学士の学位と同時に教員免許状や資格を取得することもできます。

大学院

大学院設置基準に基づく正規の大学院課程です。

修了した課程により「修士」または「博士」の学位が取得できます。文学・教育学・社会学・社会福祉学の4研究科に修士課程7専攻、文学研究科に博士後期課程2専攻を開設しています。

課程本科

日本の大学（新制／4年制）や短期大学を卒業した方が、その学位を活かして、教員免許状や資格を取得できる課程です。学籍上は学部（本科）のいずれかの学科へ3年次編入学することになります。それぞれ取得に必要な科目のみ履修します。

科目履修コース

科目履修コースには教員免許状課程・資格課程・教養課程の3つの課程があります。

また、特例制度による幼稚園教諭免許状・保育士資格課程も開設しています。

登録できるのはいずれか1課程（教員免許状課程は1免許状、資格課程は1資格）のみです。

本科入学資格コース

佛教大学通信教育課程の学部（本科）への入学志願資格のない方が、学部（本科）への入学資格を取得できるコースです。このコースで修得した単位は、学部（本科）入学後、卒業単位としても認定されます。

免許法認定通信教育

免許法認定通信教育では、教員としての勤務経験が一定年数ある方を対象とし、既に所持する教員免許状を活かして、必要な科目を通信教育で修得することによって、上位の免許状や他種の免許状が取得できます。

別科（仏教専修）

1977 年開設

浄土宗教師を養成する専門課程です。大本山清浄華院山内の浄山道場において、2年間の全寮生活のもと、行学を双修します。所定の単位を修得して伝宗伝戒道場を成満すると、宗規の定めるところにより資格を取得できます。

I 附属施設・附置機関

附属施設・附置機関

■ 附属図書館

大学の重要な学術情報基盤として、教育・研究に関する専門資料の収集・管理、提供、学術情報の発信により学生の学修、教職員の教育研究支援など教育・研究活動を支援する中枢機関です。

■ 高大連携センター

高等学校等教育機関との信頼関係を構築しつつ、高大連携事業の実質化に向けた取り組みを推進することを目的とし、「学びの継続」の観点を踏まえ、高等学校のニーズに合わせた高大連携プログラムの構築を目指します。

■ 宗教教育センター（宗門後継者養成道場を含む）

建学の理念である仏教精神の具現化をはかり、宗門後継者養成と宗教情操教育を通じて、建学の精神に則した人材を養成することを目的としています。

■ 健康管理センター

学生・教職員の健康を支援する機関として、病気やケガの応急処置、健康診断に加え、学医・看護師による健康相談、健康づくりのための情報発信も行っています。

■ 学生相談センター

学生の大学生活上の悩み・困りごとについて相談を受け、サポートする機関です。
学生生活充実のためのグループワークなどの企画も行っています。

■ 学生支援センター

すべての学生が等しく教育を受けられるよう、連絡・調整を行う相談窓口です。学生個々の障害状況に応じた授業環境の調整を学部等と協働して実施します。

■ 教職支援センター

「教育実習」、「介護等体験」実施に向けた学内外の窓口として、また、実習指導講師等による教育実習期間中の訪問指導、および実習前後の教育実習支援活動等を行っています。

■ 専門職キャリアサポートセンター

社会福祉士、精神保健福祉士、保育士、臨床心理士、公認心理師の資格を取得するために必要な実習をサポートしています。

■ 国際交流センター

国際学術交流、海外留学の支援、語学研修プログラムの企画、外国人留学生・研究者の支援など、国際交流に関する教育的支援を行っています。

■ 法然仏教学研究センター

法然上人に関わる研究を行う世界初の研究センターです。佛教大学の建学の理念と研究蓄積を土台とし、法然上人に関わる基礎研究と浄土宗学を徹底して推進することにより、佛教大学でしかなしえない法然仏教学の確立を目指します。

■ 総合研究所

様々な研究テーマを立てて組織された複数の共同研究を行い、その研究成果を広く社会へ還元します。1991年4月に既存の5つの研究所を統合し、開設。

■ 臨床心理学研究センター

臨床心理に関する研究・教育の機関として、臨床心理相談室におけるカウンセリング、臨床心理実習・心理実践実習における教育、幼稚園・こども園へのカウンセラー派遣など、臨床心理学の学術研究推進とその成果による社会貢献事業を展開します。

■ 宗教文化ミュージアム

仏教の歴史、思想、美術等の宗教文化や嵯峨野地域の伝統や魅力を紹介する展示室と、無形文化遺産の公演等を行うシアターを併せ持つ、地域に根差したミュージアム。

■ 社会連携センター

教育・研究成果から生まれた大学の「知」を活用し、地域の人々、企業、団体、行政との連携に組織的・総合的に取り組み、地域社会における新たなネットワークづくりと諸課題の解決をめざします。

■ オープンラーニングセンター（O.L.C.）

大学の研究・教育の成果を社会に開放し、各種テーマに基づいた「公開講座」を中心に、市民が気軽に参加できるイベントなど、生涯学習の支援という形で社会への還元を図っていきます。
対面とオンラインを融合した「ハイフレックス型」の講座展開と、定額会員制の導入、2024年度からはビジネススキルアップ講座の展開などさらに開かれた生涯学習事業を目指します。

■ 人権教育センター

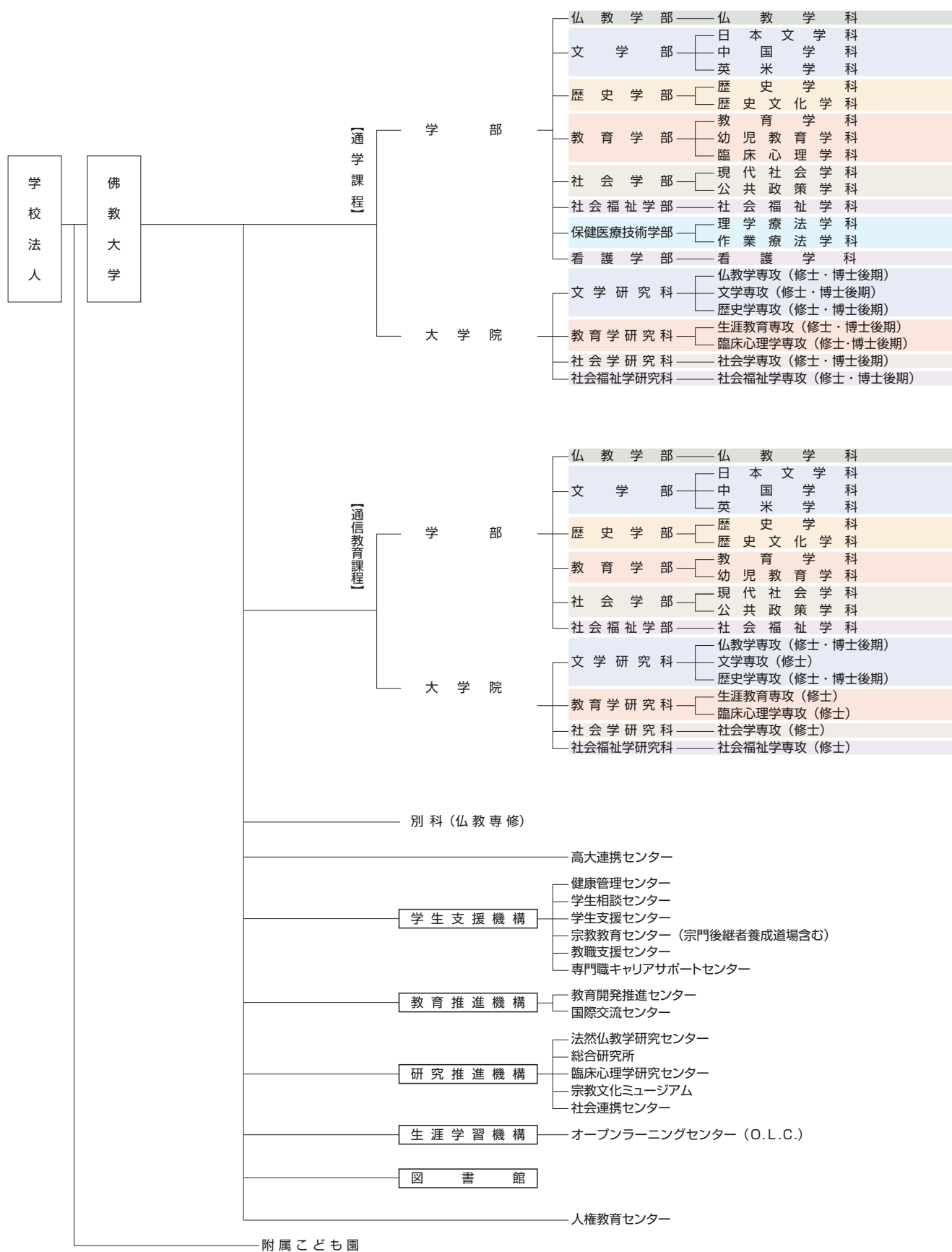
人権教育の推進、人権啓発事業、ハラスメント防止に向けた取組を行い、人権意識の高揚に努めるとともに、ハラスメント等人権侵害の相談にも応じています。

■ 幼保連携型認定こども園 佛教大学附属こども園

子どもたちのありのままの気持ちに寄り添う保育により、仏教精神に基づく心豊かな子どもの育成を行っています。また、大学の附置機関の一つとして、教育者を志す学生の実習の場という役割も果たしています。

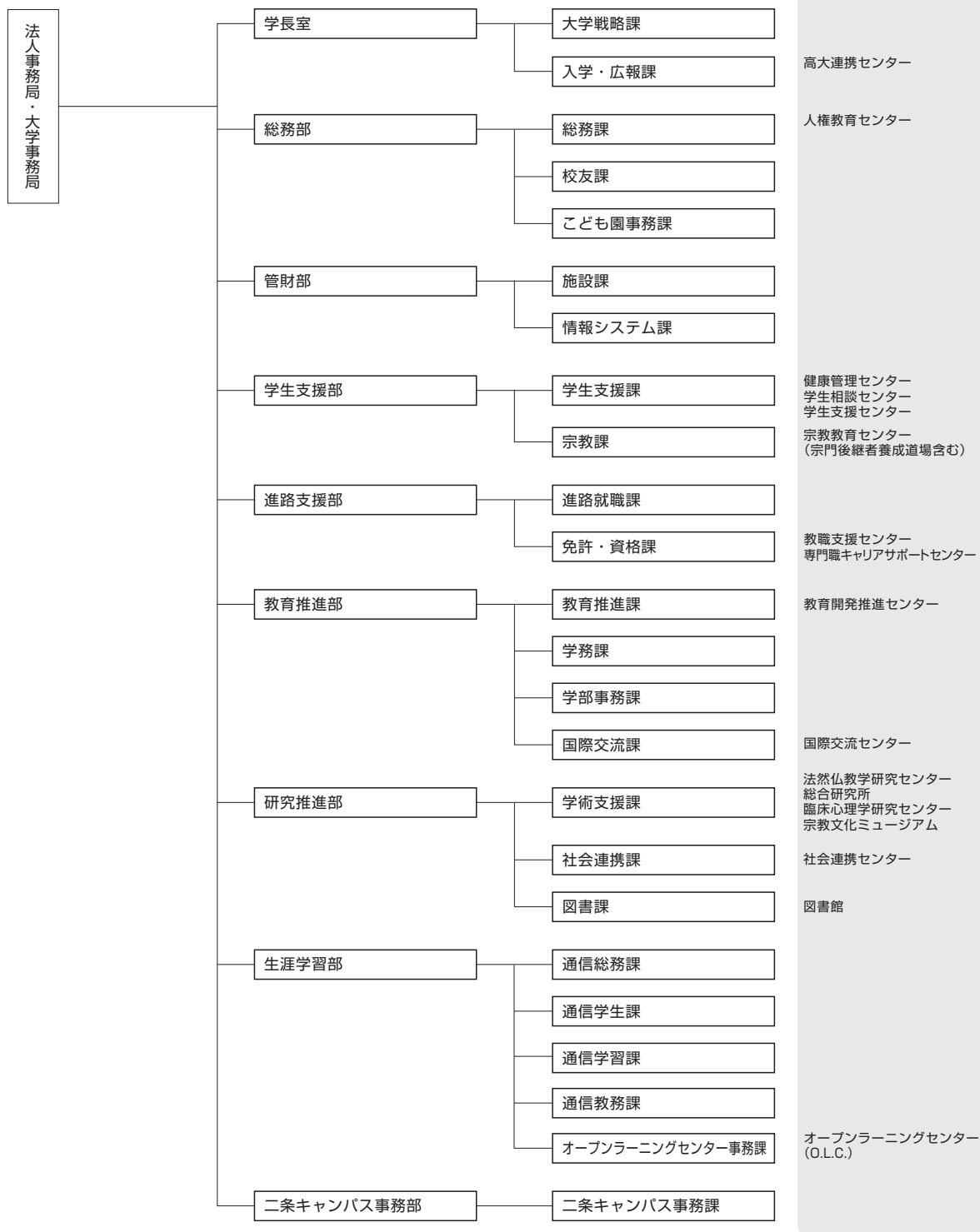
教育機構

2026年度



事務機構

2026年度



I 役職者／教員・職員数

2026年5月1日現在

役職者

役職名	氏名
学長	佐藤 和順
副学長	岡崎 祐司
	貝 英幸
	細田 典明
	安居幸一郎
事務局長	井畑 和孝

役職名	氏名
仏教学部長	齋藤 蒙光
文学部長	有田 和臣
歴史学部長	斉藤 利彦
教育学部長	小林 隆
社会学部長	大谷 栄一
社会福祉学部長	加美 嘉史
保健医療技術学部長	小池 伸一
看護学部長	藪下 八重

通学課程基幹教員数

区 分		教 授				准 教 授				講 師				助 教				合計	基準数	
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D		うち 教授数	うち 教授数
仏教学部	仏 教 学 科	7	0	0	0	5	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	15	10	5
	小 計	7	0	0	0	5	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	15	10	5
文学部	日 本 文 学 科	8	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	11	7	4
	中 国 学 科	3	0	0	0	2	0	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	10	6	3
	英 米 学 科	4	0	0	0	2	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	10	6	3
	小 計	15	0	0	0	6	0	0	0	8	0	0	2	0	0	0	0	31	19	10
歴史学部	歴 史 学 科	6	0	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	11	7	4
	歴史文化学科	5	0	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	10	6	3
	小 計	11	0	0	0	8	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	21	13	7
教育学部	教 育 学 科	16	0	0	0	7	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	25	7	4
	幼児教育学科	6	0	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	11	6	3
	臨床心理学科	5	0	0	0	4	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	11	10	5
	小 計	27	0	0	0	15	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	47	23	12
社会学部	現代社会学科	10	0	0	0	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	16	12	6
	公共政策学科	8	0	0	0	4	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	14	10	5
	小 計	18	0	0	0	9	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	30	22	11
社会福祉学部	社会福祉学科	15	0	0	0	7	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	24	15	8
	小 計	15	0	0	0	7	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	24	15	8
保健医療技術学部	理学療法学科	4	0	0	0	4	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	12	8	4
	作業療法学科	4	0	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	12	8	4
	小 計	8	0	0	0	8	0	0	0	3	0	0	0	5	0	0	0	24	16	8
看護学部	看 護 学 科	11	0	0	1	5	0	0	0	5	0	0	0	10	0	0	0	32	12	6
	小 計	11	0	0	1	5	0	0	0	5	0	0	0	10	0	0	0	32	12	6
そ の 他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-
合 計		112	0	0	1	63	0	0	0	27	1	3	2	15	0	0	0	224	130	67

- A：基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当する者
B：基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当する者（Aに該当するものを除く）
C：基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当する者（A又はBに該当する者を除く）
D：基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（A,B又はCに該当する者を除く）

(ア) 学部規模に応じた必要基幹教員数（別表1）	130	67
(イ) 大学全体の必要基幹教員数（別表2）	50	25
合計〔通学課程 必要基幹教員数〕	180	92
2026（令和8）年度 基幹教員数〔通学課程〕	224	112

事務職員

区分	男	女	合計
専任職員	75	87	162
契約専門職員	9	30	39
合計	84	117	201

その他教員

区分	男	女	合計
客員教授※1	4	0	4
実習指導講師	7	4	11
学生支援センター講師	1	0	1

※1 基幹教員である教員を含む

非常勤講師

通学課程	通信教育課程	合計
438	300	738

※2 両課程を担当する場合、課程ごとに計上

※3 基幹教員である教員を含む

通信教育課程基幹教員数

区 分		教 授				准 教 授				講 師				助 教				合計	基準数	
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D		うち 教授数	うち 助教数
仏教学部	仏 教 学 科	7	0	0	0	5	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	15	14	5
	小 計	7	0	0	0	5	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	15	14	5
文学部	日 本 文 学 科	8	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	11	11	4
	中 国 学 科	3	0	0	0	2	0	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	10	10	3
	英 米 学 科	4	0	0	0	2	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	10	10	3
	小 計	15	0	0	0	6	0	0	0	8	0	0	2	0	0	0	0	31	31	10
歴史学部	歴 史 学 科	6	0	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	11	11	4
	歴史文化学科	5	0	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	10	10	3
	小 計	11	0	0	0	8	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	21	21	7
教育学部	教 育 学 科	11	0	0	0	6	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	19	11	4
	幼児教育学科	6	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	10	10	3
	小 計	17	0	0	0	9	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	29	21	7
社会学部	現代社会学科	10	0	0	0	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	16	16	6
	公共政策学科	8	0	0	0	4	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	14	14	5
	小 計	18	0	0	0	9	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	30	30	11
社会福祉学部	社会福祉学科	15	0	0	0	7	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	24	19	8
	小 計	15	0	0	0	7	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	24	19	8
そ の 他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-
合 計		83	0	0	0	44	0	0	0	16	2	3	2	0	0	0	0	150	136	48

(ア) 学部規模に応じた必要基幹教員数 (別表1)	136	48
(イ) 大学全体の必要基幹教員数 (別表2)	※通学課程で充足	
合計〔通信教育課程 必要基幹教員数〕	136	48
2026 (令和8) 年度 基幹教員数〔通信教育課程〕	150	83

通学課程大学院教員数

研究科・専攻等の名称		研究指導教員及び研究指導補助教員							基準数計
		研究指導 教員	うち教授数	研究指導 補助教員	計	研究指導教員 基準数	うち教授数	研究指導補助 教員基準数	
文学研究科	仏教学専攻 (M)	14 人	6 人	0 人	14 人	2 人	2 人	3 人	5 人
	仏教学専攻 (D)	12 人	6 人	0 人	12 人	2 人	2 人	3 人	5 人
	文学専攻 (M)	23 人	12 人	0 人	23 人	3 人	2 人	2 人	5 人
	文学専攻 (D)	18 人	14 人	1 人	18 人	3 人	2 人	2 人	5 人
	歴史学専攻 (M)	22 人	12 人	0 人	22 人	4 人	3 人	3 人	7 人
教育学研究科	歴史学専攻 (D)	17 人	10 人	1 人	17 人	4 人	3 人	3 人	7 人
	生涯教育専攻 (M)	29 人	19 人	0 人	29 人	3 人	2 人	3 人	6 人
	生涯教育専攻 (D)	11 人	11 人	1 人	12 人	3 人	2 人	3 人	6 人
	臨床心理学専攻 (M)	11 人	5 人	0 人	11 人	3 人	2 人	3 人	6 人
	臨床心理学専攻 (D)	3 人	3 人	3 人	6 人	3 人	2 人	3 人	6 人
社会学研究科	社会学専攻 (M)	30 人	18 人	0 人	30 人	3 人	2 人	3 人	6 人
	社会学専攻 (D)	22 人	16 人	0 人	22 人	3 人	2 人	3 人	6 人
社会福祉学専攻	社会福祉学専攻 (M)	22 人	15 人	0 人	22 人	3 人	2 人	3 人	6 人
	社会福祉学専攻 (D)	11 人	11 人	0 人	11 人	3 人	2 人	3 人	6 人
計		245 人	158 人	6 人	249 人	42 人	30 人	40 人	82 人

通信教育課程大学院教員数

研究科・専攻等の名称		研究指導教員及び研究指導補助教員							基準数計
		研究指導 教員	うち教授数	研究指導 補助教員	計	研究指導教員 基準数	うち教授数	研究指導補助 教員基準数	
文学研究科	仏教学専攻 (M)	14 人	6 人	0 人	14 人	4 人	3 人	3 人	7 人
	仏教学専攻 (D)	12 人	6 人	0 人	12 人	3 人	2 人	3 人	6 人
	文学専攻 (M)	23 人	12 人	0 人	23 人	5 人	4 人	2 人	7 人
	歴史学専攻 (M)	22 人	12 人	0 人	22 人	6 人	4 人	3 人	9 人
	歴史学専攻 (D)	17 人	10 人	1 人	17 人	5 人	4 人	3 人	8 人
教育学研究科	生涯教育専攻 (M)	29 人	19 人	0 人	29 人	4 人	3 人	3 人	7 人
	臨床心理学専攻 (M)	11 人	5 人	0 人	11 人	4 人	3 人	3 人	7 人
社会学研究科	社会学専攻 (M)	30 人	18 人	0 人	30 人	4 人	3 人	3 人	7 人
社会福祉学専攻	社会福祉学専攻 (M)	22 人	15 人	0 人	22 人	4 人	3 人	3 人	7 人
計		180 人	103 人	1 人	180 人	39 人	29 人	26 人	65 人

I 入試・入学状況

2026年度

通学課程（学部）

学部	学科（定員）		一般選抜 （共通テスト含）	総合型選抜 （自己推薦制）	学校推薦型選抜 （公募制）	その他の選抜	合計
仏教学部	仏教学科 (60)	志願者数	195	6	227	55	483
		受験者数	191	6	225	54	476
		合格者数	68	6	120	51	245
		実質競争率	2.8	1.0	1.9	1.1	1.9
		入学者数	15	6	5	43	69
文学部	日本文学科 (120)	志願者数	429	15	569	48	1,061
		受験者数	419	15	562	48	1,044
		合格者数	133	15	323	48	519
		実質競争率	3.2	1.0	1.7	1.0	2.0
		入学者数	28	15	52	39	134
	中国学科 (30)	志願者数	143	0	174	31	348
		受験者数	137	-	172	31	340
		合格者数	69	-	97	31	197
		実質競争率	2.0	-	1.8	1.0	1.7
		入学者数	8	-	5	25	38
	英米学科 (70)	志願者数	279	4	540	30	853
		受験者数	267	4	525	30	826
		合格者数	102	4	362	30	498
		実質競争率	2.6	1.0	1.5	1.0	1.7
		入学者数	19	4	44	22	89
	文学部合計 (220)	志願者数	851	19	1,283	109	2,262
		受験者数	823	19	1,259	109	2,210
		合格者数	304	19	782	109	1,214
		実質競争率	2.7	1.0	1.6	1.0	1.8
		入学者数	55	19	101	86	261
歴史学部	歴史学科 (125)	志願者数	500	15	746	47	1,308
		受験者数	486	14	746	46	1,292
		合格者数	172	10	367	46	595
		実質競争率	2.8	1.4	2.0	1.0	2.2
		入学者数	34	10	53	37	134
	歴史文化学科 (75)	志願者数	351	20	525	33	929
		受験者数	340	20	525	33	918
		合格者数	107	15	186	32	340
		実質競争率	3.2	1.3	2.8	1.0	2.7
		入学者数	17	15	15	27	74
	歴史学部合計 (200)	志願者数	851	35	1,271	80	2,237
		受験者数	826	34	1,271	79	2,210
		合格者数	279	25	553	78	935
		実質競争率	3.0	1.4	2.3	1.0	2.4
		入学者数	51	25	68	64	208
教育学部	教育学科 (130)	志願者数	1,040	18	1,533	81	2,672
		受験者数	1,015	18	1,519	81	2,633
		合格者数	203	13	261	78	555
		実質競争率	5.0	1.4	5.8	1.0	4.7
		入学者数	34	13	45	53	145
	幼児教育学科 (80)	志願者数	276	14	472	55	817
		受験者数	276	14	466	55	811
		合格者数	57	11	92	52	212
		実質競争率	4.8	1.3	5.1	1.1	3.8
		入学者数	13	11	14	48	86
	臨床心理学科 (80)	志願者数	310	9	481	56	856
		受験者数	302	9	477	55	843
		合格者数	118	9	88	53	268
		実質競争率	2.6	1.0	5.4	1.0	3.1
		入学者数	30	9	16	44	99
	教育学部合計 (290)	志願者数	1,626	41	2,486	192	4,345
		受験者数	1,593	41	2,462	191	4,287
		合格者数	378	33	441	183	1,035
		実質競争率	4.2	1.2	5.6	1.0	4.1
		入学者数	77	33	75	145	330

学部	学科（定員）		一般選抜 (共通テスト含)	総合型選抜 (自己推薦制)	学校推薦型選抜 (公募制)	その他の選抜	合計
現代社会学部	現代社会学科 (200)	志願者数	761	22	1,109	122	2,014
		受験者数	739	22	1,095	121	1,977
		合格者数	159	20	425	116	720
		実質競争率	4.6	1.1	2.6	1.0	2.7
		入学者数	35	20	63	101	219
	公共政策学科 (120)	志願者数	603	17	598	97	1,315
		受験者数	586	17	581	97	1,281
		合格者数	109	15	176	96	396
		実質競争率	5.4	1.1	3.3	1.0	3.2
		入学者数	9	15	16	83	123
	現代社会学部 合計 (320)	志願者数	1,364	39	1,707	219	3,329
		受験者数	1,325	39	1,676	218	3,258
		合格者数	268	35	601	212	1,116
		実質競争率	4.9	1.1	2.8	1.0	2.9
		入学者数	44	35	79	184	342
社会福祉学部	社会福祉学科 (220)	志願者数	531	37	1,085	131	1,784
		受験者数	525	36	1,076	131	1,768
		合格者数	143	36	464	128	771
		実質競争率	3.7	1.0	2.3	1.0	2.3
		入学者数	35	36	44	113	228
保健医療学部	理学療法学科 (40)	志願者数	156	9	274	25	464
		受験者数	156	9	266	25	456
		合格者数	34	5	51	24	114
		実質競争率	4.6	1.8	5.2	1.0	4.0
		入学者数	10	5	8	20	43
	作業療法学科 (40)	志願者数	58	6	148	19	231
		受験者数	57	6	146	19	228
		合格者数	37	6	92	19	154
		実質競争率	1.5	1.0	1.6	1.0	1.5
		入学者数	9	6	10	15	40
	保健医療技術 学部合計 (80)	志願者数	214	15	422	44	695
		受験者数	213	15	412	44	684
		合格者数	71	11	143	43	268
		実質競争率	3.0	1.4	2.9	1.0	2.6
		入学者数	19	11	18	35	83
看護学部	看護学科 (80)	志願者数	320	8	686	51	1,065
		受験者数	317	8	679	51	1,055
		合格者数	48	8	167	49	272
		実質競争率	6.6	1.0	4.1	1.0	3.9
		入学者数	15	8	30	36	89
大学計 (1,470)		志願者数	5,952	200	9,167	881	16,200
		受験者数	5,813	198	9,060	877	15,948
		合格者数	1,559	173	3,271	853	5,856
		実質競争率	3.7	1.1	2.8	1.0	2.7
		入学者数	311	173	420	706	1,610

(設置校の状況)

法人設置校	学科（定員）		一般選抜 (共通テスト含)	総合型選抜 (自己推薦制)	学校推薦型選抜 (公募制)	その他の選抜	合計
華頂女子高等学校		志願者数	0	0	0	16	16
		受験者数	-	-	-	16	16
		合格者数	-	-	-	16	16
		実質競争率	-	-	-	1.0	1.0
		入学者数	-	-	-	16	16
東山高等学校		志願者数	51	0	46	22	119
		受験者数	51	-	46	22	119
		合格者数	15	-	16	22	53
		実質競争率	3.4	-	2.9	1.0	2.2
		入学者数	2	-	2	22	26

入試・入学状況

通学課程（編入学・転籍等）

学部	学科	編入学					転学部・転学科・転籍			
		定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	異動者数
仏教学部	仏教学科	若干名	4	4	2	2	0	-	-	-
	小計	若干名	4	4	2	2	0	0	0	0
文学部	日本文学科	若干名	2	2	2	2	1	1	1	1
	中国学科	若干名	2	1	1	1	0	-	-	-
	英米学科	若干名	0	-	-	-	0	-	-	-
	小計	若干名	4	3	3	3	1	1	1	1
歴史学部	歴史学科	若干名	1	1	1	1	0	-	-	-
	歴史文化学科	若干名	0	0	0	0	0	-	-	-
	小計	若干名	1	1	1	1	0	0	0	0
教育学部	教育学科	若干名	4	4	0	-	0	-	-	-
	幼児教育学科	若干名	0	-	-	-	0	-	-	-
	臨床心理学科	若干名	0	-	-	-	0	-	-	-
	小計	若干名	4	4	0	0	0	0	0	0
社会学部	現代社会学科	若干名	0	-	-	-	1	1	1	1
	公共政策学科	若干名	0	-	-	-	0	-	-	-
	小計		0	0	0	0	1	1	1	1
社会福祉学部	社会福祉学科	若干名	6	4	2	2	0	-	-	-
	小計	若干名	6	4	2	2	0	-	-	-
合計		若干名	19	16	8	8	2	2	2	2

別科（仏教専修）

別科（仏教専修）	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
	40	3	3	3	3

大学院

区分	研究科	専攻	通学課程					通信教育課程				
			定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
修士課程	文学研究科	仏教学専攻	10	10	10	9	7	15	5	5	4	4
		文学専攻	10	10	9	8	8	15	6	6	5	5
		歴史学専攻	10	14	14	9	8	15	5	5	3	3
		小計	30	34	33	26	23	45	16	16	12	12
	教育学研究科	生涯教育専攻	10	7	5	5	5	10	12	12	10	10
		臨床心理学専攻	10	30	29	15	10	6	31	29	6	5
		小計	20	37	34	20	15	16	43	41	16	15
	社会学研究科	社会学専攻	5	10	10	4	4	10	9	9	7	7
		小計	5	10	10	4	4	10	9	9	7	7
	社会福祉学研究科	社会福祉学専攻	5	6	6	2	1	10	9	8	5	5
		小計	5	6	6	2	1	10	9	8	5	5
修士課程合計			60	87	83	52	43	81	77	74	40	39
博士後期課程	文学研究科	仏教学専攻	3	1	1	1	1	3	2	2	1	1
		文学専攻	3	1	1	1	1					
		歴史学専攻	3	3	3	1	1	3	9	8	3	3
		小計	9	5	5	3	3	6	11	10	4	4
	教育学研究科	生涯教育専攻	3	2	2	2	2					
		臨床心理学専攻	3	0	0	0	0					
		小計	6	2	2	2	2					
	社会学研究科	社会学専攻	3	1	1	1	1					
		小計	3	1	1	1	1					
	社会福祉学研究科	社会福祉学専攻	3	3	3	3	3					
		小計	3	3	3	3	3					
博士後期課程合計			21	11	11	9	9	6	11	10	4	4
大学院合計			81	98	94	61	52	87	88	84	44	43

| 在籍学生数

2026年5月1日現在

通学課程

区分		第1学年				第2学年				第3学年				第4学年				合計			
		定員	現員			定員	現員			定員	現員			定員	現員			定員	現員		
			男	女	計		男	女	計		男	女	計		男	女	計		男	女	計
学部																					
仏教学部	仏教学科	60	61	14	75	60	54	7	61	60	56	6	62	60	44	9	53	240	215	36	251
	小計	60	61	14	75	60	54	7	61	60	56	6	62	60	44	9	53	240	215	36	251
文学部	日本文学科	120	55	80	135	120	62	79	141	120	61	67	128	120	72	78	150	480	250	304	554
	中国学科	30	21	18	39	50	23	13	36	50	10	16	26	50	20	18	38	180	74	65	139
	英米学科	70	51	40	91	70	51	27	78	70	68	19	87	70	49	18	67	280	219	104	323
	小計	220	127	138	265	240	136	119	255	240	139	102	241	240	141	114	255	940	543	473	1,016
歴史学部	歴史学科	125	93	42	135	110	83	26	109	110	88	29	117	110	108	32	140	455	372	129	501
	歴史文化学科	75	41	33	74	70	39	30	69	70	42	39	81	70	46	29	75	285	168	131	299
	小計	200	134	75	209	180	122	56	178	180	130	68	198	180	154	61	215	740	540	260	800
教育学部	教育学科	130	67	78	145	130	75	59	134	130	74	68	142	130	77	64	141	520	293	269	562
	幼児教育学科	80	9	77	86	80	11	81	92	80	10	74	84	80	5	79	84	320	35	311	346
	臨床心理学科	80	46	54	100	80	34	52	86	80	38	50	88	80	38	59	97	320	156	215	371
	小計	290	122	209	331	290	120	192	312	290	122	192	314	290	120	202	322	1,160	484	795	1,279
社会学部	現代社会学科	200	143	77	220	200	117	82	199	200	131	74	205	200	150	91	241	800	541	324	865
	公共政策学科	120	91	32	123	120	89	29	118	120	87	28	115	120	113	37	150	480	380	126	506
	小計	320	234	109	343	320	206	111	317	320	218	102	320	320	263	128	391	1,280	921	450	1,371
社会福祉学部	社会福祉学科	220	115	113	228	220	108	133	241	220	100	125	225	220	98	144	242	880	421	515	936
	小計	220	115	113	228	220	108	133	241	220	100	125	225	220	98	144	242	880	421	515	936
保健医療技術学部	理学療法学科	40	25	19	44	40	19	24	43	40	11	31	42	40	16	30	46	160	71	104	175
	作業療法学科	40	15	27	42	40	12	29	41	40	8	29	37	40	17	29	46	160	52	114	166
	看護学科	-	-	-	-	65	5	75	80	65	6	62	68	65	6	60	66	195	17	197	214
	小計	80	40	46	86	145	36	128	164	145	25	122	147	145	39	119	158	515	140	415	555
看護学部	看護学科	80	9	80	89	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80	9	80	89
	小計	80	9	80	89	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80	9	80	89
学部合計		1,470	842	784	1,626	1,455	782	746	1,528	1,455	790	717	1,507	1,455	859	777	1,636	5,835	3,273	3,024	6,297
その他																					
別科		40	3	0	3	40	3	0	3	-	-	-	-	-	-	-	-	80	6	0	6
科目履修生		-	19	14	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	14	33
研究員・研究生		-	10	8	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	8	18

在籍学生数

区分			第1学年				第2学年				第3学年				合計			
			定員	現員			定員	現員			定員	現員			定員	現員		
				男	女	計		男	女	計		男	女	計		男	女	計
大学院																		
修士課程	文学研究科	仏教学専攻	10	6	1	7	10	5	1	6	-	-	-	-	20	11	2	13
		文学専攻	10	2	6	8	10	3	1	4	-	-	-	-	20	5	7	12
		歴史学専攻	10	0	8	8	10	6	2	8	-	-	-	-	20	6	10	16
		小計	30	8	15	23	30	14	4	18	-	-	-	-	60	22	19	41
	教育学研究科	生涯教育専攻	10	0	5	5	10	0	0	0	-	-	-	-	20	0	5	5
		臨床心理学専攻	10	5	5	10	10	4	3	7	-	-	-	-	20	9	8	17
		小計	20	5	10	15	20	4	3	7	-	-	-	-	40	9	13	22
	社会学研究科	社会学専攻	5	2	2	4	5	4	1	5	-	-	-	-	10	6	3	9
		小計	5	2	2	4	5	4	1	5	-	-	-	-	10	6	3	9
	社会福祉学研究科	社会福祉学専攻	5	1	0	1	5	1	2	3	-	-	-	-	10	2	2	4
		小計	5	1	0	1	5	1	2	3	-	-	-	-	10	2	2	4
	修士課程合計			60	16	27	43	60	23	10	33	-	-	-	-	120	39	37
博士後期課程	文学研究科	仏教学専攻	3	0	1	1	3	0	1	1	3	4	0	4	9	4	2	6
		文学専攻	3	0	1	1	3	0	0	0	3	1	0	1	9	1	1	2
		歴史学専攻	3	1	0	1	3	0	0	0	3	1	0	1	9	2	0	2
		小計	9	1	2	3	9	0	1	1	9	6	0	6	27	7	3	10
	教育学研究科	生涯教育専攻	3	2	0	2	3	2	5	7	3	1	4	5	9	5	9	14
		臨床心理学専攻	3	0	0	0	3	0	0	0	3	1	0	1	9	1	0	1
		小計	6	2	0	2	6	2	5	7	6	2	4	6	18	6	9	15
	社会学研究科	社会学専攻	3	0	1	1	3	0	1	1	3	7	1	8	9	7	3	10
		小計	3	0	1	1	3	0	1	1	3	7	1	8	9	7	3	10
	社会福祉学研究科	社会福祉学専攻	3	2	1	3	3	1	1	2	3	2	9	11	9	5	11	16
		小計	3	2	1	3	3	1	1	2	3	2	9	11	9	5	11	16
	博士後期課程合計			21	5	4	9	21	3	8	11	21	17	14	31	63	25	26
大学院合計			81	21	31	52	81	26	18	44	21	17	14	31	183	64	63	127

通信教育課程

区分	第1学年				第2学年				第3学年				第4学年				合計			
	定員	現員			定員	現員			定員	現員			定員	現員			定員	現員		
		男	女	計		男	女	計		男	女	計		男	女	計		男	女	計

学部

仏教学部	仏教学科	30	12	10	22	100	13	9	22	250	27	17	44	250	93	80	173	630	145	116	261
	小計	30	12	10	22	100	13	9	22	250	27	17	44	250	93	80	173	630	145	116	261
文学部	日本文学科	50	11	36	47	100	10	26	36	250	57	80	137	250	123	167	290	650	201	309	510
	中国学科	10	2	9	11	50	3	6	9	100	6	13	19	100	13	36	49	260	24	64	88
	英米学科	50	11	11	22	100	16	19	35	400	79	78	157	400	145	180	325	950	251	288	539
	小計	110	24	56	80	250	29	51	80	750	142	171	313	750	281	383	664	1,860	476	661	1,137
歴史学部	歴史学科	60	24	27	51	100	13	24	37	200	116	50	166	200	245	111	356	560	398	212	610
	歴史文化学科	60	6	28	34	100	6	31	37	350	43	60	103	350	83	108	191	860	138	227	365
	小計	120	30	55	85	200	19	55	74	550	159	110	269	550	328	219	547	1,420	536	439	975
教育学部	教育学科	80	33	30	63	400	39	31	70	1,400	277	270	547	1,400	592	493	1,085	3,280	941	824	1,765
	幼児教育学科	10	1	20	21	100	4	23	27	200	3	32	35	200	15	49	64	510	23	124	147
	小計	90	34	50	84	500	43	54	97	1,600	280	302	582	1,600	607	542	1,149	3,790	964	948	1,912
社会学部	現代社会学科	40	17	11	28	300	17	12	29	700	38	22	60	700	71	55	126	1,740	143	100	243
	公共政策学科	10	2	4	6	100	3	3	6	400	5	2	7	400	17	7	24	910	27	16	43
	小計	50	19	15	34	400	20	15	35	1,100	43	24	67	1,100	88	62	150	2,650	170	116	286
社会福祉学部	社会福祉学科	50	8	19	27	200	11	25	36	700	17	50	67	700	78	224	302	1,650	114	318	432
	小計	50	8	19	27	200	11	25	36	700	17	50	67	700	78	224	302	1,650	114	318	432
学部合計		450	127	205	332	1,650	135	209	344	4,950	668	674	1,342	4,950	1,475	1,510	2,985	12,000	2,405	2,598	5,003

その他

科目履修コース	-	1,021	1,089	2,110	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,021	1,089	2,110
認定通信教育	-	138	223	361	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	138	223	361
本科入学資格コース	-	4	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	5
合計	-	1,163	1,313	2,476	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,163	1,313	2,476

大学院

修士課程	文学研究科	仏教学専攻	15	4	1	5	15	6	1	7	-	-	-	-	30	10	2	12
		文学専攻	15	3	2	5	15	6	2	8	-	-	-	-	30	9	4	13
		歴史学専攻	15	2	1	3	15	1	1	2	-	-	-	-	30	3	2	5
		小計	45	9	4	13	45	13	4	17	-	-	-	-	90	22	8	30
	教育学研究科	生涯教育専攻	10	9	4	13	10	5	4	9	-	-	-	-	20	14	8	22
		臨床心理学専攻	6	0	5	5	6	2	4	6	6	4	5	9	18	6	14	20
		小計	16	9	9	18	16	7	8	15	6	4	5	9	38	20	22	42
	社会学研究科	社会学専攻	10	5	2	7	10	3	4	7	-	-	-	-	20	8	6	14
		小計	10	5	2	7	10	3	4	7	-	-	-	-	20	8	6	14
	社会福祉学研究科	社会福祉学専攻	10	2	3	5	10	6	2	8	-	-	-	-	20	8	5	13
		小計	10	2	3	5	10	6	2	8	-	-	-	-	20	8	5	13
修士課程合計		81	25	18	43	81	29	18	47	6	4	5	9	168	58	41	99	
博士後期課程	文学研究科	仏教学専攻	3	1	0	1	3	1	0	1	3	6	1	7	9	8	1	9
		歴史学専攻	3	2	1	3	3	3	0	3	3	1	2	3	9	6	3	9
		小計	6	3	1	4	6	4	0	4	6	7	3	10	18	14	4	18
	博士後期課程合計		6	3	1	4	6	4	0	4	6	7	3	10	18	14	4	18
大学院合計			87	28	19	47	87	33	18	51	12	11	8	19	186	72	45	117

| 卒業生・学位授与者・修了者数

2025年度

学部卒業生数 ※1卒業生累計には昭和40年3月卒業生までの539名を含む※2卒業生累計には昭和40年9月卒業生までの623名を含む

学部・学科		通学課程		通信教育課程	
		令和7年度	累計	令和7年度	累計
仏教学部	仏教学科	62	1,298	17	876※
	仏教福祉学科	-	22	-	65
	小計	62	1,320	17	941
文学部	日本文学科	117	1,591	18	169
	中国学科	32	932	5	89
	英米学科	71	1,414	34	570
	人文学科	-	2,125	-	423
	仏教学科	-	4,789	-	2,469
	史学科	-	4,969	-	1,695
	国文学科	-	3,427	-	1,587
	日本語日本文学科	-	345	-	84
	中国文学科	-	872	-	179
	中国語中国文学科	-	174	-	39
	英文学科	-	2,284	-	1,922
	英語英米文学科	-	258	-	176
	教育学科	-	2,456	-	3,287
	社会福祉学科	-	79	-	128
	小計	220	25,715	57	12,817
歴史学部	歴史学科	111	1,493	17	142
	歴史文化学科	77	926	22	154
	小計	188	2,419	39	296
教育学部	教育学科	124	4,362	59	2,645
	幼児教育学科	95	95	2	2
	臨床心理学科	79	1,462		
	社会教育学科	-	903		
	生涯学習学科	-	427		
	小計	298	7,249	61	2,647
社会学部	現代社会学科	188	4,133	11	165
	公共政策学科	116	2,462	4	81
	社会学科	-	7,733	-	1,368
	応用社会学科	-	2,246	-	571
	社会福祉学科	-	6,893	-	18,850
	健康福祉学科	-	515		
	小計	304	23,982	15	21,035
社会福祉学部	社会福祉学科	219	5,399	52	1,423
	小計	219	5,399	52	1,423
保健医療技術学部	理学療法学科	36	657		
	作業療法学科	35	591		
	看護学科	61	709		
	小計	132	1,957		
学部合計		1,423	68,041	241	39,159

大学院学位授与者数

研究科		通学課程		通信教育課程	
		令和7年度	累計	令和7年度	累計
修士課程	文学研究科	17	1,149	14	677
	教育学研究科	11	494	29	385
	社会学研究科	4	289	4	200
	社会福祉学研究科	2	44	3	119
合計		34	1,976	50	1,381

研究科		通学課程		通信教育課程	
		令和7年度	累計	令和7年度	累計
博士後期課程	文学研究科	-	100	6	44
	教育学研究科	1	26		
	社会学研究科	-	33		
	社会福祉学研究科	1	23		
合計		2	182	6	44

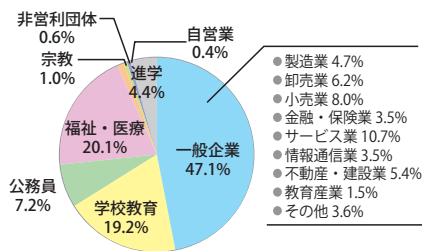
専攻科／別科修了者数

課程		通学課程		通信教育課程	
		令和7年度	累計	令和7年度	累計
専攻科		-	402	-	107
別科（仏教専修）		9	610		

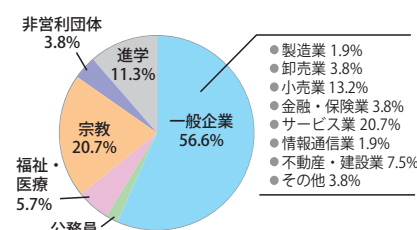
進路・就職

卒業生 進路状況一覧

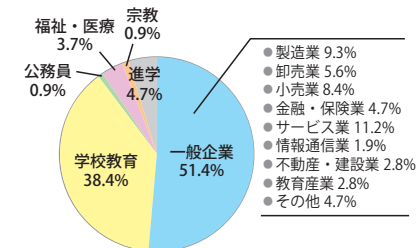
●全学部・学科



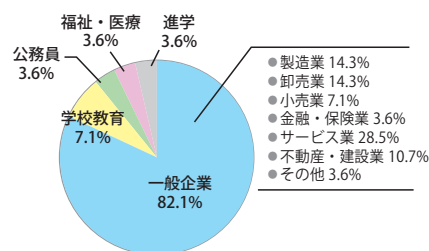
●仏教学科



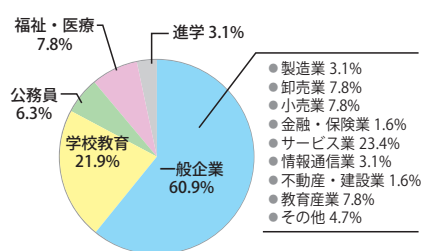
●日本文学科



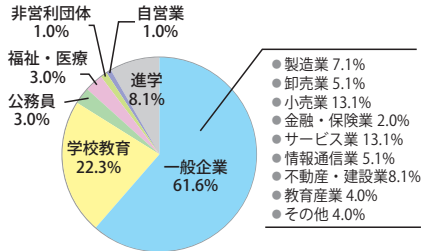
●中国学科



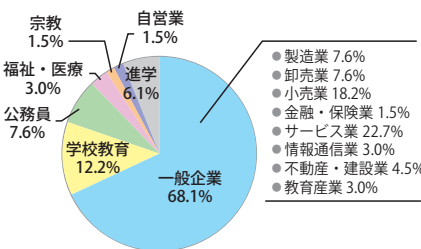
●英米学科



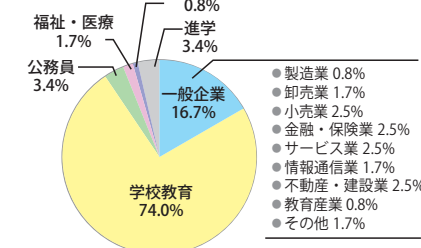
●歴史学科



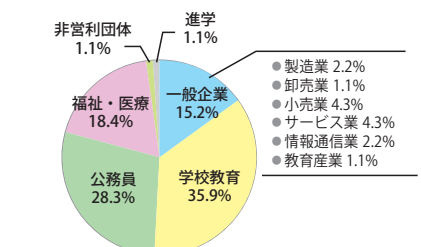
●歴史文化学科



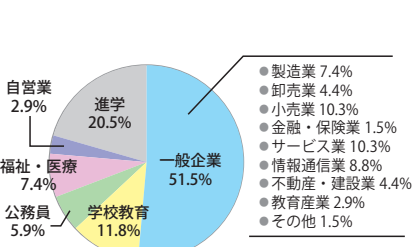
●教育学科



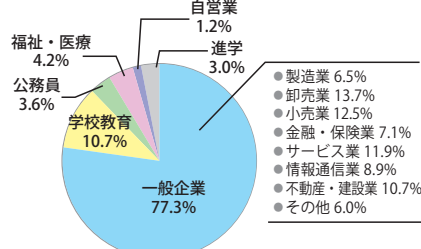
●幼児教育学科



●臨床心理学科

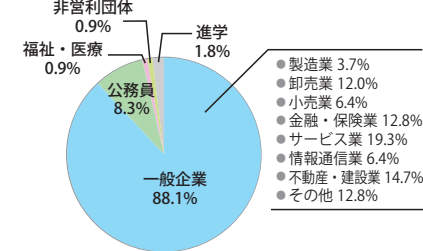


●現代社会学科

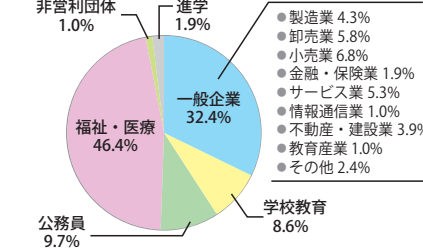


2025年度卒業生

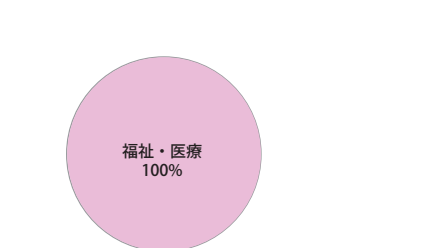
●公共政策学科



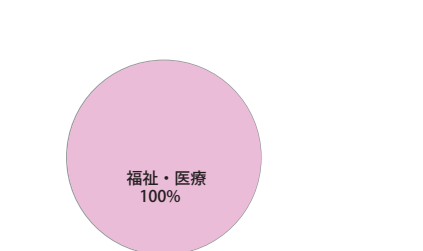
●社会福祉学科



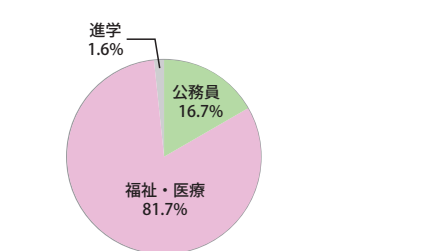
●理学療法学科



●作業療法学科



●看護学科



2025年度

インターンシップ受入事業所・学校数

インターンシップ

分類	受入 事業所数	受入 人数 (延べ人数)
商社	4	6
金融	2	5
運輸・倉庫	2	3
流通	5	10
IT・情報通信	1	1
教育機関	1	2
官公庁・団体	2	3
福祉施設	2	2
メーカー	2	3
ホテル	5	12
不動産	1	4
サービス	6	9
合計	33	60

※実人数41

教育職インターンシップ

所管	校種	研修校数	受入人数
京都府教育委員会	幼稚園	1	1
	小学校	2	2
	中学校	3	6
	高等学校	1	3
	特別支援学校	1	2
	小 計	8	14
京都市教育委員会	小学校	3	3
	中学校	9	15
	高等学校	2	4
	特別支援学校	1	1
	小 計	15	23
滋賀県内教育委員会	小学校	5	5
	中学校	4	5
	高等学校	1	1
	小 計	10	11
合計		33	48

インターンシップ修了者数

インターンシップ

学科	2年生			3年生			4年生			合計
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計	
仏教学科			0		1	1			0	1
日本文学科			0	2	1	3			0	3
中国学科			0			0			0	0
英米学科			0	1	1	2			0	2
歴史学科			0	5	2	7			0	7
歴史文化学科	1		1	3	1	4			0	5
教育学科			0			0			0	0
幼児教育学科			0			0			0	0
臨床心理学科			0		7	7			0	7
現代社会学科		2	2	3	5	8	1		1	11
公共政策学科			0			0			0	0
社会福祉学科	2	1	3	2		2			0	5
理学療法学科			0			0			0	0
作業療法学科			0			0			0	0
看護学科			0			0			0	0
総計	3	3	6	16	18	34	1	0	1	41

2025年度

教育職インターンシップ

学科	2年生			3年生			合計
	男	女	小計	男	女	小計	
仏教学科	0	0	0	1	0	1	1
日本文学科	3	1	4	1	2	3	7
中国学科	0	0	0	0	0	0	0
英米学科	1	0	1	0	0	0	1
歴史学科	0	0	0	3	4	7	7
歴史文化学科	0	0	0	0	0	0	0
教育学科	2	0	2	7	14	21	23
幼児教育学科	0	0	0	0	3	3	3
臨床心理学科	0	0	0	0	0	0	0
現代社会学科	0	1	1	3	2	5	6
公共政策学科	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉学科	0	0	0	0	0	0	0
合計	6	2	8	15	25	40	48

教員免許状・資格取得者数

2025年度

教員免許状取得者数 () 内は免許併修による取得者数

区分	通学課程	通信教育課程	合計
幼稚園	104 (7)	9	113
小学校	150 (27)	134	284
中学校	285 (16)	122	407
高等学校	338 (13)	163	501
特別支援学校	59	28	87
合 計	936 (63)	456	1,392

資格取得者数

区分	通学課程	通信教育課程	合計
図書館司書	51	5	56
学校図書館司書教諭	18	17	35
学校司書	14	-	14
博物館学芸員	43	39	82
社会教育主事	7	4	11
社会福祉士国家試験受験資格	127	35	162
精神保健福祉士国家試験受験資格	23	6	29
保育士	142	3	145
公認心理師試験受験資格	8	2	10
臨床心理士資格審査受験資格	8	4	12
理学療法士国家試験受験資格	36	-	36
作業療法士国家試験受験資格	35	-	35
看護師国家試験受験資格	61	-	61
保健師国家試験受験資格	15	-	15
浄土宗教師	21	0	21
浄土宗開教使	0	-	0
浄土宗社会教化主事	5	-	5
社会調査士	2	-	2
合 計	616	115	731

※2025年9月および2026年3月取得者数。

実習実施者数

2025年度

教育実習実施者数 () 内は免許併修による実施件数

区分	通学課程	通信教育課程	合計
小学校	111	335 (13)	446
中学校・高等学校	280	243 (17)	523
幼稚園	78	26 (9)	104
特別支援学校	61	49	110
合計	530	653	1,183

介護等体験実施件数

区分	通学課程	通信教育課程	合計
社会福祉施設等	369	322	691
特別支援学校	374	326	700
合計※1	378	329	707

※1 介護等体験を実施した人数

博物館実習実施者数

通学課程	通信教育課程	合計
43	50	93

心理実習実施者数 (学部)

通学課程	通信教育課程	合計
44	—	44

臨床心理実習・心理実践実習実施者数 (大学院)

通学課程	通信教育課程	合計
17	7	24

図書館実習実施者数

通学課程	通信教育課程	合計
16	—	16

社会教育実習実施者数

通学課程	通信教育課程	合計
5	6	11

社会福祉援助技術現場実習・ソーシャルワーク実習実施者数

	通学課程	通信教育課程	合計
社会福祉援助技術現場実習	0	4	4
ソーシャルワーク実習	292	48	340

精神保健福祉援助実習実施者数

通学課程	通信教育課程	合計
41	7	48

保育実習実施者数

通学課程	通信教育課程	合計
392	11	403

社会福祉総合実習（高校福祉免許）実施者数

通学課程	通信教育課程	合計
0	3	3

理学療法実習実施者数

学年	科目名	実習実施者数
2	臨床基礎実習	42
3	臨床評価実習	39
4	総合臨床実習Ⅰ	36
	総合臨床実習Ⅱ	36

作業療法実習実施者数

学年	科目名	実習実施者数
1	臨床見学実習	40
2	地域実習Ⅰ	37
3	臨床評価実習	39
4	総合臨床実習Ⅰ	36
	総合臨床実習Ⅱ	36
	総合臨床実習Ⅲ	36

看護実習実施者数

学年	科目名	実習実施者数
1	コミュニティ実習	80
	基礎看護学実習Ⅰ	80
2	基礎看護学実習Ⅱ	68
3	クリティカルケア看護学実習	65
	慢性看護学実習	65
	老年看護学実習	65
4	小児看護学実習	60
	母性看護学実習	60
	精神看護学実習	60
	地域・在宅看護学実習	60
	統合実践看護学実習	60
	公衆衛生看護学実習Ⅰ*	15
	公衆衛生看護学実習Ⅱ*	15

*保健師課程履修者のみ

I 国家試験合格率

2025年度

国家試験合格者

資格名	実施回	受験者数		合格者数		合格率		全国平均
		通学課程	通信教育課程	通学課程	通信教育課程	通学課程	通信教育課程	
社会福祉士	第38回	124	35	96	25	77.4%	71.4%	60.7%
精神保健福祉士	第27回	23	7	22	4	95.7%	57.1%	78.2%
公認心理師	第9回	9	9	1	1	100.0%	100.0%	60.0%
理学療法士	第61回	36	-	36	-	100.0%	-	89.7%
作業療法士	第61回	34	-	34	-	100.0%	-	91.2%
看護師	第115回	61	-	61	-	100.0%	-	88.3%
保健師	第112回	15	-	15	-	100.0%	-	87.1%

宗教情操行事

2025年度

宗教情操行事

時期	日程	行事名	会場	参加人数等
随時	通学課程授業開講期間 春学期・秋学期	朝の宗教行事	礼拝堂（水谷幸正記念館）	－
随時	通学課程開講期間中の毎月25日前後	法然上人御聖日行事	礼拝堂（水谷幸正記念館）	－
4月	5日	新入生祖山（知恩院）参拝	浄土宗総本山知恩院	775名
	8日	花まつり（釈尊降誕会）	礼拝堂（水谷幸正記念館）	－
5月	11日	還愚の会（春の寺院参拝）	東寺・羅城門・城南宮	21名
7月	7日	仏陀庵（ぶつだあん）・腕輪念珠作り	礼拝堂（水谷幸正記念館）	113名
9月	8日～10日	授戒会	礼拝堂（水谷幸正記念館）	20名
10月	12日	還愚の会（秋の寺院参拝）	地福寺・近江八幡散策	19名
11月	2日～4日	宗教教育センター作品展 ＊応募作品22点	礼拝堂（水谷幸正記念館）	－
12月	8日	釈尊成道会・腕輪念珠作り	礼拝堂（水谷幸正記念館）	27名
1月	23日	釈尊涅槃会・腕輪念珠作り	二条キャンパス	106名
	23日	法然上人御忌会	礼拝堂（水谷幸正記念館）	12名

国際交流

2026年5月1日現在

学術交流協定等

交流先	国・地域	内容	協定等年月日
圓光大学校	韓国	教員・研究者の交流（研究教授・講義教授） 学生の交流（学部生・大学院生） 学術交流 出版物交換	1973年5月13日
東國大学校	韓国	教員・研究者の交流 学生の交流（学部生・大学院生） 学術交流 出版物交換	1984年5月18日
西北大学	中国	教員・研究者の交流 学生の交流（学部生・大学院生） 学術資料の交換 学術交流	1987年3月17日
江南大学校	韓国	教員・研究者の交流 学生の交流（学部生・大学院生） 学術交流 出版物交換	1987年6月30日
東海大学	台湾	教員・研究者の交流 学生の交流（学部生・大学院生） 学術会議交流 出版物交換	1989年3月24日
浄覚佛教研究所	台湾	学術交流 研究者の交流 出版物交換	1989年10月11日
中華佛学研究所	台湾	学術交流 研究者の交流 出版物交換	1989年10月15日
中央僧伽大学校	韓国	教員・研究者の交流 学生の交流（学部生・大学院生） 学術交流 出版物交換	1993年10月18日
中国佛教文化研究所	中国	研究者の交流 学術交流 出版物交換	1995年5月29日
ホーチミン市 外国語情報技術大学 (HUFLIT)	ベトナム	教員・研究者の交流 学生の交流（学部生・大学院生） 学術会議交流 出版物交換	2000年4月25日
ハワイ大学マノア校	アメリカ	学生の交流（学部生・大学院生） 教職員の交換・交流 学術交流 出版物交換 学生の特別プログラム（実習を含む）	2000年6月5日
慈済大学	台湾	教員・研究者の交流 学生の交流 学術会議交流 学術資料の交換	2001年10月2日
ザナバザル仏教大学	モンゴル	教員・研究者の交流 学生の交流（学部生・大学院生） 学術会議交流 学術資料の交換	2003年7月21日
吉林大学	中国	教員・研究者の交流 学生の交流（学部生・大学院生） 学術資料の交換 学術交流	2006年6月19日
College of the Desert	アメリカ	学生の教育交流・短期英語プログラムの実施	2008年3月19日
ディーキン大学	オーストラリア	教員・研究者の交流 学生の交流（学部生・大学院生） 学術交流 学術資料の交換	2009年2月11日
中国社会科学院 文学研究所	中国	共同研究 学術シンポジウムの開催 学生の交流 研究者の交流 出版物交換	2016年11月1日
北京語言大学	中国	教員・研究者の交流 学生の交流（学部生・大学院生） 学術資料の交換 共同研究・国際会議等の開催	2017年11月1日
ホーチミン テクノロジー大学	ベトナム	学生の交流（短期交換留学・語学研修）	2020年3月12日
ビクトリア大学	カナダ	教員・職員・学生の英語教育の促進 文化活動 研究資料の交換	2019年8月6日
バンクーバー アイランド大学	カナダ	教員・職員の就学、交換 学生の就学 共同研究 客員教授受入れ 出版物交換	2019年8月8日
ベルビューカレッジ	アメリカ	交換留学 出版物交換 相互合意に基づいた学術的交流	2019年8月12日
マルタ大学	マルタ	長期・短期の英語研修プログラム 1セメスターの留学プログラム	2021年5月12日
カンタベリー大学	ニュージーランド	短期の英語研修プログラム等 継続的な協力関係	2021年8月15日
エドモンズカレッジ	アメリカ	学生の交流 言語と文化のプログラム、共同研究及び研究集会 学術上の情報・刊行物及び資料の交換、両当事者が合意するその他の活動	2021年9月29日
レイクヘッド大学	カナダ	短期の英語研修プログラム等	2022年3月9日
ナイアガラ・カレッジ	カナダ	研究、教育、研究を目的とした教職員及び学生の訪問及び交流 共同研究やセミナー・講演会等の共同イニシアティブ、客員研究員 共通の関心を有する情報、出版物及びその他の資料を交換すること	2022年7月5日
ロイヤルメルボルン 工科大学	オーストラリア	短期および長期英語プログラムの実施	2023年3月6日
グリフィス大学	オーストラリア	短期英語プログラムの実施	2024年7月31日
東亜大学校	韓国	教育・研究者の交流（学部生・大学院生の正規・短期） 学術交流（学術会議の開催・共同研究） 出版物交換	2025年5月20日
レスター大学	イギリス	短期英語プログラムの実施	2025年5月20日

短期海外語学研修

2025年度				
語種	研修先	所在地	期間	人数
朝鮮語	東國大学校	韓国 ソウル市	2025年8月3日～2025年8月16日	4
英語	マルタ大学	マルタ共和国 バレッタ	2025年8月2日～2025年8月18日	4
	カンタベリー大学	ニュージーランド クライストチャーチ	2025年8月2日～2025年8月24日	5
	ナイアガラ・カレッジ	カナダ オンタリオ州	2025年8月3日～2025年8月24日	2
	ディーキン大学	オーストラリア ヴィクトリア州	2026年2月4日～2026年3月15日	6

短期交換留学・派遣留学・学部留学プログラム

①短期交換留学（受入）

2025年度					
期	国・地域	出身大学	所在地	人数	期間等
春学期	中国	西北大学	西安市	0	2025年4月1日～2025年9月19日
	台湾	慈済大学	花蓮市	0	
		東海大学	台中市	1	
	韓国	江南大学校	龍仁市	0	
		東國大学校	ソウル市	2	
		圓光大学校	益山市	2	
	ベトナム	ホーチミン市外国語情報技術大学	ホーチミン市	2	2025年4月1日～2026年3月31日
		ホーチミン市テクノロジー大学		1	
秋学期	台湾	慈済大学	花蓮市	2	2025年9月20日～2026年3月31日
		東海大学	台中市	0	
	韓国	江南大学校	龍仁市	1	
		東國大学校	ソウル市	1	

②短期交換留学（派遣）

期	国・地域	留学先	所在地	人数	期間等
春学期	中国	西北大学	西安市	1	2025年4月1日～2026年3月31日
	韓国	圓光大学校	益山市	0	
		東國大学校	ソウル市	2	
		江南大学校	龍仁市	0	
		慈済大学	花蓮市	0	
秋学期	台湾	東海大学	台中市	0	2025年9月20日～2026年9月19日
	ベトナム	ホーチミン市外国語情報技術大学	ホーチミン市	0	
				1	

③派遣留学

国・地域	留学先	所在地	人数	期間等
アメリカ	College of the Desert (C.O.D.)	カリフォルニア州 パームデザート	0	2025年9月20日～2026年9月19日

④学部留学プログラム

	国・地域	留学先	所在地	人数	期間等
中国学科	中国	吉林大学	吉林省長春市	春学期：8 秋学期：6	2025年3月3日～2025年6月30日 2025年9月1日～2026年1月9日
	カナダ	ナイアガラ・カレッジ付属英語学校	オンタリオ州 ウェランド	秋学期：8	2025年8月26日～2025年12月15日
英米学科	オーストラリア	グリフィス大学付属英語学校	クイーンズランド州 ブリスベン	秋学期：2	2025年9月3日～2025年12月22日
		ロイヤルメルボルン工科大学 (RMIT) 付属英語学校	ヴィクトリア州 メルボルン	秋学期：7	2025年9月3日～2025年11月17日
				秋学期：5	2025年9月30日～2025年12月15日
				秋学期：45※	2025年10月6日～2025年12月5日
	マルタ共和国	マルタ大学付属英語学校	バレッタ	秋学期：12	2025年9月13日～2025年12月8日
				秋学期：4	2025年9月13日～2025年11月24日
	イギリス	レスター大学付属 英語学校	レスターシャー州 レスター	秋学期：5	2025年10月3日～2025年12月15日

※オンラインにて実施

留学生受入れ数

区分	学部										大学院								研究員	研究生	科目履修生		別科		合計				
	1年		2年		3年		4年		計		修士		博士		計														
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計													
中 国	2	1	0	1	3	1	1	0	6	3	9	4	8	1	1	5	9	14	0	0	3	3	0	0	0	0	14	15	29
韓 国	0	1	0	0	1	0	0	1	1	2	3	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	2	0	0	4	4	8
ベトナム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	3	0	0	0	1	0	3	0	0	0	7	7
台 湾	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	2	
香 港	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
ブルガリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
計	2	2	0	1	4	1	2	1	8	5	13	6	11	1	1	7	12	19	0	0	3	4	3	6	0	0	21	27	48

※在留資格が「留学」の在籍者集計

社会連携

■地域社会との連携

【京都市北区内4大学・京都市北区役所・京都市北消防署・京都府北警察署】

協定名称：京都市北区における大学・地域包括連携協定（2012年7月19日）

2025年度

	内 容
主な事業	● 北区学生×地域応援団プロジェクト会議 ● 北区「WA(わ)のこころ」創生ネットワーク会議 ● 北区「WAのこころ」創生講座-文化のWA- ● 「みんなでつくる安心安全なまち北区推進協議会」 ● 北区民ふれあいまつり ● 自転車安全利用啓発活動

【京都市中京区役所】

協定名称：地域連携・協力に関する協定（2011年12月21日）、京都市中京区災害ボランティアセンター設置に関する協定（2012年3月23日）

2025年度

	内 容
主な事業	● 「世界一安心安全・おもてなしのまち京都市民ぐるみ推進運動」中京区推進協議会 ● 中京区防災会議 ● 二条駅地域安全ネットワーク会議 ● 中京区民ふれあい事業実行委員会 ● 二条城周辺地域活性化協議会 ● 中京区民ふれあいまつり ● 二条駅かいわいまちづくり実行委員会

【京都府南丹市】

協定名称：地域発展と人材育成に関する協定（2006年11月22日）

2025年度

	内 容
主な事業	● 京都モデルフォレスト（森林保全）運動 三共精機株式会社・地域住民・行政と連携し、美山町宮脇地区での森林保全活動

【滋賀県大津市】

2025年度

	内 容
主な事業	● 大津市歴史博物館から本学歴史学部への委託事業 大津市内古文書の調査・整理

■社会連携センタープロジェクト等

2025年度

主な事業	内 容
防犯啓発・立ち直り支援プロジェクト	●京都府北警察署と連携して、市内の小学校や児童館での交通安全教室、中学校でのサイバー犯罪防止講演活動に取り組んでいる。
鷹峯地域活性化プロジェクト	●鷹峯地域で、川の清掃による環境保全や農業体験などを行う。
大学発進(信)プロジェクト	●RADIO MIX KYOTO FM87.0は、2016年5月に「大学と地域の連携」をテーマとして開局されたコミュニティラジオである。そのラジオを使用し、本学有志学生が「ぶつ☆ラジ!」という番組の放送を実施している。
知ってる?パラスポーツの魅力 ～Do You Know the Power of Parasports?～	●パラスポーツを通して共生社会を考える活動に取り組む。二条キャンパス周辺の公園で地域の方とモルックやボッチャを通じた交流や、車いすバスケットボールの体験会などを通してパラスポーツの魅力を広めている。
ホテルとまちの魅力発信プロジェクト	●西松地所株式会社と連携し、ホテルを拠点として「まちと人、人と人を繋ぐ」活動に取り組む。
オレンジプロジェクト -二条ともいき倶楽部みやcone-	●認知症当事者のやってみたいことの実現をめざしつつ、みんなで楽しむことがモットー。他団体とも連携しながら、交流会などのイベントを企画している。
地域福祉フィールドワーク事業 「見守りホットライン」	●「子ども食堂&フードパントリーまんぷく」に参画し、運営を支えるとともに子どもたちに「第三の居場所」を届ける。
学生消防防災サークル 「佛教大学FAST」	●京都府や京都市と連携しながら、地域の防災訓練・防災イベントの参加などを行う。 ＜防火パトロール＞ 京都市では毎月5日と20日を「無火災推進日」と制定し、地域の消防団では火災予防の巡回広報を実施している。楽只消防分団の巡回に、佛教大学FASTが参加する。
学生企画 まちづくり支援制度	●学生が地域と協働して主体的にまちづくりを企画・推進することを目的に、学生から企画案を募集し、支援する。(上限5万円を補助) ●採択件数：7件

■ボランティア

2025年度

主な事業	内 容
社会連携センター 学生ボランティア室	●2012年度より有志の学生と教職員で運営。 ●「大学が学生のボランティア活動を推進する場」として、有志の学生スタッフと教職員でボランティアに関する情報を学生に提供。ボランティアを必要としている方とボランティア活動を希望する学生とをつなぐなど、学生のボランティア活動を推進・支援する。 ●登録団体数：89団体、情報受付数：177件
佛教大学ボランティア支援制度	●学生が取り組むボランティア活動に対して支援する。(上限5万円を補助) ●採択件数：4件
義援金等募金活動	●赤い羽根共同募金 四条河原町における街頭募金に参加協力。

課外活動

課外活動団体

学生会機関
代議員会
中央執行委員会
会計監査委員会
選挙管理委員会
代議員特別委員会
アルバム委員会（休会中）
鷹陵祭実行委員会
鷹陵祭実行委員会

文化会本部所属団体
傳道部
児童教化研究部
書道部
混声合唱団
茶道部
華道部
写真研究会
軽音楽部
アマチュア無線クラブ
ボランティア研究会
学生歴史学研究会
美術部
映画部
フォークソング部
箏曲部
点訳サークル（休部中）
手話サークル「なまけもの」
劇団「紫」
漫画研究会
ユネスコ研究会
ジャズ倶楽部
文芸部
雅楽会
民俗学研究会
お笑いサークル-SHOWCASE-

体育会本部所属団体
硬式野球部
空手道部
弓道部
バドミントン部
剣道部
柔道部
山岳部（休部中）
ワンダーフォーゲル部
スキー部
太道部
少林寺拳法部
サッカー部
ソフトテニス部
アメリカンフットボール部
バレーボール部
バスケットボール部
ラグビーフットボール部
陸上競技部
卓球部
硬式庭球部
ハンドボール部
ボウリング部
アイススケート部
軟式野球部
ラグロス部

応援団本部所属団体
応援団
吹奏楽部
チアリーダー部

報道本部所属団体
新聞局
放送局

無所属公認団体(文化系)
京都散策会「Smile」
Music Freedom Crea
わんぱくグループ「どろんどろん」
レクリエーション研究会
ミント研究会「Mint Club」
BBS会
よさこいサークル紫踊屋
シンガーソングライター
クリエイターサークル 青春部
競技かるた部
教職サークルMIYABI
心理学研究会 モモの会
おてつきこども奉仕団
考古学研究会
無所属公認団体(体育系)
ソフトボール愛好会
水泳愛好会「スイート・メモリーズ」
バレーボール愛好会 鷹陵倶楽部
テニスサークル SPLASH
バドミントン愛好会
バスケット同好会 BREAK THROUGH
ソフトテニスサークル「ピーター」
ラグビー同好会 GUARDIANS
フロレス・格闘技研究会(休部中)
Dance Company 駅通り
Ultimate会
ダブルタッチサークル 佛跳
スポーツチャンバラサークル
スキューバダイビングサークルDive In Blue
筋トレサークルBARBELL CLUB

課外活動表彰

						2025年度
賞名	団体名	部門等	氏名	内容	成績	
課外活動奨励賞（個人）	空手道部	男子・個人組手	吉原 飛輝	第69回全日本学生空手道選手権大会 Division II	全国大会出場	
	空手道部	男子・個人組手	平森 大翔	第69回全日本学生空手道選手権大会 Division II	全国大会出場(準優勝)	
	空手道部	男子・個人組手	青木 和慎	第69回全日本学生空手道選手権大会 Division II	全国大会出場	
	空手道部	男子・個人組手	小林 伯	第69回全日本学生空手道選手権大会 Division II	全国大会出場	
	空手道部	女子・個人組手	塚本 未菜	第69回全日本学生空手道選手権大会 Division II	全国大会出場	
	空手道部	女子・個人組手	大熊彩莉紗	第69回全日本学生空手道選手権大会 Division II	全国大会出場	
	空手道部	男子・団体組手	松浦拳之介	内閣総理大臣杯 第53回全日本空手道選手権大会	全国大会出場	
	空手道部	女子・団体組手	安藤世理菜	内閣総理大臣杯 第53回全日本空手道選手権大会	全国大会出場	
	柔道部	固の形	中前 陽介	全日本学生柔道形競技大会(固の形) ※他大学との連合チームで出場	準優勝	
	陸上競技部	男子・5000m決勝	森本 翔太	第102回関西学生陸上競技対校選手権大会	7位入賞	
	卓球部	男子・団体	藤木 直大	令和7年度関西学生卓球秋季リーグ戦	特別賞、敢闘賞	
	卓球部	男子・シングルス	清水 快音	TOKYO OPEN 2025 第77回東京卓球選手権大会	全国大会出場	
	卓球部	女子・シングルス	遠山 雅	第91回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)	全国大会出場	
		女子・ダブルス			全国大会出場	
	卓球部	女子・ダブルス	芝田 有里	第91回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)	全国大会出場	
		女子・シングルス			全国大会出場	
	卓球部	女子・シングルス	山口 愛世	TOKYO OPEN 2025 第77回東京卓球選手権大会	全国大会出場	
		女子・シングルス			全国大会出場	
	卓球部	女子・シングルス	松本 悠良	第91回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)	全国大会出場	
		女子・シングルス			全国大会出場	
	アイススケート部	男子・シングルス	川口 清壽	第98回日本学生氷上競技選手権大会	全国大会出場	
課外活動奨励賞（団体）	軟式野球部	男子・団体	辻 壮馬	第28回全日本大学軟式野球連盟 国際親善大会（台湾遠征）	国際親善大会出場(台湾遠征) (副主将に選出)	
	軟式野球部	男子・団体	新谷 哲平	第5回全日本大学軟式野球連盟主催 関西地区ブロック大会	最優秀選手賞	
	空手道部	男子・団体組手 女子・団体組手	-	第69回全日本大学空手道選手権大会	全国大会出場	
	弓道部	女子・団体	-	第69回関西学生弓道選手権大会	優勝	
	剣道部	女子・団体	-	第44回全日本女子学生剣道優勝大会	全国大会出場	
	柔道部	男子・団体	-	2025年度全日本学生柔道学生体重別団体優勝大会	全国大会出場	
	卓球部	女子・団体	-	第94回全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)	全国大会出場	
	ハンドボール部	女子・団体	-	2025年度秋季リーグ戦	秋季リーグ戦3部リーグ2位 入替戦にて勝利・2部昇格	
	ボウリング部	男子・団体	-	文部科学大臣杯第63回全日本大学選手権大会	6位入賞	
	軟式野球部	男子・団体	-	第5回全日本大学軟式野球選抜大会 Summer Cup in 長野	全国大会出場(ベスト16)	
個人活動奨励賞	課題レポート部門	課題レポート部門	川田 瑛基	KOBE 自他共栄CUP 自他共栄賞	優秀賞	
	-	男子・個人	牧野 匠	第12回全日本学生囲碁最強位戦	昇位戦(優勝)	
	-	ボランティア	今井 春花	独立行政法人国立青少年教育振興機構のボランティアとして、国立乗鞍青少年交流の家にて、子どもを対象とした自然体験活動・宿泊活動の企画・立案、運営に携わる。	令和7年度国立青少年教育振興機構「法人ボランティア表彰」を受賞	
	-		奥田 悠人			
	-		原 梓			
	-		堀井 香織			
	-		宮本果菜子			
	-		井上こころ			
	同窓会課外活動奨励賞（団体） ※推薦	硬式野球部	赤木 晴哉	日本プロ野球ドラフト会議	広島カープ5位指名	
	同窓会課外活動奨励賞（個人） ※推薦	硬式野球部	-	第74回全日本大学野球選手権大会	ベスト16	
		硬式野球部		第23回関西地区大学野球選手権大会	優勝	
		硬式野球部		第56回明治神宮野球大会(大学の部)	全国大会出場	
教育後援会課外活動奨励賞（個人） ※推薦	バレーボール部	女子・団体	大橋 眞生	2025関西大学バレーボール連盟 秋季リーグ戦女子3部	個人・優秀選手賞、セッター賞	
	バレーボール部	女子・団体	岡本菜々子	2025関西大学バレーボール連盟 秋季リーグ戦女子3部	個人・ブロック賞	

◆硬式野球部

- ・2025年度京滋大学野球連盟 春季リーグ 優勝（10勝1敗）
- ・第74回全日本大学野球選手権大会出場 ベスト16
- ・2025年度京滋大学野球連盟 秋季リーグ 優勝（10戦全勝）
- ・第23回大阪市長杯争奪関西地区大学野球選手権大会 優勝
- ・第56回明治神宮野球大会 ベスト8

◆陸上競技部 女子中長距離部門

- ・第35回関西学生対校女子駅伝競走大会 総合5位（2時間6分6秒）

| 奨学金

佛教大学独自・関係外郭団体等の給付型奨学金制度

名称	種別	給付額(年額)	支援団体区分	採用者数(2025年度)
佛教大学奨学金	推薦制	300,000円	佛教大学	17名
佛教大学大学院奨学金		半期学費相当額		23名
佛教大学障害学生奨学金		300,000円		5名
入学試験成績優秀者奨学金		半期学費相当額		1名
浄土宗総本山知恩院奨学金		50,000円	関係外郭団体	5名
浄土宗大本山奨学金(黒谷金戒光明寺)		100,000円		2名
浄土宗大本山奨学金(清浄華院)				2名
浄土宗大本山奨学金(百万遍知恩寺)				2名
浄土宗宗立宗門校奨学金				5名
学究者育成奨学金		300,000円		0名
特定分野研究助成金(雲井・渡辺奨学金)		500,000円	佛教大学	2名
佛教大学大学院通信教育課程奨学金		210,000円		9名
		(臨床心理学専攻のみ) 315,000円		1名
佛教大学育英奨学金	公募制	300,000円	佛教大学	18名
佛教大学課外活動奨学金		300,000円		1名
佛教大学教育後援会育英奨学金1種		100,000円	関係外郭団体	10名
佛教大学教育後援会育英奨学金2種		200,000円		20名
佛教大学同窓会奨学金		100,000円		20名
佛教大学教職員互助会奨学金		通学課程 半期授業料相当額		7名
		通信教育課程 145,000円		0名
浄土宗寺院子弟奨学金		50,000円～150,000円		3名
浄土宗課外活動助成金		20,000円～300,000円		8名
佛教大学通信教育課程奨学金		70,000円	佛教大学	38名
佛教大学生外国留学奨学金	学部・大学院 240,000円		佛教大学	学 部 4名 大学院 0名
佛教大学外国人留学生特別奨学金	学部・大学院 576,000円			学 部 5名 大学院 3名
佛教大学外国人留学生新入生特別奨学金	学部・大学院 288,000円			学 部 0名 大学院 1名
佛教大学私費外国人留学生奨学一時金	学部・大学院 200,000円			学 部 2名 大学院 2名

佛教大学奨学金……………学業成績が非常に優秀な学生に授与。2年生以上の学生が対象。

入学試験成績優秀者奨学金……………一般選抜（B日程）において総合得点率が80%以上の合格者で、各学部合格者の上位5%以内の入学者が対象。学年進級時に成績基準を満たせば最長4年間の給付が可能。

学究者育成奨学金……………浄土宗教師資格取得者で、浄土学・仏教学・仏教文化を研究する学生が対象。

佛教大学育英奨学金……………経済的支援を必要としながら、授業に積極的に取り組んで優秀な成績を修めている2年生以上の学生が対象。

佛教大学課外活動奨学金……………文化活動やスポーツ活動において国際的または全国的なレベルで活躍した者、他の学生の模範になる社会的貢献や社会奉仕活動を行い、佛教大学の榮譽を高めた者が対象。

佛教大学教育後援会育英奨学金……………学生たちの保護者会である教育後援会が経済的支援を目的として設けている奨学金制度。

佛教大学同窓会奨学金……………同窓会が設けた奨学金制度。経済的理由により学業の継続が困難な学生が対象。

佛教大学生外国留学奨学金……………短期交換留学・派遣留学に選抜された者が対象。

佛教大学外国人留学生特別奨学金…学業成績が優秀な私費留学生で、本奨学金を超える他の奨学金を受給していない者が対象（当該年度の新入生および編入生は除く）。

佛教大学外国人留学生新入生特別奨学金…当該年度の新入生（編入生含む）であり、学業成績が優秀な私費留学生で、他の奨学金を受給していない者が対象。支給期間は採用年度10月～3月（6ヶ月）。

佛教大学私費外国人留学生奨学一時金…学業成績が優秀な私費留学生が対象（当該年度の新入生および編入生は除く）。

家計急変に対応する奨学金等

名称	種別	給付額（年額）	支援団体区分	採用者数 (2025年度)
佛教大学緊急奨学金	公募制	通学課程 半期授業料相当額	佛教大学	11名
		通信教育課程 年間授業料1/2相当額		1名
被災者に対する奨学金		通学課程 最大半期授業料相当額		0名
		通信教育課程 最大全期授業料相当額		0名

佛教大学緊急奨学金…家計状況の急変のために学費支弁に不測の事態が生じ、経済的に著しく修学困難な在学生（学部・大学院・別科）に対する給付型の緊急奨学金。

被災者に対する奨学金…災害救助法が適用される規模の災害により、経済的理由から修学が著しく困難になった在学生に対する給付型の緊急奨学金。「非常災害」によって家計が急変してから12ヶ月以内で、被害状況に応じた額を給付する。

「高等教育の修学支援制度」による授業料減免

通学課程は1591名、通信教育課程は67名に減免を実施。

日本学生支援機構（JASSO）の奨学金制度

通学課程

名称			種別	貸与額（月額／選択）		採用者数
日本学生支援機構奨学金	学部	第一種奨学金	無利子／貸与 自宅通学者	20,000円／30,000円／40,000円／54,000円		991名
			無利子／貸与 自宅外通学者	20,000円／30,000円／40,000円／50,000円／64,000円		263名
		第二種奨学金	有利子／貸与		20,000円～120,000円（10,000円単位で選択）	1,620名
		給付奨学金	給付／第Ⅰ区分	自宅通学者	38,300円（生活保護を受けている生計維持者と同居している人）及び児童養護施設等から通学する人：42,500円	1,663名
				自宅外通学者	75,800円	
			給付／第Ⅱ区分	自宅通学者	25,600円（生活保護を受けている生計維持者と同居している人）及び児童養護施設等から通学する人：28,400円	
				自宅外通学者	50,600円	
			給付／第Ⅲ区分	自宅通学者	12,800円（生活保護を受けている生計維持者と同居している人）及び児童養護施設等から通学する人：14,200円	
				自宅外通学者	25,300円	
			給付／第Ⅳ区分	（多子世帯）	授業料減免のみの支援	
	大学院	第一種奨学金	修士	無利子／貸与	50,000円／88,000円	10名
			博士後期	無利子／貸与	80,000円／122,000円	10名
		第二種奨学金	有利子／貸与		50,000円／80,000円／100,000円／130,000円／150,000円	3名
			授業料後払い	無利子／貸与	授業料相当額と生活費奨学金（0円／20,000円／40,000円から選択）	1名

通信教育課程

名称			種別	貸与額（選択）		採用者数
日本学生支援機構奨学金	学部（本科）	第一種奨学金※	無利子／貸与	88,000円		7名
		第二種奨学金※	有利子／貸与	20,000円から120,000円の範囲で10,000円単位で選択可		8名
		給付奨学金	第Ⅰ区分 51,000円／第Ⅱ区分 34,000円／第Ⅲ区分 17,000円／第Ⅳ区分（多子）12,800円			71名
	大学院	第一種奨学金	修士	無利子／貸与	50,000円／88,000円	3名
		第一種奨学金	博士後期	無利子／貸与	80,000円／122,000円	0名
		第二種奨学金	有利子／貸与		50,000円／80,000円／100,000円／130,000円／150,000円	1名
		授業料後払い制度	無利子／貸与	授業料相当額と生活費奨学金（0円／20,000円／40,000円から選択）		1名

| 学費

2026年度新入生対象

通学課程

学部・別科

(単位：円)

学部・別科		年次	入学金 ^{※1}	学費		諸費			年間 計
				授業料	教育充実費	教育後援会費 ^{※1}	学友会入会金 ^{※1}	学友会費	
2026 年度以降 入学生適用	仏教学部	入学初年度	250,000	870,000	100,000	20,000	1,000	4,500	1,245,500
	文学部								
	歴史学部	2 年次以降	-	910,000	310,000	-	-	4,500	1,224,500
	社会学部								
	社会福祉学部								
	教育学部	入学初年度	250,000	920,000	130,000	20,000	1,000	4,500	1,325,500
		2 年次以降	-	960,000	340,000	-	-	4,500	1,304,500
	保健医療技術学部	入学初年度	250,000	1,350,000	250,000	20,000	1,000	4,500	1,875,500
	看護学部	2 年次以降	-	1,390,000	450,000	-	-	4,500	1,844,500
	別科 (仏教専修)	入学初年度	100,000	348,000	150,000	5,000	-	-	603,000
		2 年次以降	-	348,000	150,000	-	-	-	498,000

※ 1 は入学初年度のみ。

※ 2025年度以前入学生の学費はホームページにてご確認ください。

大学院

(単位：円)

大学院 (修士・博士共通)		年次	入学金 ^{※1}	学費		計
				授業料	教育充実費	
2026 年度以降 入学生適用	文学研究科	入学初年度	250,000	525,000	150,000	925,000
	教育学研究科 (生涯教育専攻)	2 年次以降	-	525,000	150,000	675,000
	社会学研究科					
	社会福祉学研究科					
	教育学研究科 (臨床心理学専攻)	入学初年度	250,000	720,000	250,000	1,220,000
		2 年次以降	-	720,000	250,000	970,000

※ 1 は入学初年度のみ。

※ 2025年度以前入学生の学費はホームページにてご確認ください。

通信教育課程

学部

(単位：円)

区分		入学諸経費	学費(含学友会費)※	合計	
				新入生	在学生
学部 (本科)	1年生	30,500	152,500	183,000	—
	2～4年生	55,500		208,000	152,500

※学費にスクーリング経費を含まない

大学院

(単位：円)

区分		入学諸経費	学費(含学友会費)※	合計	
				新入生	在学生
修士課程	(臨床心理学専攻以外)	53,500	426,500	480,000	426,500
	(臨床心理学専攻)		636,500	690,000	636,500
博士後期課程				426,500	480,000

※学費にスクーリング経費を含む

次年度の学費については、毎年秋に決定します。

財務状況

2025年度

2025年度 佛教大学・佛教大学附属こども園 計算書総括表

資金収支計算書 (2025年4月1日から2026年3月31日まで)

当該会計年度の諸活動すべての収入および支出のてん末を明らかにするためのものです。

(単位：円)

収入の部	
科目	決算
学生生徒等納付金収入	8,812,266,147
手数料収入	342,785,629
寄付金収入	129,447,637
補助金収入	2,120,394,155
資産売却収入	850,000
付随事業・収益事業収入	76,006,626
受取利息・配当金収入	42,594,195
雑収入	315,294,893
借入金等収入	3,000,000,000
前受金収入	1,721,243,750
その他の収入	8,012,557,735
資金収入調整勘定	△1,939,459,388
前年度繰越支払資金	3,512,701,617
収入の部合計	26,146,682,996

支出の部	
科目	決算
人件費支出	6,046,519,885
教育研究経費支出	3,907,570,237
管理経費支出	738,894,276
借入金等利息支出	46,905,313
借入金等返済支出	287,910,000
施設関係支出	10,424,551,070
設備関係支出	237,427,319
資産運用支出	803,475,500
その他の支出	556,124,623
資金支出調整勘定	△359,844,287
翌年度繰越支払資金	3,457,149,060
支出の部合計	26,146,682,996

活動区分資金収支計算書 (2025年4月1日から2026年3月31日まで)

資金収支を教育活動・施設整備等活動・その他の活動の3つの区分に分けて、資金の流れを表すためのものです。

(単位：円)

		科目	決算
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	8,812,266,147
		手数料収入	342,785,629
		寄付金収入	106,489,117
		経常費等補助金収入	2,118,668,155
		付随事業収入	76,006,626
		雑収入	312,282,440
		教育活動資金収入計	11,768,498,114
	支出	人件費支出	6,046,519,885
		教育研究経費支出	3,907,570,237
		管理経費支出	733,721,278
		教育活動資金支出計	10,687,811,400
	差引		1,080,686,714
調整勘定等		△ 16,239,094	
教育活動資金収支差額		1,064,447,620	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	22,958,520
		施設設備補助金収入	1,726,000
		施設設備売却収入	850,000
		第2号基本金引当特定資産取崩収入	600,000,000
		減価償却引当特定資産取崩収入	300,000,000
		施設整備等活動資金収入計	925,534,520
	支出	施設関係支出	10,424,551,070
		設備関係支出	237,427,319
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	600,000,000
		施設整備等活動資金支出計	11,261,978,389
	差引		△ 10,336,443,869
	調整勘定等		63,491,810
施設整備等活動資金収支差額		△ 10,272,952,059	
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）			△ 9,208,504,439

その他の活動による資金収支	科目		決算
	収入	借入金等収入	3,000,000,000
		学術振興基金引当特定資産取崩収入	1,521,046
		奨学費支出引当特定資産取崩収入	26,306,500
		教育環境整備引当特定資産取崩収入	100,000,000
		貸付金回収収入	100,000
		敷金回収収入	109,896,582
		その他流動資産回収収入	6,393,178,052
		預り金受入収入	303,878,725
		小計	9,934,880,905
		受取利息・配当金収入	42,594,195
		その他の活動による資金収入	3,012,453
		その他の活動資金収入計	9,980,487,553
	支出	借入金等返済支出	287,910,000
		退職給与引当特定資産繰入支出	100,000,000
		教育環境整備引当特定資産繰入支出	103,475,500
		貸付金支払支出	100,000
		預り金支払支出	283,971,860
		小計	775,457,360
		借入金等利息支出	46,905,313
		過年度修正支出	5,170,000
		その他の活動による資金支払支出	2,998
		その他の活動資金支出計	827,535,671
	差引		9,152,951,882
	調整勘定等		0
	その他の活動資金収支差額		9,152,951,882
	支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)		△ 55,552,557
	前年度繰越支払資金		3,512,701,617
	翌年度繰越支払資金		3,457,149,060

【施設・整備関係支出における主な事業】
〈佛教大学〉

二条キャンパス2号館建設工事
二条キャンパス1号館LED改修工事
10・11号館非構造部材天井耐震化工事

園部キャンパス野球場人工芝改修工事
保健医療技術学部教育研究機器備品取得
B-netシステム (通信教育課程) パージョンアップ構築

〈佛教大学附属こども園〉

トイレ洋式化改修工事
自動火災報知設備・非常用放送設備更新工事
園庭・裏庭人工芝敷設工事

事業活動収支計算書（2025年4月1日から2026年3月31日まで）

当該会計年度の諸活動すべての事業活動収入および事業活動支出の均衡の状態を明らかにするためのものです。（単位：円）

教育活動収支	科目		決算
	事業収入の活動部	学生生徒等納付金	8,812,266,147
		手数料	342,785,629
		寄付金	109,384,878
		経常費等補助金	2,118,668,155
		付随事業収入	76,006,626
		雑収入	340,271,440
		教育活動収入計	11,799,382,875
	事業支出の活動部	人件費	6,063,754,917
		教育研究経費	4,966,569,757
管理経費		906,334,839	
教育活動支出計		11,936,659,513	
教育活動収支差額		△ 137,276,638	
教育活動外収支	事業収入の活動部	受取利息・配当金	42,594,195
		その他の教育活動外収入	3,012,453
		教育活動外収入計	45,606,648
	事業支出の活動部	借入金等利息	46,905,313
		その他の教育活動外支出	2,998
		教育活動外支出計	46,908,311
教育活動外収支差額		△ 1,301,663	
経常収支差額		△ 138,578,301	

【教育活動収支の部】

<部門比率>

- ・学生生徒等納付金に占める各部門の割合は、通学課程86.3% 通信教育課程13.4% 附属こども園0.3%。
- ・手数料に占める各部門の割合は、通学課程65.3% 通信教育課程34.2% 附属こども園0.5%。

<構成比率>

- ・学生生徒等納付金が経常収入に占める割合は74.4%(昨年度は79.4%)。
- ・人件費が経常収入に占める割合は51.2%(昨年度は53.0%)。
- ・教育研究経費が経常収入に占める割合は41.9%(昨年度は36.9%)。

※経常収入＝教育活動収入+教育活動外収入

<その他>

- ・寄付金は、佛教大学未来支援寄付金の奨学金と課外活動寄付金、企業等からの受配者指定寄付金および教育後援会、同窓会、浄土宗からの寄付金。
- ・経常費等補助金は、国・地方公共団体等の交付金。

【特別収支の部】

<その他の特別収入>

- ・施設設備寄付金22,958,520円。佛教大学未来支援寄付金の施設設備寄付金、二条ヶ坪 2号館礼拝室設置寄付金および教育後援会からの寄付金。
- ・施設設備補助金1,726,000円。京都市太陽光発電設備補助金。

<その他の特別支出>

- ・過年度修正額451,384,901円。学校法人会計基準改正による賞与引当金等。
- 基本金組入額は、教育施設拡充引当特定資産の組入のほか、建築工事、施設設備、教育研究用機器備品、図書等の購入を含む。

学校法人佛教教育学園 貸借対照表（2026年3月31日）

当該年度末の資産、負債、正味財産の状態を表すものです。（単位：円）

資産の部	
科目	本年度末
固定資産	117,405,611,065
有形固定資産	91,749,128,697
土地	44,353,560,912
建物・構築物	39,163,103,874
教育研究用機器備品	1,384,911,938
管理用機器備品	189,027,812
図書	6,335,857,584
その他	322,666,577
特定資産	23,754,691,475
第 2 号基本金引当特定資産	7,443,900,000
第 3 号基本金引当特定資産	212,220,000
第 4 号基本金引当特定資産	1,152,000,000
その他	14,946,571,475
その他の固定資産	1,901,790,893
流動資産	10,611,349,109
現金預金	10,045,581,394
その他	565,767,715
資産の部合計	128,016,960,174

特別収支	科目		決算
	事業収入の部	資産処分差額	314,250
		その他の特別収入	32,422,166
		特別収入計	32,736,416
	事業支出の部	資産処分差額	68,966,806
		その他の特別支出	451,384,901
		特別支出計	520,351,707
	特別収支差額		△ 487,615,291
基本金組入前当年度収支差額		△ 626,193,592	
基本金組入額合計		△ 6,622,586,475	
当年度収支差額		△ 7,248,780,067	
前年度繰越収支差額		△ 14,974,927,483	
翌年度繰越収支差額		△ 22,223,707,550	
(参考)			
事業活動収入計		11,877,725,939	
事業活動支出計		12,503,919,531	

負債の部	
科目	本年度末
固定負債	12,179,404,194
長期借入金	5,864,890,000
退職給与引当金	5,785,947,639
長期未払金	528,566,555
流動負債	4,968,784,319
短期借入金	905,350,000
未払金	879,635,133
前受金	2,310,277,540
預り金	412,870,413
賞与引当金	460,651,233
負債の部合計	17,148,188,513
純資産の部	
科目	本年度末
基本金	132,821,263,979
第 1 号基本金	124,013,143,979
第 2 号基本金	7,443,900,000
第 3 号基本金	212,220,000
第 4 号基本金	1,152,000,000
繰越収支差額	△21,952,492,318
純資産の部合計	110,868,771,661
負債及び純資産の部合計	128,016,960,174

I 図書館

蔵書数

2026年5月1日現在

図書		雑誌	
内国書	927,901冊	内国書	9,358種
外国書	238,413冊	外国書	3,534種
計	1,166,314冊	計	12,892種

年間入館者数

2025年度

学部生	大学院生	通信学生	教職員	卒業生	その他	合計
98,548 人	2,793 人	4,387 人	6,008 人	2,104 人	4,902 人	118,742 人

図書館企画展（図書館1階中央展示ケース）

2025年度

展示月	月例展示名	展示内容
2025年4月～ 6月	ポケット旅図鑑	旅の広がりとともに刊行された数多くの書物の中から、特に持ち運びを前提に作られたものを紹介。旅のおともにふさわしい書物や図会などを展示。 【展示資料】 『懷寶京繪圖』『早引浪花講定宿圖會』『華洛名所記』『京都名所方角』
2025年7月～ 8月	京都・夏の行事（前期・後期）	京都の夏の伝統行事を特集。前期は祇園祭について、後期は五山の送り火についての資料を展示。 【展示資料】 『花洛細見圖』『山鉾之次第：六月七日祇園會』『祇園會山鉾祭禮圖』『山鉾由来記』『都名所圖會』『明治京都指掌之圖』
2025年9月～ 10月	浄土双六	遊びながら仏教について学べる双六、浄土双六とその前身である仏法双六を紹介。 【展示資料】 『證果増進之圖』『善惡雙六極樂道中圖繪』『無量壽國浄土雙六』
2025年11月～ 12月	江戸で生まれたベストセラー（前期・後期）	庶民にとって読書が身近な娯楽となった江戸後期に生まれたベストセラー小説等を展示。 【展示資料】 『道中膝栗毛』『南總里見八犬傳』『修紫田舎源氏』『春色梅兒與美』『金々先生榮花夢』（復刻版）『画本虫撰』（復刻版）『江戸名所圖會』
2026年1月	楽しいお正月	お正月の風景や行事、風習などを紹介した資料を展示。 【展示資料】 『十二月あそび』『拾遺都名所図會』『江戸名所圖會』『民間年中故事要言』
2026年2月～ 3月	梅の花 桜の花（前期・後期）	古来より日本人に親しまれてきた梅と桜。前期は梅の名所、後期は桜の名所が紹介された資料を展示。 【展示資料】 『都名所百景』『都林泉名勝圖會』『紀伊國名所圖會』『月瀬煤溪躑躅川真景』『東京名所愛宕山：山上ヨリ海上みはらし』『淀川兩岸一覽』『尾張名所圖會』『大和名所圖會』

<常設展示貸出>（紫野キャンパス図書館1階入り口展示貸出コーナー）

- ・語学学習、就職活動、学習方法等の電子ブック
- ・教員採用試験過去問シリーズ（教育後援会支援金）

I 法然仏教学研究センター

講演会

2025年度

開催日	開催場所	講師	講題	来場者数
7月5日（土）	常照ホール	若杉 準治 （京都国立博物館名誉館員）	法然上人の伝絵 ー伝法絵から行状絵図へー	78名

全体研究会

定期的に研究発表や各研究班（3部門9班）の活動報告の場を設け、学生・教職員にも公開。

開催日	発表テーマ	発表者
5月30日（金）	法然『無量寿経釈』の「古層」の検討ー流通分「当来之等文」の段落に注目してー	下端 啓介 嘱託研究員
6月27日（金）	珍海浄土教における三界の摂不摂	服部 純啓 嘱託研究員
9月19日（金）	明治期における知恩院と用達組合	坪井 剛 研究員
10月24日（金）	感応思想と『瑞応刪伝』	曾和 義宏 研究員
11月28日（金）	法然諸伝記に見る修験者の諸相ー摂益文と公胤夢告をめぐるー	南 宏信 研究員
1月23日（金）	法然の「三心」解釈についての一考察	齋藤 蒙光 研究員

総合研究所

共同研究 常設研究

「子ども・学校の諸問題に関する研究および社会連携活動」	研究代表 山内 乾史 教育学部教授（2026年4月～）
-----------------------------	-----------------------------

共同研究 プロジェクト研究

「多死社会を見据えた社会的共通資本の向上による地域共生社会の創造を目指した人材育成プログラムの検討」	研究代表 濱吉美穂 看護学部教授（2024年4月～2027年3月）
「タイ貧困層に暮らす障がい児が医療、教育を受けるための評価システムの構築」	研究代表 和智道生 保健医療技術学部講師（2024年4月～2027年3月）
「行者の出現と遊行遍歴による伝播の総合的研究」	研究代表 坪井 剛 仏教学部准教授（2024年4月～2027年3月）

宗教文化ミュージアム

年間企画

展示	2025年度
----	--------

期間	企画名
2025年4月1日（火）～9月19日（金）	平常展示「祈りと祀り、そして地域へ」
2025年10月23日（木）～11月29日（土）	特別展「黒い招き猫 主夜神への願いと想い」
2026年1月19日（月）～3月27日（金）	平常展示「祈りと祀り、そして地域へ」
2025年4月1日（火）～2026年3月27日（金）	京都府立北嵯峨高等学校生物部26年の歩み展

シアター公演	2025年度
--------	--------

開催日	企画名
2026年1月24日（土）	第50回シアター公演「祈り装う花笠踊ー京都の民俗芸能を訪ね歩く」

講演会／シンポジウム	2025年度
------------	--------

開催日	企画名
2025年11月1日（土）	特別展シンポジウム「檀王法林寺と黒い招き猫」

他館との連携・地域貢献活動	2025年度
---------------	--------

名称	内容
京都・大学ミュージアム連携	スタンプラリーへの参加、共同展開催、連携パンフレット作成等のPR活動、スタッフ研修会や情報交換等の交流
京都市内博物館連絡協議会	第29回京都ミュージアムロード参加
京都市立広沢小学校	・総合的な学習の時間（6年生）への協力
京都府立北嵯峨高等学校	・学校運営協議会委員受嘱（貝英幸館長） ・学習成果発表会への臨席、講評
令和7年度地域文化財総合活用推進事業への協力	嵯峨大念佛狂言保存会が当館に寄託している古面（48面）の本格的な調査を実施し、その協力を行った。10月25日には当館にてシンポジウム「嵯峨大念佛狂言 古面の実像を探る」を開催したほか、成果は講演会、市内巡回パネル展、報告書により報告された。
地域とのかかわり	・れんげを摘む会（右京区）運営協力 ・嵯峨菊クラブ（近隣の老人会）見学対応 ・右京区老人クラブ連合会研修会開催協力 など

刊行物	2025年度	年間入館者数	2025年度
紀要	1点	開館日数	入館者数
特別展図録	1点	218 日	1,913 人
シアター公演パンフレット	1点		

外部資金

2025年度

科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）

研究代表者

事業	種目	件数	直接経費(円)	間接経費(円)	合計金額(円)
基金	基盤研究(B)	5	14,500,000	4,350,000	18,850,000
	基盤研究(C)	50	34,900,000	10,470,000	45,370,000
	若手研究	10	4,600,000	1,380,000	5,980,000
	研究活動スタート支援	2	1,900,000	570,000	2,470,000
合計		67	55,900,000	16,770,000	72,670,000

金額は、他大学への分担金を含む交付決定額（前倒し支払請求額を含む）を計上。預金口座の利息は含まない。

研究分担者(他大学等の研究代表者を通じての交付)

事業	種目	件数	直接経費(円)	間接経費(円)	合計金額(円)
補助金	基盤研究(A)	7	860,000	258,000	1,118,000
基金	基盤研究(B)	22	5,135,000	1,540,500	6,675,500
	基盤研究(C)	36	4,368,000	1,310,400	5,678,400
	挑戦的研究(萌芽)	2	500,000	150,000	650,000
合計		67	10,863,000	3,258,900	14,121,900

土地・建物面積

2026年5月1日現在

土地の部

■地域別	(単位：㎡)
紫野校地	37,643.27
岩倉校地	53,424.00
広沢校地	19,346.31
原谷校地	6,834.00
園部校地	362,902.35
二条校地	8,905.00
その他校地	9,629.79 (内借地 2,665.96)
合計	498,684.72

■用途別	(単位：㎡)
校舎等敷地	19,602.95
運動場敷地	212,464.01
寄宿舍敷地	3,992.11 (内借地 2,665.96)
研究所敷地	2,250.80
附属こども園敷地	4,647.68
その他敷地	255,727.17
合計	498,684.72

建物の部

■種別	(単位：㎡)
校舎	99,981.22
(1号館)	20,550.55
(5号館)	5,146.56
(6号館)	4,511.71
(7号館)	6,105.50
(8号館)	3,562.85
(10号館)	1,712.82
(11号館)	5,188.51
(12号館)	3,422.21
(15号館)	3,807.46
図書館(成徳常照館)	10,451.91
礼拝堂(水谷幸正記念館)	936.43
(二条キャンパス1号館)	15,989.38
(二条キャンパス2号館)	18,595.34

体育館(鷹陵館)	8,059.00
鹿溪館	5,612.03
宗教文化ミュージアム(広沢)	3,289.77
セミナーハウス「光照」(岩倉)	1,925.95
クラブハウス・ セミナーハウス「和順」(園部)	1,440.04
寄宿舍	5,445.43
附属こども園	2,581.56
その他	4,850.66
合計	133,185.67

同窓会

佛教大学同窓会には、佛教専門学校時代の同窓会を引き継いだ通学課程卒業生による「佛教大学同窓会」と通信教育課程卒業生による「佛教大学鷹陵同窓会」の2つの組織があり、それぞれ会則に基づいた事業が行われています。近年は、母校の発展に寄与するべく通学・通信の枠を超えて、事業協力が展開されています。また、双方ともに全国に支部が配され、地域に根付いた活動も行われています。

■ 佛教大学同窓会

会 長：伊山喜二
地域支部

会員数：72,428名（2026年5月1日現在 物故者含む）

2026年5月1日現在

47支部	北海道 石川 大阪 徳島 沖縄	青森 福井 兵庫 香川 韓国	秋田 長野 奈良 愛媛 ハワイ	みちのく 岐阜 和歌山 高知 台湾	関東 静岡 鳥取 福岡 ブラジル	埼玉 愛知 出雲 佐賀	千葉 伊勢 石見 長崎	神奈川 伊賀 岡山 熊本	新潟 滋賀 広島 大分	富山 京都 山口 三州
------	-----------------------------	----------------------------	-----------------------------	-------------------------------	------------------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------

■ 佛教大学鷹陵同窓会

会 長：寅屋壽廣
地域支部

会員数：39,677名（2026年5月1日現在 物故者含む）

2026年5月1日現在

53支部	北海道北 茨城 福井 神戸・兵庫 香川 沖縄	北海道東 栃木 山梨 和田山 愛媛 台湾	北海道中央 群馬 長野 奈良 高知	北海道南 埼玉 岐阜 和歌山 福岡	青森 千葉 静岡 鳥取 佐賀	岩手 東京 愛知 島根 長崎	宮城 神奈川 三重 岡山 熊本	秋田 新潟 滋賀 広島 大分	山形 富山 京都 山口 宮崎	福島 石川 大阪 徳島 鹿児島
------	---------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	----------------------------	----------------------------	-----------------------------	----------------------------	----------------------------	-----------------------------

■ 同窓会刊行物

2025年度

会 報：『紫野111号』（発行日 2025年7月25日付） 『紫野112号』（発行日 2026年1月1日付）

■ 主な事業

2025年度

記念品の贈呈	同窓会は卒業記念品、卒業10年記念品 鷹陵同窓会は会費完納者入会記念品
在学生支援	同窓会奨学金（年1回・給付型）、留学生学業支援、学園祭支援、課外活動奨励
ホームカミングデー	2025年11月2日（日）

教育後援会

佛教大学教育後援会は、学部生および別科生の保護者またはそれに代わる者で組織された会で、会則に基づいた事業が行われています。大学と家庭との連絡を緊密にする事業として、本学および各地で教育懇談会を開催。また、大学の教育振興に寄与する事業として、課外活動や学園祭への援助、奨学金など学生生活への支援を中心に展開されています。

■ 佛教大学教育後援会

会 長：八橋秀法

■ 主な事業

教育懇談会

開催内容 2025年 7月19日（土）
2025年10月18日（土）
春学期・秋学期とも対面にて開催。

学生教育の振興

- ・宗教情操教育援助
- ・文化活動援助 賛同いただいた寺院の拝観料、美術館・博物館の入場料の全額または一部を補助

場 所	・知恩院〈方丈庭園〉 ・清涼寺 ・龍安寺〈石庭〉 ・願徳寺 ・常照寺 ・高麗美術館 ・立命館大学 国際平和ミュージアム
-----	--

※その他：京都秋季非公開文化財特別公開拝観料の補助およびキャンパスメンバーズ入会施設（京都国立博物館・奈良国立博物館）の入館料補助を実施。

- ・学生活動援助
- ・就職対策援助

教育後援会奨学金

短期貸付金事業

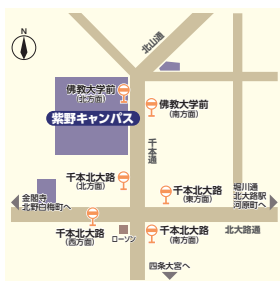
■ 教育後援会刊行物

会 報：『紫峰』入学お祝い号（発行日 2025年4月）
『紫峰133号』（発行日 2025年12月）
『紫峰』卒業・修了お祝い号（発行日 2026年3月）

| キャンパス・附置機関マップ

① 紫野キャンパス

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
Tel : 075-491-2141 (代表・通学課程)
075-491-0239 (通信教育課程)



② 二条キャンパス

〒604-8418 京都市中京区西ノ京東梅尾町7
Tel : 075-491-2141 (代表)



③ 岩倉キャンパス

(グラウンド・セミナーハウス)
〒606-0017
京都市左京区岩倉上蔵町222

④ 広沢キャンパス (グラウンド)

〒616-8306
京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26

⑤ 園部キャンパス

(グラウンド・セミナーハウス)
〒622-0044
京都府南丹市園部町城南町大領1-1

⑥ オープンラーニングセンター

〒603-8301
京都市北区紫野北花ノ坊町96
佛教大学紫野キャンパス15号館
Tel : 075-366-5511

⑦ 臨床心理学研究センター

〒603-8301
京都市北区紫野北花ノ坊町96
佛教大学紫野キャンパス15号館
Tel : 075-491-2141 (代表)

⑧ 宗教文化ミュージアム

(広沢キャンパス内)
〒616-8306
京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26
Tel : 075-873-3115

⑨ 附属こども園 (広沢キャンパス内)

〒616-8306
京都市右京区嵯峨広沢西裏町36-1
Tel : 075-872-5327

佛教大学 公式 SNS



公式 X
アカウント名:
@bukkyo_univ



公式 Instagram
アカウント名:
bukkyouniversity



<https://www.bukkyo-u.ac.jp/>

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96 Tel : 075-491-2141 (代表)

編集・発行: 学長室 入学・広報課 発行日: 2026 年 7 月 1 日

